

教育研究業績 I : 研究活動

令和 4 年 8 月 31 日

氏名 石川 清 印

研究分野		研究内容のキーワード			
麻酔学、集中治療医学、救急医学、災害医療、国際救援、コーチング		麻酔、集中治療、救急医療、災害医療、国際救援、コーチング			
研究業績等に関する事項					
No.	著書、学術論文等の名称	単・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)					
1	手術中の看護 (1) 青地修編：手術看護研修コース	単著	昭和55年	メディカルサイエンスセンター	(概要) ディカルサイエンスセンターにて、術中の看護 (1) 青地修編：手術看護研修コースについて執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て pp1-94 (著者名) 石川清
2	手術中の看護 青地修編：同手術期看護研修	単著	昭和63年	メディカ出版	(概要) メディカ出版にて、手術中の看護 青地修編：同手術期看護研修について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て p p 103-158 (著者名) 石川清
3	Closed-loop arterial pressure control system. "Intensive and Critical Care Medicine "ed. by Aochi O, Amaha K, Takeshita H	共著	平成2年	Elsevier Science Publishers	(概要) Elsevier Science Publishersにて、Closed-loop arterial pressure control system. "Intensive and Critical Care Medicine "ed. by Aochi O, Amaha K, Takeshita H について執筆された書籍である。 (担当部分) 全て B.V. 1326 (著者名) Ishikawa K, 他2名
4	静脈内点滴注射法 (静脈留置針、側管注、速度なども含む)	単著	平成5年	文光堂 図解日常診療手技ガイド	(概要) 文光堂 図解日常診療手技ガイドにて、静脈内点滴注射法 (静脈留置針、側管注、速度なども含む) について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て pp17-28 (著者名) 石川清
5	肺切除・気道再建術後の一般的管理	単著	平成7年	秀潤社 クリティカルケア・マニュアル	(概要) 秀潤社 クリティカルケア・マニュアルにて、肺切除・気道再建術後の一般的管理について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て p p 304-306 (著者名) 石川清
6	肺切除・気道再建術後の合併症管理	単著	平成7年	秀潤社 クリティカルケア・マニュアル	(概要) 秀潤社 クリティカルケア・マニュアルにて、肺切除・気道再建術後の合併症管理について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て pp307-308 (著者名) 石川清
7	Newport E100A, Newport E200	単著	平成7年	秀潤社 新版人工呼吸療法	(概要) Newportベンチレータ(ニューポート・メディカル・インスツルメント社:米国)は、余分な機能よりも基本性能を充実、簡単な操作性と呼吸仕事量の軽減を基本理念とする。E100A, E100i, E150, E200の特徴、問題点を解説した。E200は患者の呼吸努力に鋭敏に追従できる高性能サーボバルブを搭載し、PSV, PCV等を備えている。コンパスVM200はE200専用の換気モニタである。 (本人担当部分) 全て p. 137-144 (著者名) 石川清
8	臓器不全の治療 多臓器不全 釘宮豊城編	共著	平成9年	メジカルビュー社 救急医療と集中治療	(概要) メジカルビュー社 救急医療と集中治療に、臓器不全の治療 多臓器不全について執筆された書籍である。 (本人担当部分) p p 232-240 (著者名) 石川 清、他2名
9	手術室の安全対策、感染対策への気配り 後藤幸生編	単著	平成10年	南山堂 麻酔とその周辺診療	(概要) 南山堂 麻酔とその周辺診療にて、手術室の安全対策、感染対策への気配り 後藤幸生編について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て 4-10 (著者名) 石川 清

10	手術体位について考える 後藤幸生編	単著	平成10年	南山堂 麻酔とその 周辺診療	(概要) 南山堂 麻酔とその周辺診療にて、手術体位について考える 後藤幸生編について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て 42-59 (著者名) 石川清
11	ウィーニング法 天羽敬祐 編集	単著	平成10年	へるす出版 人工呼吸 管理のすべて	(概要) へるす出版 人工呼吸管理のすべてにて、ウィーニング法 天羽敬祐編集について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て 87-90 (著者名) 石川清
12	ウィーニング後の呼吸療法 天羽敬祐編集	単著	平成10年	へるす出版 人工呼吸 管理のすべて	(概要) へるす出版 人工呼吸管理のすべてにて、ウィーニング後の呼吸療法 天羽敬祐編集について執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全て 91-94 (著者名) 石川清
13	救急病院からのアドバイス 『緊急手術に当たって麻酔 を行う上での注意点』	共著	平成14年	メジカルビュー社 整形外科救急外傷 ハンドブック	(概要) メジカルビュー社 整形外科救急外傷ハンドブックにて、救急病院からのアドバイス『緊急手術に当たって麻酔を行う上での注意点』について執筆された書籍である。 (担当部分) 共同研究につき抽出不可能 236-238 (著者名) 寺澤 篤、石川 清
14	老舗日赤も、もっと頑張ら ねば	単著	平成19年	恐るべし名古屋！ その仕掛け人たち 防災リスクマネジ メントWeb編集部	(概要) 恐るべし名古屋！ その仕掛け人たち 防災リスクマネジメントWeb編集部にて、「老舗日赤も、もっと頑張らねば」に付いて執筆された書籍である。 (本人担当部分) 全てP.78-80 (著者名) 石川清
15	レジデントのための救急診 療完全マスターガイド チャートで分かる、救急外 来での徴候別対応のエッセ ンス 石川清、横江正道編	共著	平成21年 1月	文光堂	(概要) 様々な訴えで救急外来にやって来る患者さんたちにどう対処するか?やるべきことをFirst Step, Second Step, Third Step…と段階ごとに解説。さらに各項に思考過程のチャートと鑑別のCheck Listを配し、ポイントを押さえた理解が可能。 (担当部分) 概要の説明を担当 (著者名) 石川 清、横江 正道 他5名
16	病院経営改革に求められる 病院トップのリーダーシ ップ	共著	平成30年 6月	成功する病院経営 (ロギカ書房)	(概要) 「病院経営改革に求められる病院トップのリーダーシップ」のタイトルで以下の内容について執筆した。『まず経営トップが危機を認識し、その責任を明確にした上で職員に状況を周知させる。そして職員全体に聞き意識を醸成し、今後の組織改革の行動推進と痛みへの地ならしをする。改革遂行を円滑に進めるために組織改革を断行し、迅速かつ的確な状況分析のもと、意思決定が確実に現場に届くように組織を調整する。財務的にはコスト管理を固定費・変動費の区別なく行うとともに、事業戦略として患者増と病床利用率増を図るべく、積極的な病棟調整と地域医療連携の強化を推進する』 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
17	逆境を乗り越える組織創り 全学園的なシステミック・ コーチング導入による組織 改革～創立40周年に向け3 位一体の組織を目指して～	共著	令和2年 11月	私学経営	(概要) 近年、コーチングがスポーツ界のみならずビジネス界など様々な業界で注目を集めています。多くの企業・組織が人材開発、リーダーの育成、組織風土改革の目的にコーチングを導入しています。コーチングはティーチング(教える)と異なり、対話を通して気付きを促し本人が持っている能力を引き出すことができます。また、その気付きを自主的な行動につなげ、目標達成をサポートするコミュニケーション・スキルです。コーチングはいま「個人が学ぶスキル」から「組織改革の手段」へとその活用が広がっています。組織改革に不可欠な要素の1つがリーダーシップです。リーダーシップを向上させることでリーダーを起点として組織全体に働きかけ、組織改革を行うことができます。いまの先の見えない不確実な時代に、逆境を乗り越えるための最適な手段と言うことができます。 (著者名) 石川清
18	主体的な職員が育ち定着す る「組織改革」の進め方	共著	令和3年 3月	株式会社ディスカ バー・トウェン ティワン コーチ ングで病院が変 わった ～目に見 えない道具で医師 の働き方改革は進 化する～	(概要) みんなでコーチングに取り組み、主要なキーパーソンを次々に巻き込みながら改革を推進しさらに、このプロジェクト中に、職員満足度向上や医療トラブル件数減など、成果をきちんと測りながら、実績を重ねていったのです。そして、この一連の取り組みを行っていくうちに、院内の各部署で次々に主体性を発揮していく風土も醸成されていきました。このコロナ禍においても、職員それぞれが主体性を発揮すれば、あらゆる難局も乗り越えら タビューを通して詳細に教えていただいたと思います。 (著者名) 石川清
19	人生のやりがい求めて	単著	令和4年 6月	中部経済新聞社	(概要) 人は自分の人生を予め描いた筋書き通りに生きていく人は少ない。色々な人の影響を受けたり、災害や病気など予期せぬ出来事に左右されて、送る人生は変わっていくものだ。ただ、その時々「人生のやりがい」を持って生きていけば、結果として意味のある人生を送ることができると思う。 (著者名) 石川清
No.	(学術論文)				

1	.ICUにおいて長期管理を要した破裂 帯ヘルニアと腹壁破裂の2例	共著	昭和55年	ICUとCCU	(概要) 医学図書「ICUとCCU」に、ICUにおいて長期管理を要した破裂 帯ヘルニアと腹壁破裂の2例について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 4 (2) : 137-144 (著者名) 山本喜久子、明石 学、中村不二雄、石川 漘、他1名
2	ICUで管理したカルチノイド症候群の1例	共著	昭和56年	ICUとCCU	(概要) 医学図書「ICUとCCU」に、ICUで管理したカルチノイド症候群の1例について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 5 (9) : 837-843 (著書名) 中西拓郎、石川 漘、他3名
3	Whole-lung lavage法のテクニックに関する分類法と洗浄効率・安全面からの検討	共著	昭和56年 1月	麻酔	(概要) 「要旨」いわゆるunilateral whole-lung lavageを6症例17回の肺洗浄で試み、今までなされていないテクニック上の分類法を呈示し、それぞれの優劣を洗浄効率、安全面から検討した (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 31 (1) : 19-28 (著者名) 後藤幸生、明石学、石川清、中村不二雄、清田豊秋、小川雄之亮、牧紀衛
4	Bird Mark8によるhigh Frequency Jet Ventilation	共著	昭和57年	臨床麻酔	(概要) 医学図書「臨床麻酔」に、Bird Mark8によるhigh Frequency Jet Ventilationについて掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 6 (8) : 963-968 (著者名) 宮野英範、八田 誠、平出 香、石川 漘、他1名
5	人工呼吸患者の長期鎮静を目的としたアルテシンの持続注入法	共著	昭和58年 4月	ICUとCCU	(概要) ICUで気管内そう管を必要とした124例の呼吸不全患者の鎮静を目的として、アルテシン持続注入法を行った。至適鎮静レベルまでの導入所用時間は2.5分、投与量0.032ml/kgであり、同レベル維持には0.095ml/kg/時間を要した。総投与時間は平均83.5時間、総投与量は平均379mlであった。投与中止後覚せい時間平均16.2分であった。重とく副作用はなかった。 (本人担当部分) 全て 7 (4) : 381-388 (著者名) 石川 漘、他1名
6	院内救急蘇生の実際	共著	昭和59年 5月	蘇生 (日本蘇生学会誌)	(概要) 今回われわれは、名古屋市立大学麻酔科、名古屋第II日赤ICUの2施設における過去5年間の院内CPR症例を集計し、問題点を検討してみた (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 : 120-121 (著書名) 高田宗明、的場宏江、高須昭彦、石川漘、清田豊秋、高野英範、青地修
7	セデスA中毒により重症肝不全、DIC、腎不全を合併した症例	共著	昭和59年 7月	現代医学	(概要) 鎮痛下熱作用を有するアセトアミノフェンを主成分とするセデスA錠を大量服用し、中毒症状を呈した患者(男、18歳)の集中治療について述べた。本患者は、重症肝不全、肝性脳症、じん不全等の症状を合併しており、集中管理治療に総力をあげて、合併症に対する早期治療、呼吸循環を含めた全身管理および積極的な血液浄化法により救命し得た。本中毒症には、きつ抗薬アセチルシステイン早期投与がすすめられる。 (本人担当部分) 全て 33 (1) : 95-100 (著者名) 石川 漘、他5名
8	複合臓器不全 (MOF) に対する高張除水療法	共著	昭和60年 8月	外科治療	(概要) 医学図書「外科治療」に、複合臓器不全 (MOF) に対する高張除水療法を掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 53 (8) : 129-135 (著者名) 宮野英範、中村不二雄、石川 漘、他3名
9	新組成アミノ酸輸液TA-3712Xの臨床的検討	共著	昭和61年 6月	新薬と臨床	(概要) 今回、我々は従来のアミノ酸組成に比べ分岐鎖アミノ酸 (ロイシン、イソロイシン、バリン) を高濃度 (31%) に含有する新アミノ酸輸液TA-3712Xの臨床使用経験を得たので報告する。「II対象および方法」対象は表1に示す如く、頭部外傷などで本院の集中治療室 (I. C. U.) に緊急入院した患者で、意識障害のため経口栄養補給が不能な症例の5例であった。性別は男性3名、女性2名であった。 (本人担当部分) 全て 35 (6) : 21-25 (著書名) 石川漘、中川隆、中村不二雄、早川潔、間瀬則文、清田豊秋
10	ハロセン肝障害に及ぼすシメチジン、N-アセチルシステイン (NAC) およびα-トコフェロールの肝障害抑制効果に関する実験的研究	単著	昭和63年	名市大医学会雑誌	(概要) ラットを用いてフェノバルビタール(PB)による前処置後、低酸素下でハロセンを吸入させて実験的ハロセン肝障害モデルを作成し、シメチジン(I)、N-アセチルシステイン(NAC)、α-トコフェロール(II)を投与した。肝障害発生にはPB前処置が必要で、I、NAC、IIの投与にてそれぞれPB誘発ハロセン肝障害抑制作用を認めた。肝障害発生機序として嫌氣的還元反応で生じる中間代謝産物、フリーラジカルによる肝毒性の関与が重要であることが示唆された。 39 (1) : 141-159 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 漘
11	世界の手術室 : Toronto General Hospital (カナダ)	単著	昭和63年	オペナーシング	(概要) オペナーシング (雑誌) に、世界の手術室 : Toronto General Hospital (カナダ) を掲載された。 (本人担当部分) 全て 3 (1) : 4-5 (著者名) 石川 漘

12	特集：大動脈内バルーン・パンピング (IABP) の現状と検討 IABP施行時の副作用 (事故と合併症) について	単著	昭和64年	ICUとCCU	(概要) 医学図書「ICUとCCU」に、特集：大動脈内バルーン・パンピング (IABP) の現状と検討 IABP施行時の副作用 (事故と合併症) について掲載された。 (本人担当部分) 全て 13(11):991-1001 (著者名) 石川 漣
13	集中治療と終末期医療 ー入院医療ではー	単著	昭和64年	平成元年度 (第6回) 「生命と倫理を考える」シンポジウム編集集	(概要) シンポジウム編集集に、集中治療と終末期医療 ー入院医療ではーについて掲載された。 (本人担当部分) 全て P.14-21 (著者名) 石川 漣
14	特集：肺血管透過性の亢進とは何か 肺血管透過性亢進時の治療・対策	単著	昭和65年	ICUとCCU	(概要) 医学図書「ICUとCCU」に、特集：肺血管透過性の亢進とは何か 肺血管透過性亢進時の治療・対策について掲載された。 (本人担当部分) 全て 14(4):313-323 (著者名) 石川 漣
15	ラリンジアルマスク挿入時の循環動態に及ぼす影響の検討	共著	平成2年5月	臨床麻酔	(概要) 最近、全身麻酔中の呼吸管理に臨床応用されるようになったラリンジアルマスクは、口腔より盲目的に挿入して、喉頭全体を覆うように工夫されたカフによって気道を確保する新しいタイプのエアウェイで、気管内に挿入されないために挿入操作に伴う循環変動はきわめて少ないものと考えられる。そこで今回、成人の定期手術症例を対象にサイアミラルで麻酔導入を行い、ラリンジアルマスクの挿入による気道確保法と循環変動を抑える目的でフェンタニール、リドカイン、ラベタノール、プロプラノロールの各薬剤併用の気管内挿管による気道確保法との循環動態に与える影響を比較検討したので報告する。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 40(5):839-839 (著者名) 棚橋貞哉、間瀬則文、石川漣、伊藤彰師、石川茂樹、青地修、高須宏江
16	セボフルレン麻酔におけるブプレノルフィン併用の効果	共著	平成2年12月	臨床麻酔	(概要) ASA I~IIの定期手術患者28例を、酸素・笑気・セボフルノン(S)麻酔によるS単独麻酔群(GOS群)14例(男女各7例、平均60.1歳)とブプレノルフィン(B)を併用したB併用群(GOSB群)14例(男女各7例、平均48.6歳)に分けて効果を検討した。術中平均S濃度はGOS群2.9±0.7%に比べGOSB群は1.9±0.5%と有意に低下し、術後の創痛緩和効果を認めた。GOSB群のバランス麻酔が安全で有効なことを考察した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 14(12):1683-1686 (著者名) 大堀 久、石川 漣、他4名
17	特集：呼吸管理中の鎮静ー我々の施設ではこう考え、こうやっているー	共著	平成2年7月	ICUとCCU	(概要) 心臓手術や開胸手術など、大手術後に呼吸管理を必要とする症例の鎮痛鎮静を図る目的には、モルフィンの微量持続点滴法を用いている。本法では間歇投与法より安定した鎮痛鎮静レベルが得られ、投与量も約30%減少させることが可能となる。鎮痛を必要としない非術後症例、あるいは硬膜外モルフィン投与により十分な鎮痛が得られる術後症例に対する呼吸管理中の鎮静に対しては、ベンゾジアゼピン系鎮静剤であるミダゾラムの微量持続点滴法を用いている。本剤は作用発現が早い、作用時間が短い、連続投与による蓄積がなく調節性に富む、強い健忘作用を有する等の多くの利点を有するため、持続投与法により安定した鎮静レベルを維持することが可能である。モルフィン、ミダゾラムあるいは両剤併用の持続投与による鎮静法は、ナースおよび患者自身の評価でも優れており、特に鎮静の評価として最も重要と思われるICU退室後の患者インタビューでも良好な評価が得られている。 (本人担当部分) 全て 14(7):623-629 (著者名) 石川漣、安藤浩、笹野寛、間瀬則文、花村泰範、津田喬子
18	Bronchodilating effect of inhaled or orally administered calcium channel blocking agents on Methacholin-induced bronchoconstriction.	共著	平成2年	Can J Anaesth	(概要) 「Can J Anaesth」に、Bronchodilating effect of inhaled or orally administered calcium channel blocking agents on Methacholin-induced bronchoconstriction. について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 37(4) (著者名) T Tsuda, M Takeuchi, K Ishikawa, 他3名
19	産科救急蘇生ABC (特に出血性ショックの場合)	共著	平成2年11月	周産期医学	(概要) 周産期医学に、産科救急蘇生ABC (特に出血性ショックの場合) について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 29(11):1573-1577 (著者名) 津田喬子、八田 誠、西田 修、石川 漣
20	心原性呼吸不全の管理についての検討	共著	平成3年8月	ICUとCCU	(概要) 心原性呼吸不全のためICUに入室した72名の患者について、その呼吸管理法および水分バランスの面からretrospectiveな検討を行った。酸素投与、CPAP、機械的換気など病態に応じた呼吸管理を行い、72例中64例を救命でき、そのうち47例は4日以内にICUを軽快退室した。負の累積水分バランスによりPaO ₂ /F _I O ₂ 比は明らかな改善傾向が認められ、安定した循環動態も維持した。心原性呼吸不全症例では、呼吸循環の悪循環を形成するため、これを絶つための補助手段として呼吸管理は重要である。CPAP、特にマスクCPAPは酸素投与と人工呼吸のギャップを埋める呼吸補助手段として有用であり、重症例では積極的な機械的換気も不可欠である。また本呼吸不全の治療上、水分バランスを負に保つことは重要な意味をもつが、機械的換気を始めとする適切な呼吸管理による心機能改善が利尿、負の水分バランス維持の点でも好影響を与える。 (本人担当部分) 全て 15(8):859-866 (著者名) 石川 漣、他5名

21	集中治療とモニタリング	共著	平成3年 7月	外科治療	(概要) 雑誌「外科治療」に、集中治療とモニタリングについて掲載された。 (本人担当部分) 全て 65(1) : 86-94 (著者名) 石川 清、他1名
22	麻薬点滴静注による術後鎮痛法	共著	平成3年	オペナーシング	(概要) 雑誌オペナーシングに、麻薬点滴静注による術後鎮痛法について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 16(3) : 36-42 (著者名) 馬淵則文、角谷信子、石川 清
23	特集：気道確保—我々の施設ではこう考えこのようにやっている—	共著	平成3年	ICUとCCU	(概要) 医学雑誌 ICUとCCUに、集：気道確保—我々の施設ではこう考えこのようにやっている—について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 15(7) : 699-703 (著者名) 安藤 浩、石川 清、他1名
24	特集：ICU離脱後のQuality of Life 心停止後心拍再開した患者のQuality of Life	共著	平成3年	ICUとCCU	(概要) 近年、救急医療体制の整備、救急蘇生法の技術の進歩あるいは普及に伴い、心停止をきたした患者の多くが自己循環を回復するようになった。これに伴い心停止後心拍再開した患者(蘇生後患者)は近年増加する傾向にある。心肺蘇生の成功にも拘わらず、これらの患者は神経学的後遺症を残す頻度が高く、医学的にも社会的にも大きな問題となりつつある。本来、心肺蘇生の成功は、心肺機能や脳機能の回復ばかりではなくQuality of Life(QOL)をも含んだ包括的なものでなければならない。QOLの評価には種々の方法が試みられているが、中枢神経障害を合併する頻度が高い蘇生後患者の評価は難しい。蘇生後患者のQOLは他の疾患の患者のQOLに比較すると低い場合が多い。脳死や植物状態となった患者のQOLを考えるにあたっては尊厳死、安楽死あるいはリビングウィルといった生命倫理の観点からの判断も必要である。 (本人担当部分) 全て 15(9) : 917-924 (著者名) 石川 清、他1名
25	ウィーニングは何を目標にどのように進めるか 酸素消費量からの検討	共著	平成3年	人工呼吸	(概要) 雑誌「人工呼吸」に、ウィーニングは何を目標にどのように進めるか 酸素消費量からの検討について掲載された。 (本人担当部分) 全て 8-2 : 165 (著者名) 石川 清、他1名
26	IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの一例	共著	平成3年 4月	麻酔	(概要) IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの一例について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 40(4) : 658-658 (著者名) 田淵昭彦、石川清、安藤浩、角谷信子、中込昌子、青地修
27	IABP作動中バルーン破裂を起こした一症例	共著	平成3年	臨床麻酔	(概要) 1歳男性の症例で、僧帽弁置換術と左房血栓除去術を施行中に血圧の維持が困難となりIABPを装着した。血圧の制御は良好に行え循環動態は改善したが、両下肢末梢は冷たく、44時間後には両足背動脈拍動触知不能となった。尿量が減少し腹部緊満傾向が生じ、ヘリウム漏れ、血液がバルーンチャンパー内に認められるようになり、全身状態が悪化し75時間後に死亡した。 (本人担当部分) 全て 11(5) : 660-662 (著者名) 石川 清、他5名
28	ICUにおける慢性呼吸不全の急性増悪の管理	共著	平成3年	日本臨床麻酔学会誌	(概要) CUに収容した、185名の慢性呼吸不全患者の急性増悪の管理についてretrospectiveに調査した。その結果、これらの患者では、入退室を繰り返す、在室日数が長い、原疾患として肺結核が多い。急性増悪は冬と夏に多く、死亡率は春と秋の入室者に高い。入室時に意識障害の認められた症例では死亡率が高かった。全体の死亡率は10.8%であり、ミニ気管切開(トラヘルパー)の導入により若干の死亡率の低下と在室日数の大幅な減少が得られた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 11(2) : 219-225 (著者名) 西田 修、高須宏江、伊藤彰師、栗山康介、八田 誠、石川 清
29	Continuous measurements of V02, VC02 and RQ as a predictor of successful weaning from mechanical ventilation	共著	平成4年	Clinical Intensive Care Supple	(概要) Continuous measurements of V02, VC02 and RQ as a predictor of successful weaning from mechanical ventilationについて掲載された。 (本人担当部分) 全て 3(2) : 78 (著者名) K. Ishikawa、他3名
30	新しい呼吸管理とその実際 Weaningの進め方	共著	平成4年	救急医学	(概要) 雑誌「救急医学」に、新しい呼吸管理とその実際 Weaningの進め方について掲載された。 (本人担当部分) 全て 16 : 1067-1070 (著者名) 石川 清、他1名
31	呼吸機能のモニタリング	共著	平成4年	ICUとCCU	(概要) 医学雑誌「ICUとCCU」に、呼吸機能のモニタリングについて掲載された。 (本人担当部分) 全て 16(9) : 825-831 (著者名) 石川 清、他1名
32	Vibrio vulnificus感染症	共著	平成4年	皮膚病診療	(概要) 雑誌「皮膚病診療」に、Vibrio vulnificus感染症について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 14(2) : 135-138 (著者名) 笠松正憲、春原昌代、辻 卓夫、亀島信利、石川 清

33	体外循環下心臓手術におけるチオペンタール投与の末梢循環に及ぼす影響	共著	平成4年	麻酔	(概要) 成人待機的心臓手術28例を対象に、標記について検討した。末梢循環の良否の指標として中枢温変化に対する末梢温変化の遅れおよび基礎超過(BE)を用いた。チオペンタール(T)投与群では非投与群に比べ中枢温変化に対する末梢温変化の遅れは有意に小さかった。非投与群ではBEがマイナスに傾いたが、投与群では正常範囲内に保たれた。T投与群では術後のカテコラミン必要量が有意に少なかった。T投与は体外循環中の末梢循環保持に有用であり、術後の心機能に対しても好影響を及ぼすものと考えられた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 41 (1) : 59-66 (著者名) 伊藤彰師、田中明美、荒川もとみ、永田真敏、石川 清、他1名
34	患者監視装置について —新しい医療器機の具備すべき条件—	共著	平成5年	保健通信	(概要) 保健通信に患者監視装置について —新しい医療器機の具備すべき条件—について掲載された。 (本人担当部分) 全て 8 : 47-50 (著者名) 石川 清、他2名
35	メチルプレドニゾロンによるパルス療法にて呼吸循環動態の著明な改善をみた上顎癌術後敗血症の一例	共著	平成5年	SCOPE	(概要) SCOPEに、メチルプレドニゾロンによるパルス療法にて呼吸循環動態の著明な改善をみた上顎癌術後敗血症の一例について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 32 (4) : 22-23 (著者名) 石田 進、高木宏幸、岩田 健、薊 隆文、田淵昭彦、石川 清、他1名
36	市中病院の救急医療におけるICUの果たす役割	共著	平成6年	ICUとCCU	(概要) 医学雑誌「ICUとCCU」に、市中病院の救急医療におけるICUの果たす役割について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 18 : 1151-1157 (著者名) 高須宏江、安藤 浩、湯本正人、有馬 一、岡本江里砂、石川 清
37	集中治療部における最近の医療機器	単著	平成6年	学会新報 第21回日本集中治療医学会総会記念号	(概要) 日本集中治療医学会に、集中治療部における最近の医療機器について掲載された。 (本人担当部分) 全て 15(3) : 7-16 (著者名) 石川 清
38	ベッドサイドに求められるモニター 特殊モニター1 (圧量曲線、P0.1)	共著	平成7年	診断と治療	(概要) 圧量曲線(P-Vカーブ)は換気によって生じた気道内圧と肺気量との関係を表す。気道閉塞圧(P0.1)とは、自発呼吸下で安静呼吸位から吸気が始まる直前に気道を閉塞した時、吸気開始0.1秒後に発生する気道内陰圧の絶対値を指す。P0.1は呼吸中枢機能すなわち呼吸ドライブの具体的な指標として最近その重要性が認識されてきた。P0.1が高値を示せば呼吸ドライブが増加したことを意味し、人工呼吸からのウィーニングの指標として特に有用性が指摘されている。 (本人担当部分) 全て 83 (6) : 1031-1037 (著者名) 石川 清、他1名
39	阪神大震災の日赤医療救護活動に参加して 第13回救急医療講演会	単著	平成7年	愛知医報	(概要) 愛知県医師会の愛知医報に、「阪神大震災の日赤医療救護活動に参加して」について講演した。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
40	市中病院と大学病院における高齢者集中治療の現況と問題点	共著	平成8年10月	ICUとCCU	(概要) 1993年1月～1994年8月までの20か月間の大学病院、及び市中基幹病院の高齢者ICUにおける75歳以上の高齢者集中治療の現況を既定的に調べ、高齢者群と非高齢者群を比べた。2施設間では対象患者が異なり高齢者集中治療の現況には差がみられた。近年高齢者の割合は増加している(市大10.8%、日赤15.6%)。高齢者群は非高齢者群に比較しICU内死亡率も高く、短期予後も悪かった。高齢者群では不全臓器数の増加により死亡率の上昇が認められた。高齢者群にはいわゆる無蘇生症例が多かった。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 20 (10) : 853-861 (著者名) 棚橋順治、石川清、湯本正人、高須宏江、安藤浩、勝屋弘忠
41	術中原性異常高カルシウム血症をきたした総肺静脈灌流異常症根治術の一例	共著	平成8年	臨床麻酔	(概要) 循環薬物を準備する際、溶解液として誤って塩化カルシウムを用い、その循環薬物を大量に投与した結果、術中異常高カルシウム血症をきたした総肺静脈灌流異常症根治術の1例を経験した。症例は生後15日の女児で、医原性高カルシウム血症により、カルシウム剤による種々の異常な病態が引き起こされた。まず、重篤な循環動態が起こり、心臓が硬くなり、心筋虚血が起こっていたと考えられた。その他にも高度の徐脈が認められた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 20 (9) : 1372-1374 (著者名) 小幡京子、石川清、他4名
42	病院運営面からみた集中治療の重症度評価	共著	平成9年	集中治療	(概要) 病院運営面からみた集中治療の重症度評価について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 9 (1) : 61-71 (著者名) 有馬 一、杉本憲治、棚橋順治、石川 清

43	縦隔気腫・皮下気腫を合併するもイソフルラン吸入が著効した喘息重責発作の一例	共著	平成9年	救急医学	(概要) 症例は5歳女児で、気管支ぜん息発作による呼吸困難を主訴とした。意識が混濁し、口唇チアノーゼおよび重篤な呼吸性アシドーシスを呈していた。ICUにおける内科的治療や許容高炭酸血症に基づく呼吸管理に抵抗して重篤な圧損傷を合併したため、イソフルラン吸入を開始した。イソフルラン吸入開始30分後より気道内圧が徐々に低下し二酸化炭素分圧も低下し、その後も順調に下降した。吸入開始23時間後には聴診上ぜん鳴は消失し、自発呼吸でも良好な換気と酸素化が得られた。また、イソフルランによる副作用もなく、経過は良好である。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 21(8):980-983 (著者名) 勝野雅央、若山江里砂、棚橋順治、杉本憲治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
44	集中治療の医療費の内訳と医療費に影響を及ぼす因子の検討	共著	平成10年5月	ICUとCCU	(概要) 年間のICU入室患者689人を対象にICU医療費とその内訳を調査し、影響を及ぼす因子についてを検討した。その結果、平均年齢は58歳、平均在室日数は4.7日、1人当たりの医療費は156万円であり、内訳は入院費が24万円、投薬・注射が30万円、検査・X線が12万円、処置・手術が89万円などであった。なお、ICU医療費は在室日数と有意な相関を認め、なかでも入院費、投薬・注射、検査・X線と在室日数において相関が認められた。以上の所見より、処置・手術の費用が高く、手術の有無がICU医療費に大きく関与しているものと考えられた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 22(5):359-365 (著者名) 有馬 一、杉本憲治、田中啓介、平手博之、山田富雄、石川 清
45	寒冷凝集素症合併Marfan症候群に対する低体温下Bentall+弓部人工血管置換術の麻酔および周術期管理の経験	共著	平成10年	日臨麻会誌	(概要) 寒冷凝集素症合併Marfan症候群に対する低体温下Bentall+弓部人工血管置換術の麻酔および周術期管理の経験について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 18:79-82 (著者名) 杉本憲治、真野るみ子、山田富雄、平手博之、田中啓介、石川 清
46	心原性ショック、頭蓋内出血を合併した神経性食思不振症の1例	共著	平成10年9月	臨床麻酔	(概要) 症例は、女19歳で神経性食思不振症から心原性ショックを来し、経皮心肺担体(I)を導入した。I開始後循環は維持できたが、貧血が進行し、循環維持に大量の輸液負荷が必要であった。その後、血管損傷で開腹止血術を行い、循環はIで維持できたが、Iからの離脱は困難であった。術後意識は回復せず、頭蓋内出血が認められた。手術適応はなく、徐々に循環が不安定となり、死亡した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 22:93-94 (著者名) 杉本憲治、真野るみ子、山田富雄、平手博之、田中啓介、石川 清
47	骨セメント使用により術中心停止を来たしpercutaneous cardio-pulmonary support(PCPS)にて救命しえた大腿骨頸部骨折の一症例	共著	平成10年9月	麻酔	(概要) 症例は、女65歳で、大腿骨頸部骨折の人工骨頭置換術に使用した骨セメントにより心停止を来し、長時間の心肺蘇生術でも心拍が再開しないため、PCPSを導入した。心臓マッサージにより肝損傷、腹膜内出血を合併したが、開腹止血術を行い、循環動態は安定化した。大量輸血に起因する一過性の肺酸化能の低下を認めたが、徐々に改善した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 p.47 (著者名) 杉本憲治、真野るみ子、山田富雄、平手博之、田中啓介、石川 清
48	東山ビルガス爆発事故に対する当救命救急センターの対応	共著	平成10年	日本臨床救急医学会	(概要) 平成9年9月11日14時10分名古屋千種区の地下鉄東山公園駅地上のビル1階で改装工事中であったスーパーマーケットよりガス爆発事故発生。当院も名古屋市消防局からの患者収容要請を受け、最も近隣の救命救急センターであることより相当数の患者が運ばれるものと想定し患者収容・重傷度判定・治療に対応する体制をとった。第一報から30分後より10分間隔で救急車が到着し、約1時間のうちに16名の患者受入を行った。また医師現場派遣要請に対しても3名の医師を派遣した。【結果】総受傷者は37名。当院収容の16名入院を要した患者は7名。重傷は4名のうち1名は熱傷範囲が広く気道熱傷も疑われたためICU入室。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 横江正道、塚川敏行、鈴木伸行、石川清
49	集中治療における事故防止—危険予知システムの確立とチェックリスト作成の試み—	共著	平成12年	ICUとCCU	(概要) 組織的な医療事故防止対策の一環として、あらかじめ起きうる事故を予測し、予防的に対応するための危険予知システムの確立、すなわち、事故の起きやすい具体的な医療行為をマニュアル化し、それに沿ったチェックリストを作成した。チェックリストは一覧可能で実践的なカード型のデータベースとし、事故の起こりやすいと思われる医療行為を書き上げ、医員全員で分担、具体的な危機的事象名とその予防、予見、起こったときの対処などをまとめた。作成により医員全体の危機管理に対する関心を高めることができ、それまで見過ごされてきたニアミスの対処もされ始めた。現在、製本化や携帯化、イントラネット上での閲覧などチェックリストの使いやすい環境の整備と、アクシデント・インシデントレポート推進によるカンファレンスや医局会での情報の共有化、院内ワークショップ開催による職員の教育と啓蒙をはかるなど問題意識持続のための取り組みをしている。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 24(11):811-817 (著者名) 安田邦光、杉本憲治、林 和敏、石田 進、高須宏江、石川 清
50	異所性褐色細胞腫によるカテコラミン心筋症の一例—PCPS、IABPを用いた救命例—	共著	平成13年	日本救急医学会雑誌	(概要) 異所性褐色細胞腫によるカテコラミン心筋症の一例—PCPS、IABPを用いた救命例—について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 4:36-40 (著者名) 梶田裕加、杉本憲治、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、林 和敏、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清

51	腎性上皮小体機能亢進症(HPT)に対する上皮小体全摘・前腕筋内自家移植術(PTx)の麻酔経験	共著	平成13年	腎と透析 別冊	(概要) 腎性上皮小体機能亢進症(HPT)に対する上皮小体全摘・前腕筋内自家移植術(PTx)の麻酔経験について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 113-115 (著者名) 安田邦光、寺澤 篤、田口弥人、杉本憲治、林 和敏、石川 清
52	誌上抄読会Swan-Ganzカテーテルをめぐる問題	共著	平成13年	臨床麻酔	(概要) 誌上抄読会Swan-Ganzカテーテルをめぐる問題について報告した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 5(11):1735-1740 (著者名) 石田 進、小林 零、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
53	ケニアICRCロビディン病院	単著	平成13年7月	Vitalite	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て 40:3-4 (発表者名) 石川清
54	紛争地での医療活動	単著	平成13年4月	PLASMA	(概要) 紛争地での医療活動について報告した。 (本人担当部分) 全て 4:16-17 (著者名) 石川清
55	名古屋第二赤十字病院救命救急センターにおける救急外来部門の現状	共著	平成13年	現代医学	(概要) 平成12年の標記救急センターにおける来院患者数は36209人で、そのうち8483人(23.4%)が入院した。救急車は4887台来院し、そのうち2292人(46.9%)が入院した。このうち心肺停止患者は210人であった。救急入院のうち、救命センター部門に入院した重症者(3次救急患者)は2429人(6.7%)であった。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 48(3):597-600 (著者名) 鈴木伸行、塚川敏行、小林龍彦、石川 清
56	戦傷外科病院での国際医療救援活動-ICRC(赤十字国際委員会)戦傷外科病院にて麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して-	共著	平成14年1月	日本集団災害医学会誌	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
57	戦傷外科病院における国際医療救援活動-麻酔科医としてICRC(赤十字国際委員会)戦傷外科病院にてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して-	共著	平成14年12月	日本集団災害医学会誌	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
58	新救命救急センターでの院内災害訓練(傷病者受け入れ訓練)	共著	平成14年1月	日本集団災害医学会誌	(概要) 2001年7月当院、救命救急センターが完成した。当院は、災害拠点病院としての任務がある。そこで開所早々の9月に院内災害訓練を企画した。今回の目的は、救急救急センターが新しくなり、連絡方法、救急設備配置変更に伴う従来の院内災害マニュアルの見直し、全職員の意識付けを目的とした。企画から試行そして反省点について概要をビデオで供覧する。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 6(3):264-264 (著者名) 井嶋廣子、伊藤安恵、田村秀代、赤塚あさ子、寺西美佐絵、石川佳世子、佐藤公治、鈴木伸行、石川清
59	院内災害訓練(傷病者受け入れ訓練)の企画に関する検討	共著	平成14年1月	日本集団災害医学会誌	(概要) 「目的」有意義な訓練を実施するためにはその企画が最も重要となる。当院で実施した院内災害訓練(傷病者受け入れ訓練)を通してその企画について検討した。「訓練概要」2001年9月26日(水)、地下鉄工事現場で大規模な爆発事故が発生したとの想定災害で、受け入れ傷病者は約30名、訓練参加者は約200名、訓練エリアは当院救命救急センター内とし、時間は午後1時50分~3時30分という訓練を設定した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 6(3)283-283 (著者名) 赤塚あさ子、石川清、佐藤公治、鈴木伸行、伊藤安恵、井嶋廣子、寺西美佐絵
60	イラン南東部地震被災者救援活動に参加して	単著	平成16年9月	昭和区医師会雑誌 VITA	(概要) イラン南東部地震被災者救援活動に参加の報告をした。 (本人担当部分) 全て 43:6-8 (著者名) 石川清
61	Pre-cursor—先駆者—	単著	平成17年10月	ドクターズマガジン	(概要) Pre-cursor—先駆者—について報告した。 (本人担当部分) 全て 71:21-25 (著者名) 石川清

62	過去の大地震は何をわれわれに教えたか？ 阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ島沖地震津波の医療救援活動の経験から	単著	平成17年 10月	愛知医報	(概要) 過去の大地震は何をわれわれに教えたか？ 阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ島沖地震津波の医療救援活動の経験を報告した。 (本人担当部分) 全て 1770 : 11-14 (著者名) 石川清
63	災害被災地におけるプライマリケア 被災地援助に求められるもの	単著	平成17年 8月	Journal of Integrated Medicine	(概要) 災害医療救護活動のタイムスケールについては、次のように考えられる。災害には一定の流れがあり、災害による被害とその救護活動は、予測できないものではなく共通性がある。災害のそれぞれのPhaseに応じて何が一番問題となり、何が必要とされるのかを十分理解していなければならない。Phase0での災害医療の3T、各Phaseでの災害救護の4Rなど被災者のニーズに応じた医療、すなわちタイムスケールに沿った医療救護活動が必要となる。日本赤十字社の災害救護体制、およびプライマリ・ケア領域の医療従事者に望むこと、について示した。 (本人担当部分) 全て 15 (8) : 644-648 (著者名) 石川清
64	スマトラ島沖地震津波災害緊急医療救援活動	単著	平成17年	昭和区医師会雑誌 VITA	(概要) スマトラ島沖地震津波災害緊急医療救援活動について報告した。 (本人担当部分) 全て 44 : 14-19 (著者名) 石川清
65	研修医のための麻酔科ローテイト虎の巻 Editorial: 特集に当たって	単著	平成17年 5月	臨床研修ブラクティス	(概要) E Rで診療を行う上での注意点 ・ 幅広い知識を持つこと・ 技能の向上を図ること・ 患者との関係を良好に保つこと・ 真摯な姿勢で患者さんに接すること・ 常に冷静であること・ 上級医とのコミュニケーションを良くすること・ 経験を重視すること・ 常に落とし穴があることを認識すること (本人担当部分) 全て 2 (5) : 5 (著者名) 石川清
66	研修医のための麻酔科ローテイト虎の巻 1. 麻酔科研修で身につけること	単著	平成17年 5月	臨床研修ブラクティス	(概要) 一般人には、麻酔科医の仕事はただ単に手術患者を眠らせて、痛みをとるだけと思われていることが多い。しかし、実際はそうではなく手術患者の痛みをとるのは麻酔のほんの一部にすぎず、手術患者の全身管理を一手に担っているのが麻酔科医である。バイタルサインとは人間が生きていることを示す最も重要な徴候を言い、これには意識、呼吸、血圧、脈拍、尿量、体温がある。麻酔中には刻々と変動するこれらのバイタルサインを分単位で測定し、その変動の意味を理解し適切に対処する必要がある。麻酔科医の仕事はバイタルサインを見ることで、手術侵襲に対して変動するバイタルサインを安定化させることである。バッグマスク換気、気管挿管、血管確保(中心静脈穿刺)、くも膜下穿刺など、医師として最低限身につけなければならない基本的手技を習得できる。人為的に作りだしたこの異常な状況下での手術患者の危機管理と安全管理は、麻酔科医の担う重要な仕事である。 (本人担当部分) 全て 2 (5) : 6-11 (著者名) 石川清
67	「救急医療完全マスターガイド」吐血の患者さんが来たら	共著	平成17年 5月	臨床研修ブラクティス	(概要) 患者が来たら、まずは、吐血の状況を視診してみる。そのほかの状態を調べる。末梢の脈拍が触知できるかどうかであるが、とう骨動脈できちんと脈拍が触知できれば、血圧は80mmHgは維持されている。触知できるのであれば、リズムをみて、頻脈かどうかを確認する。貧血を確認する。病状が変わっていくこともあるから、身体所見を総合的に評価したうえで今現在の患者の状況を再確認する。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (5) : 93-96 (著者名) 横江正道、石川清
68	「救急医療完全マスターガイド」意識障害の患者さんが来たら	共著	平成17年 6月	臨床研修ブラクティス	(概要) ショック状態かどうかの鑑別が優先である。ショックの評価をしたら、意識状態を評価する。一般的に用いられているのはGCS(Glasgow Coma Scale), JCS(Japan Coma Scale)である。視診・触診・意識評価・問診・情報収集が終わったら、モニタリングを開始し、正確なバイタルサインを測定する。呼吸・循環の再確認は、呼吸障害を伴う意識障害は治療が優先、循環障害を伴う意識障害は鑑別が重要である。 (担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (6) : 98-106 (著者名) 横江正道、石川清
69	「救急医療完全マスターガイド」ショックの患者さんが来たら	共著	平成17年 7月	臨床研修ブラクティス	(概要) ショックの患者では、末梢組織への酸素供給が不十分な状態を代償するため、より大切な臓器により多くの血液を送ろうとして皮膚血管の収縮が生じる。ショックの患者では、パルスオキシメーターはしばしば正確に評価できない。ショックの原因は、循環血流量減少性ショック、心原性ショック、閉塞性ショック、血管拡張性ショック等がある。脊髄ショックは、脊髄損傷の急性期に損傷部位以下の脊髄反射が一過性に消失する現象を指す。脊髄損傷時に生じる末梢血管抵抗の低下、徐脈は神経原性ショックである。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (7) : 126-132 (著者名) 稲田真治、石川清、横江正道
70	「救急医療完全マスターガイド」呼吸困難の患者さんが来たら	共著	平成17年 9月	臨床研修ブラクティス	(概要) 呼吸困難の患者ではショックの時と同様、瞬時に判断し検査・診断・治療に入っていく必要がある。呼吸状態の一瞬での確認、判断、バイタルサインから全身状態の把握、鑑別すべき疾患の考慮、適切な検査の確実な選択と検査結果の評価、原因を見据えた上での初期治療の順に解説した。呼吸困難の場合はまず患者の安定化が求められるので、酸素投与や気道確保に力を注ぐ。死に至る可能性のある疾患を想起して対応していく必要がある。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (8) : 86-96 (著者名) 横江正道、石川清

71	「救急医療完全マスターガイド」胸痛の患者さんが来たら	共著	平成17年 10月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 胸痛を訴える患者が救急外来を受診した場合、今ある状況を冷静に分析する能力が求められる。まず全身状態を一瞬にして確認、判断し、重症感があるかどうかみる。次いでバイタルサインから全身状態を把握する。鑑別疾患を考え、適切な検査を確実に選択し評価する。心筋梗塞、狭心症、胸部血管解離・大動脈りゅう、気胸、胸膜炎などへの初期治療を述べた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (10) : 97-105 (著者名) 塚川敏行、石川 清
72	「救急医療完全マスターガイド」上腹部痛の患者さんが来たら	共著	平成17年 11月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 標記について、以下のステップに従い解説した。1) 全身状態およびショックの有無の確認、2) 問診・理学的所見、3) 検査オーダー、4) 鑑別診断、5) 腹膜刺激症状の強い症例での外科医へのコンサルト。ピットフォールとして、高齢者の上腹部痛、妊娠と上腹部痛、肝硬変患者の腹痛、帯状ほろ疹についても述べた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 2 (11) : 81-89 (著者名) 白子隆志、横江正道、石川 清
73	「救急医療完全マスターガイド」頭痛の患者さんが来たら	共著	平成17年 12月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 頭痛の患者は、現病歴が重要で、問診の位置づけは極めて高い。鑑別疾患を想定した上で行う。意識状態が悪く感じたら血圧を測る。血圧は、頭痛のときに非常に大きな意味を持つ。体温も必ず測定する。くも膜下出血の痛みは最強の頭痛である。四肢麻痺などが無い激しい頭痛であれば、CTを行う。患者の全身状態を把握することは救急外来でもとても大切である。呼吸・循環の再確認、呼吸障害があれば治療が優先、神経・頭部・顔面・頰部の所見も調べる。くも膜下出血では、急性心筋梗塞と類似したST上昇を心電図上で伴うことがあり、こうした心電図異常の発生機序は脳損傷に伴い、視床下部や循環中枢を介して異常な交感神経緊張、副交感神経緊張が増加して再極過程に異常を生ずるためと考えられている。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能2 (12) : 101-110 (著者名) 横江正道、石川 清
74	イラン地震における医療救護活動を通じて	単著	平成18年 3月	愛知県にお ける救 急医療11	(概要) 「イラン地震における医療救護活動を通じて」報告した。 (本人担当部分) 全て 93-108 (著者名) 石川清
75	「救急医療完全マスターガイド」めまいの患者さんが来たら	共著	平成18年 1月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) めまいの患者に対する救急外来での対応を考えた。めまいとは空間認知が障害されたときに自覚される異常な運動感覚と指摘されるが、患者が考えているめまいとは必ずしも一致しない。めまいを主訴にした患者が来院した際は問診をしっかりし、鑑別診断を行う。めまいであっても呼吸・循環チェックをしっかり行い、必要に応じて頭部CT・MRIを行う。耳鳴、難聴、頭痛など随伴症状にも注意が必要である。身体所見では眼振のチェック、小脳症状などを診る。緊急性のない頭位性のめまいの場合は患者の好む姿勢で安静にするなどの処置を行い、薬物療法にはメイロン、セルシン、プリンペランなどを処方する。原因疾患がはっきりし、救急度が高い場合は他科に紹介する。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (1) : 81-89 (著者名) 横江正道、石川 清
76	「救急医療完全マスターガイド」熱傷の患者さんが来たら	共著	平成18年 2月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 一言で熱傷といっても、その重症度はさまざまである。ただし、押さえないといけないポイントは全て同じである。熱傷患者診療のための基礎、現病歴の確認、化学熱傷、全身状態の把握と治療の開始、受傷間もない熱傷の患者の意識、気道熱傷による上気道閉塞、焼か切開術、入院適応か否かの判断、入院治療につながる外来での処置について述べた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (2) : 89-96 (著者名) 稲田眞治、横江正道、石川 清
77	「救急医療完全マスターガイド」下血の患者さんが来たら	共著	平成18年 3月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 下血の患者が来た時の主に救急外来での対応について述べた。下血を理解するために、下血は下部だけではないこと、血液のみか便に混じるかの判断について述べ、直腸診、直腸診に基づく鑑別疾患、診断を解説した。また、大腸憩室炎と大腸憩室出血、緊急大腸ファイバーのタイミングについてもまとめた。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (3) : 101-107 (著者名) 横江正道、石川 清
78	「救急医療完全マスターガイド」嘔気・嘔吐の患者さんが来たら	共著	平成18年 6月	臨床研修ブ ラック ティス	(概要) 吐気・嘔吐の患者に対する外来救急医療対応について、以下の項目別に述べた。1) 第一段階 - まずは、病気?、病気じゃない? - a) 患者をみて何を感じる?、b) でも、やはり忘れて欲しくないものは - 女性を診る場合には最終月経と月経の状態を聞きま。女性の(とくに閉経前)の吐気・嘔吐の患者には確実に妊娠の有無を押さえる、c) 超緊急を嗅ぎ分けろ - 危険な吐気・嘔吐ベスト10をまとめた。2) 第二段階 - 1) 問診、2) 問診 - a) 危険を見抜く、聞き抜く、b) いやいや、これは大変だ、c) ますます大変だ、3) 第三段階 - 命にはかかわらないけど - a) さらなる可能性を追い求めて、b) やっぱり問診、c) うーん、でも違うな、4) 第四段階 - 診断は絞りましたか? - a) よくある嘔吐の原因、食中毒、b) 腸閉塞だった、c) 内分泌系疾患だった、d) 機能的頭痛だった、e) 乗り物酔いだった、f) 妊娠にまつわるものだった。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (6) : 109-117 (著者名) 横江正道、石川 清

79	「救急医療完全マスターガイド」尿が出ない！という患者さんが来たら	共著	平成18年 8月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 救急外来での対応を解説した。ステップ1では状況を理解する。乏尿・無尿・尿閉を理解し、少しでも出るか?全くでないか?の状況確認をする。ステップ2で尿=腎臓・膀胱ではない!?この確認をし、全身を見据えた問診を行う。ステップ3で問診から理学的所見を行う。次のステップでは超音波診断で膀胱に尿がなかったり、導尿しても尿が出てこなかったりした無尿を対処しなければならない。 (担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (8) : 101-107 (著者名) 横江正道、石川 清
80	「救急医療完全マスターガイド」腰痛の患者さんが来たら	共著	平成18年 9月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 救急医療における腰痛について述べた。腰痛は成人の6~7割の人が経験すると言われるほどよくある症状である。救急では可能な限り診断をつけ、症状を和らげることが最大の使命であり、そのためには発症機転をしっかりと見定めることが重要である。内臓疾患における見逃してはいけない・生命に危険のおよぶ腰痛についてチェックする。腰痛であっても全身を診る。腰痛の原疾患として大動脈解離、腹部大動脈りゅう、急性すい炎・胆石・胆嚢炎、腎結石・尿路結石・腎う腎炎、腎梗塞・心梗塞、髄膜炎などがあり、診断と診断に対する初期治療について述べた。整形外科的な腰痛では神経症状が進行するケースが要注意であるので、帰宅させる前に今一度症状の程度と進行具合を確認して置くことが重要である。そして、帰宅後も悪化がある場合には翌朝まで待たず再度、夜中でも朝方でも救急外来へ戻って来てもらうように説明しておくことが大切である。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (9) : 105-112 (著者名) 横江正道、石川 清
81	「救急医療完全マスターガイド」下痢の患者さんが来たら	共著	平成18年 12月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 下痢の患者では慌てず、確実な問診が大切である。問診すれば、重症度がわかり、診断・治療に近づける上で最大の焦点になる。血便だと腸管出血性大腸菌、キャンピロバクター、サルモネラ、その他、水様便だったら毒素原性大腸菌、病原性大腸菌、サルモネラ等が考えられる。緑色便はサルモネラ、キャンピロバクター、白色便はノロウイルス、ロタウイルスを考える。いずれも救急外来で短時間に診断をつけられる病気ではなく、病歴を聞いておく。翌日、消化器内科に必ずかかってもらう。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能3 (12) : 113-121 (著者名) 横江正道、石川 清
82	「救急医療完全マスターガイド」皮膚に異常がある患者さんが来たら	共著	平成19年 1月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 皮膚を診る上では、少なくとも紅斑、紫斑、丘疹、水疱、膨疹なのかを見分ける。救急外来では、あまり断定的なことはよほどの自信がある場合以外には言わないほうがよい。救急外来では、突然、皮膚が痒くなってきたり、皮膚が痛くてたまらない、皮膚がびりびりしてたまらない、その他がある。まずは状況を把握し、診断をしっかりとつけ、今晚、治療できるものは治療し、明日、専門家に任せるべきものは任せる。しかし、緊急手術が必要、集中治療が必要な場合もあり、救急特有の病気として頭の片隅に覚えておく。超緊急事態はガス壊疽・壊死性筋膜炎・コンパートメント症候群は時間との争いになる。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能4 (1) : 81-91 (著者名) 横江正道、石川 清
83	「救急医療完全マスターガイド」急性薬物中毒の患者さんが来たら	共著	平成19年 2月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 自殺企図で薬物を過量内服して救急外来に患者がきた場合の診療では、救急外来では、今後中毒症状が出てくる可能性も含めた評価が必要になる。必ず意識、A(気道)、B(呼吸)、C(循環)の確認をすることを強調する。患者に呼びかけながら顔を近づけ、発声の有無と吐息の有無を確認、同時に胸部の動きを見つつ手で患者の機骨動脈に触れ、呼吸の状態と循環の状態を把握する。意識(呼びかけに対する反応の有無)を確認できる。A、B、Cが落ち着いている場合は、救急隊や家族から早めに情報を収集する。自殺企図で薬物を過量内服した場合、患者の周りに内服した薬の空包が散在していることが多い。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能4 (2) : 85-92 (著者名) 稲田眞治、横江正道、石川 清
84	「救急医療完全マスターガイド」不正性器出血の患者さんが来たら	共著	平成19年 4月	臨床研修ブラク ティス	(概要) 不正性器出血は、いつもの月経周期とは異なる時期にある出血である。鑑別疾患として本当に性器出血であるか、また年齢を考慮した対応をする。年齢や世代を考慮した問診を行い、貧血、バイタルサインの確認を行う。産婦人科医を呼び出すまでに妊娠の有無を検査する。子宮外妊娠や切迫流産が疑われるときは、絶対に産婦人科医を呼び出す。外来診療では、女性に気を配った対応が必要である。特に産婦人科疾患では、いつにもましてしっかりしたコミュニケーションが必要である。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能4 (4) : 98-105 (著者名) 横江正道、石川 清
85	Asystole確認から24分経過後、蘇生行為に反応し心拍再開・社会復帰を遂げた1例	共著	平成19年	日本救急医学会雑 誌	(概要) 今回、われわれは胸痛を訴えて119番通報され、救急隊到着時に頸動脈触れせず、あえぎ呼吸で心電図モニター上flatであった症例に対し、当院搬送後、蘇生術を試み、心静止確認から24分後に心拍再開、入院治療後社会復帰を遂げた1例を経験したので報告する。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 18 (2) : 51-57 (著者名) 横江正道、稲田眞治、白子隆志、塚川敏行、石川 清
86	個人の準備：災害救急医療活動の準備	共著	平成19年	経験から学ぶ大規模災害医療 対応・活動・処置 永井書店	(概要) 個人の準備：災害救急医療活動の準備について報告した。 (本人担当部分) 19-30 (著者名) 石川 清、他1名

87	いざというときのための大規模災害医療訓練	単著	平成19年	Hospital View Report 21	(概要) いざというときのための大規模災害医療訓練を伝えた。 (本人担当部分) 全て 14 : 2-3 (著者名) 石川清
88	アフリカの戦傷外科病院での麻酔	単著	平成19年 5月	Anet (Anesthesia Network)	(概要) 戦傷外科病院における麻酔 —麻酔科医としてSudan紛争犠牲者救援活動に従事して— 2000年10月から3ヶ月間、Kenya、Lokichokioの赤十字国際委員会 (ICRC) Lopiding戦傷外科病院で麻酔科医として救援活動に従事した。麻酔科医の業務は術中麻酔管理、周術期管理、現地スタッフの教育・管理等であった。麻酔法等には治療の一貫性を保つために一定の基準があり、限られた薬剤・医療機器の下で施行しなければならなかった。ケタミン麻酔が最も一般的な麻酔法であったが、それは簡単、安全、安価という理由による。戦傷外科病院の目的は、患者に完璧な医療ではなく、基本的な医療を提供することであり、また、限られた患者だけでなく多くの患者を治療することにある。このpolicyは我々の災害医療に通ずるものであると思われた。 (本人担当部分) 全て 11 (2) : 33-35 (著者名) 石川清、田中みつぎ、鈴木伸行、佐藤公治
89	スマトラ島沖地震津波災害の教訓—日赤ERUチームによる救援活動を通して—	共著	平成19年 1月	日本集団災害学会誌	(概要) 2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震津波は、インド洋の国々を襲い死者22万人、被災者200万人の未曾有の被害をもたらした。この被災者の医療救援活動を行うため、日赤は最も被害の大きかったスマトラ島アチェ州に発災3日目から約4ヶ月間、計6班77名の医療救援チームを派遣した。この救援活動を通して多くの教訓を学ぶことができた。 (本人担当部分) 全て 12 (1) : 48-53 (著者名) 石川清、他6名
90	救急車適正利用を目的とした傷病者・救急隊員・看護師・医師からのアンケート	共著	平成19年	日本救急医学会中部地方会誌	(概要) 当院救命救急センターに平成17年10月3日から11月30日までに救急搬送された299例において、傷病者自身(関係者)、医療関係者、および救命隊の3者でアンケートを実施した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 3 : 12-16 (著者名) 白子隆志、塚川敏行、稲田眞治、横江正道、石川清、他4名
91	パキスタン北部地震における病院ERUの運営経験—赤十字国際連盟IFRC Field Hospital Abbottabad—	共著	平成19年 6月	日本集団災害医学会誌	(概要) パキスタン北部地震では、多数の被災者・犠牲者が発生し、日本赤十字社は、国際赤十字・赤新月社の要請に応え、パキスタン北西辺境州アボタバードのField Hospitalに医師・看護師・薬剤師・連絡調整員を約3ヶ月間、計15名を派遣した。現地スタッフと共に良質な医療を提供し、外傷診療のみならず、小児・成人に対する心理療法・理学療法・栄養学的支援が有効であった。災害後の国際医療救援において、その地域での文化・宗教などを尊敬し、地元スタッフと良好な連携・協力が重要である。 (著者抄録) (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 12 (1) : 54-61 (著者名) 白子隆志、白子順子、伊藤明子、東条奈美、石川清
92	国際救援と病院経営	単著	平成20年 2月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 国際救援と病院経営について報告した。 (本人担当部分) 全て 57 (574) : 76-79 (著者名) 石川清
93	いま麻酔科医不足で思うこと	単著	平成20年 5月	愛知県病院協会会報	(概要) いま麻酔科医不足で思うこと 麻酔科医の活動領域が救急医療、集中治療、災害医療、ペインクリニック、緩和ケアと拡大したのに加え、リスクマネージメント、感染対策等院内の幅広い領域で横断的に活躍する麻酔科医の存在が見直されるようになった。特に、麻酔以外に集中治療、救急医療ができる麻酔科医は、重症患者の総合内科医的な存在で、研修医教育にも指導的な役割を果たすことができ、病院経営上でもなくてはならない存在となる。 (本人担当部分) 全て 214 : 9-10 (著者名) 石川清
94	若い皆さん、将来ぜひ国際救援を！	単著	平成20年	JRC愛知、“輝くとき”	(概要) 皆さんに期待すること 国際救援はわれわれの赤十字以外にも国境なき医師団、JICA、ピースウィングといった多くの組織がそれぞれの活動を行っています。国際救援に行きたい意志があっても、実際に救援活動に参加するのは難しく、赤十字組織の職員であることは1つの有利な条件かもしれません。将来、皆さんがどのような方向に進むにせよ、若い皆さんには是非とも国際救援に関心を持っていただくことを願っています。 (本人担当部分) 全て 1 : 1-2 (著者名) 石川清
95	連携病院名古屋第二赤十字病院	単著	平成20年	瑞医	(概要) 連携病院名古屋第二赤十字病院について報告した。 (本人担当部分) 全て 7 : 1 (著者名) 石川清
96	赤十字の国際救援	単著	平成21年	鯨光	(概要) 赤十字の国際救援について報告した。 (本人担当部分) 全て 597- : 4-9 (著者名) 石川清
97	大規模災害時の医療従事者の心構え	単著	平成21年	岡崎医報	(概要) 大規模災害時の医療従事者の心構えについて、報告した。 (本人担当部分) 全て 303 : 32 (著者名) 石川清

98	学友と地域医療	単著	平成21年9月	名古屋大学医学部支部史	<p>(概要) 名古屋大学医学部支部史『学友と地域医療』 名古屋第二赤十字病院は1914年(大正3年)に結核療養施設、日赤愛知支部八事療養所として創設され、初代所長には勝沼精蔵(立愛知医科大学教授)が就任(非常勤嘱託)。その後、酒井 繁、桑原庄三郎、金子玄策の各先生が所長を務められ、1950年、病院昇格と同時に、安藤宇吉先生が初代院長に就任された。一般診療を開始し、1969年には総合病院に承認。その後の当院の発展の歴史には、歴代院長の首尾一貫した方針があり、救急医療、高度医療、医療連携、研修医教育、災害医療と国際救援等を掲げてきた。特に研修医教育については、1975年に臨床研修病院の指定を受け、優秀な研修医を養成すべく、名古屋大学の関連病院として多くの診療科が名古屋大学医局から優秀な指導医の派遣を受けてきた。歴代院長はいずれも名古屋大学の出身で、富永健二、栗山康介、柳 務の各院長は、それぞれ第73回(1982年)、第85回(1994年)、第95回(2004年)の学友大会の委員長を務められた。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清</p>
99	当院におけるドナーアクションの試みと脳死下臓器提供3症例の経験	共著	平成22年	日本病院会雑誌	<p>(概要) 日本赤十字社名古屋第二赤十字病院におけるドナーアクション(DAP)の試みと脳死下臓器提供3症例を省みた。また2006年4月の保険改正から移植用臓器採取術が保険適応とされている。3例の臓器提供症例に対して病院収支を計算し、臓器提供病院として採算性のある医療であるかを検討した。DAPにより定期的にポテンシャルドナー(潜在的臓器提供者:PD)発生が報告されるようになったが、未だ心停止下ドナー臓器摘出には至っていない。しかし2008年度に3例の脳死下臓器提供が実現でき、臓器提供病院として採算性のある医療であることが明らかになった。この経験をもとに今後も、DAPに積極的に取り組んでいきたいと考えている。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 57 (3) : 288-296 (著者名) 長坂隆治、藤居靖幸、塚川敏行、田口 学、永井達也、遠松哲二、仲市直次、谷端俊毅、両角國男、打田和治、石川 清</p>
100	大道無門「医師不足、看護師不足なのに国際救援に派遣？」	単著	平成22年1月	中部産業連盟機関誌プロGRESS	<p>(概要) 国際救援を推進することは、病院のイメージアップ、優秀な人材の確保、さらには、国際救援に携わる職員のモチベーション向上等メリットは多い。当院はまだまだ医師不足や看護師不足で困ったことはなく、今後も国際救援を病院の使命として積極的に取り組んでいきたい。 (本人担当部分) 全て p. 21 (著者名) 石川清</p>
101	大道無門「成熟した病院」	単著	平成22年2月	中部産業連盟機関誌プロGRESS	<p>(概要) 当院は赤十字病院であることから災害救護を使命として捕らえ、2001年にオープンした救命救急センターは救急・災害時の最後の砦として、救急・災害の2本柱である救命救急センターおよび災害拠点病院として万全の装備を備えて設計した。阪神・淡路大震災規模の地震に対しても機能を維持できる耐震構造、患者搬送用ヘリポートと災害救護資材の装備、ライフラインが途絶えたときに3日間電気と水を供給できるシステム、さらに、3日間の食料品と医薬品の備蓄を行っている。ハード面だけでなくソフト面の充実も重視し、全ての職員が災害医療の知識と技術を習得するため、毎年定期的に研修会の開催と大規模災害を想定した災害訓練を実施している。大規模災害に備え “成熟した病院” となるべく努力している。 (本人担当部分) 全て p. 21 (著者名) 石川清</p>
102	大道無門「いまだ明かりの見えない救急医療」	単著	平成22年3月	中部産業連盟機関誌プロGRESS	<p>(概要) 救急医療は、救命救急センターだけでなく診療所、中小病院など地域医療全体で担うべきで、医療従事者を含め社会全体が、救命救急センターを公共の財産とみなし崩壊させないように十分認識する必要がある。課題も多くいまだ明かりの見えない救急医療ではあるが、救急医療は当院の歴史と伝統であり、2001年には全ての救急部門を集約した全国でも屈指の救命救急センターを完成させた。今後も当院は救急医療を病院の方針として取り組んでいきたい。 (本人担当部分) 全て P. 22 (著者名) 石川清</p>
103	麻酔科医は病院経営のキーパーソン	単著	平成22年1月	日赤病院長連盟	<p>(概要) 付加価値のある麻酔科医とそのマンパワーが重要：良好なコミュニケーション能力を有し、手術麻酔以外にこれらの横断的な領域で活躍する麻酔科医は、付加価値のある麻酔科医として病院経営のオールマイティーとも言うべき存在と言える。ただし、そのような麻酔科医を確保できても、手術麻酔に疲弊して他の領域で活躍できない状況下に置いては意味がなく、麻酔科医のマンパワーも重要となる。 (本人担当部分) 全て 59 (582) : 66-67 (著者名) 石川清</p>
104	メディエーションを病院の風土に！	単著	平成22年1月	愛知県病院協会会報	<p>(概要) 最近、組織的にメディエーターを導入する病院や病院団体も増えており、これらの病院では患者と向き合う姿勢と文化の醸成を行い、医療コンフリクト・マネージメントを病院全体に浸透させようとしている。このような病院は現在すでに全国でもかなりの数に上るとされるが、当院でも組織的にメディエーターを導入し、メディエーションを病院の風土とすべく、本年2月と8月にも研修会を計画している。 (本人担当部分) 全て 225 : 17-18 (著者名) 石川清</p>
105	病院トップが職員満足度向上に取り組む理由	単著	平成23年2月	月刊新医療	<p>(概要) 病院トップが職員満足度向上に取り組む理由について報告した。 (本人担当部分) 全て 2 : 88-91 (著者名) 石川清</p>

106	東日本大震災に思う 一職員を積極的に派遣するもう一つの意味	共著	平成23年 12月	日赤医学	(概要) 東日本大震災に思う 一職員を積極的に派遣するもう一つの意味について報告した。 (本人担当部分) 全て 63号 (著者名) 石川清、佐藤公治、向山憲男
107	成熟した病院と成熟した医療従事者	単著	平成23年 4月	名大医学部学友時報	(概要) 成熟した病院と成熟した医療従事者について報告した。 (本人担当部分) 全て 743 : 10 (著者名) 石川清
108	座談会 来るべき東海地震に備えて一東日本大震災から学んだ教訓	共著	平成23年 12月	現代医学	(概要) 今回の大震災の特徴は、被害が非常に広範で、かつ甚大であったということ、それからほとんどの被害が地震による被害というよりは、津波によるものであったということで、結果的には、けがをした人が少なく、亡くなった人が非常に多い災害でした。さらに、それに加えて、今回の震災を非常に複雑な形にしている福島第一原発の事故があります。この原発災害は非常に深刻な問題であり、かつ重要な問題ではありますが、この問題を津波災害と一緒に議論をすると話が非常に複雑になりますので、今回は救護活動を行う上でセキュリティ上の問題などは話していただくとしても、原発問題そのものについての詳細な議論については除外したいと思います。我々は決して福島原発のことを忘れてはいけないということだけは強調しておきたいと思います。 (本人担当部分) 全て 59 (2) 299-324 (著者名) 石川清、稲坂博、稲田真治、北川喜己、細川秀一
109	災害医療～大震災から学んだ教訓～	単著	平成24年 2月	一宮医報	(概要) 災害医療～大震災から学んだ教訓～について報告した。 (本人担当部分) 全て 182 (著者名) 石川清
110	病院経営とコーチング	単著	平成24年 1月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 病院経営とコーチングについて報告した。 (本人担当部分) 全て 61 (587) : 83-84 (著者名) 石川清
111	絶滅の危機にあるナースキャップ	単著	平成24年 1月	愛知県病院協会会報	(概要) 絶滅の危機にあるナースキャップについて報告した。 (本人担当部分) 全て 238 : 9-10 (著者名) 石川清
112	垣根なきチーム医療で地域を支える	単著	平成24年 4月	医療・健康情報誌 CELEB通信	(概要) 垣根なきチーム医療で地域を支えるについて報告した。 春号 : 2-4 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
113	最高の病院と最高の地域医療を目指して	単著	平成24年 4月	昭和区医師会誌 VITA	(概要) 最高の病院と最高の地域医療を目指して報告した。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
114	今、なぜ医療にコーチングが必要なのか～”最高の病院”になるための全病院的な取り組み～	単著	平成24年 4月	株式会社コーチ エイNews l e t t e r	(概要) 今、なぜ医療にコーチングが必要なのか～”最高の病院”になるための全病院的な取り組み～を報告した。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
115	栄養士の皆さんもコーチングを習得されてはいかがでしょう?	単著	平成24年 4月	日赤栄養	(概要) 当院が2年先に創立100周年を迎えるに当たって、“最高の病院になる”という目標を掲げました。そして、その目標を達成するために“コーチングで病院を変える”、“コーチングを病院の風土に”の合言葉で、本年度よりプロのコーチ会社と契約をして、全病院的にコーチングを導入することを決定しました。いま、医療現場ではチーム医療やナラティブ・ベースド・メディスン(対話を重視した医療)というキーワードで示される通り、对患者、あるいはスタッフ間のコミュニケーションの重要性が増しており、コーチングの果たす役割が益々期待されています。 (本人担当部分) 全て 第150号 (著者名) 石川清
116	今後の災害医療救護について 3.11東日本大震災の経験から“救護班のマネジメントの立場から”	単著	平成24年 10月	東海病院管理学会年報	(概要) 今後の災害医療救護について 3.11東日本大震災の経験から“救護班のマネジメントの立場から”について報告した。 (本人担当部分) 全て 3-8 (著者名) 石川清

117	現場がビジョンをもち、自発的に行動する組織へ～「最高の病院」を目指したコーチングの導入～	単著	平成25年4月	株式会社コーチエイNews letter	(概要) 名古屋第二赤十字病院は、石川清院長の「職員満足度の向上が病院経営に直結する」という考えのもと、教育プログラムや福利厚生充実、職員満足度調査の実施、表彰制度等、それに向けた方策をこれまで積極的にとってきた病院である。また、救急医療、地域医療支援、国内外の災害救護など、地域・社会貢献度の高い病院として、メディアで取り上げられることも多い。この病院で、医療機関としては初めての全病院的な組織変革を目指したプロジェクトがスタートした。石川院長が年初に“最高の病院”になることを目標に掲げ、そのために必要な職員の満足度をあげるの一環として、コーチングの導入が宣言された。 (本人担当部分) 全て p.9 (著者名) 石川清
118	コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に	単著	平成25年2月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 昨年の連盟通信新春号に『病院経営とコーチング』のタイトルで寄稿しましたが、その後の当院の取り組みについて報告いたします。コーチング導入までの経緯、当院についての地域からの評判は“比較的良好な病院”としてまずまずの評価を得ています。しかしながら、医療トラブル件数が全く減らなかったり、看護師離職率が依然として高いという課題が山積しており、決して最高の病院とは言えません。2年先の2014年12月1日に創立100周年を迎えるに当たって、昨年の年頭、“最高の病院になる”という一大目標を掲げました。 (本人担当部分) 全て 62(590):81-83 (著者名) 石川清
119	コーチングで病院を変える	単著	平成25年3月	愛知県病院協会会報	(概要) 昨年の5月から始まったコーチングの成果は着実にあがっていると実感しています。153名の参加者全員がコーチングの成果を高く評価しており、来年度も継続して行うことを決定しました。今回のプログラムは2月には終了し25名は日本コーチ協会から認定コーチの資格を取得します。来年度は2期生がコーチングを始め、今後、コーチング参加者は倍増していくことになります。“コーチングで病院を変える”、“コーチングを病院の風土に”の合言葉の下、全職員がコーチングに参加し病院が変わっていくことを期待し“最高の病院になる”という目標を達成したいと思えます。 (本人担当部分) 全て 245:1-2 (著者名) 石川清
120	全病院的なコーチング導入の取り組み 医療安全とコーチング	単著	平成25年7月	看護展望	(概要) 全病院的なコーチング導入によって、働きやすい職場となり、職員満足度が向上し、職員がやりがいを持って働くことができ、良い医療やサービスを提供することができ、結果として患者満足度が高まり“最高の病院”というサイクルに繋がることになる。昨年度の成果を踏まえ、本年度も継続してコーチングを行う予定であり、コーチング参加者は倍増していく計算になる。“コーチングで病院を変える”、“コーチングを病院の風土に”の合言葉の下、全職員がコーチングに関わることによって、医療トラブルゼロ、看護師離職率ゼロを目指し、職員満足度と患者満足度両方が高い“最高の病院になる”という目標を達成したいと考えている。 (本人担当部分) 全て 38(8):30-38 (著者名) 石川清
121	全病院的なコーチング導入のねらい	単著	平成25年7月	名大医学部学友時報	(概要) 厳しい経営状況にある病院の経営改善策として、病床利用率や診療単価など末端のデータ改善よりも、根本的な職員満足度を高めることの方がはるかに重要であると思われる。その病院の習慣、しきたり、人間関係等を一番熟知しているその病院の職員の満足度を高めることが最優先されるべきで、そのためのコーチング導入は大きな意義があると思われる。当院でも職員満足度向上を図り、“平均より良い病院から最高の病院になる”ことを目指し、“コーチングを病院の風土に”との合言葉でコーチング導入を検討中である。 (本人担当部分) 全て 762:8-9 (著者名) 石川清
122	住民を巻き込んで災害訓練を実施	単著	平成25年10月	ドクターズマガジン	(概要) 住民を巻き込んで災害訓練を実施する報告をした。 161:16-17 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
123	コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に～最高の病院を目指し、全病院的にコーチングを導入～	共著	平成26年4月	医療アドミニストレーター	(概要) 当院は、2014年12月に創立100周年を迎えるにあたり“最高の病院になる”という一大目標を掲げ、その手段として2012年度から医療機関では初めてとなる「全病院的なコーチング」を導入した。当院の3年間の取組みの結果、コーチングが、職場風土改革に役立つことが明らかとなった。今後は、運用面の課題を克服しながら、院内コーチが主体となった当院独自の運用スタイルをめざしていく予定である。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 39-44 (著者名) 山口和宣、清水紀子、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 清
124	ミッションの浸透	単著	平成26年3月	愛知県病院協会会報	(概要) 2年前に全病院的なコーチングを導入した目的は、組織を変える手法としてコーチングを全病院的に取り入れ、院内にコーチング文化の土壌をつくり、“最高の病院になる”という目標を達成するためです(愛知県病院協会会報:第245号 平成25年3月号)。来年度は3期目となるコーチングですが、その成果は着実にあがっており、コーチング参加者も全職員の2割強となりました。“コーチングで病院を変える”“コーチングを病院の風土に”の合言葉の元、コーチングがより一層院内に普及し、最高の病院になるという目標を達成したいと思っています。 (本人担当部分) 全て 253:1-2 (著者名) 石川清

125	職員満足度の向上と主体的に考える力で組織に変革をもたらす	単著	平成26年 5月	最新医療経営 フェイズ・スリー	(概要) “職員満足度の向上と主体的に物事を考え行動する力で組織改革を図る” 「職員満足度の向上が病院経営に直結する」という考えのもと、当院では、そのための手段としてコーチングを導入しています。職員間の壁を取り払い、主体的に物事を考え、行動する力を個々の職員が身につけることで、活気ある職場づくり、組織風土の改革に繋がっています。 (本人担当部分) 全て 357 : 22-23 (著者名) 石川 清
126	トラブル解決の鉄則【マネジメント編】座談会 医療機関のマネジメント・トラブルをどう解決するか	共著	平成26年 8月	月刊／保険診療	(概要) 当院は名古屋の基幹病院として、主に急性期医療を担っています。大きな柱として、高度医療、救急医療、研修医・看護師教育、医療連携、災害医療、国際救援などに力を入れてきました。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 69 (8) : 7-15 (著者名) 新井良和、石川清、江原正恭、大石佳能子
127	アナと雪の女王の主人公、雪の女王エルサの生き方	単著	平成26年 10月	メディカルトリ ビューン	(概要) 松たか子が歌う主題歌「ありのままに」は、まさしくこのアカウンタビリティの考え方そのものと言える。自分の欠点を悩み、あきらめの境地から、自らの意思で勇気を持って課題を解決する行動で、自分自身のアカウンタビリティを高めるというストーリーであり、まさしく、アカウンタビリティのために創られた歌詞と言える。自分が課題に直面した際、この「ありのままに」を歌って、自分自身を奮い立たせることができる。 (本人担当部分) 全て 47 (40) : 26 (著者名) 石川 清
128	東日本大震災の経験と今後の災害への取り組み	単著	平成27年 4月	日本赤十字豊田看護 大学紀要	【概要】 震災直後の病院全体の取り組みと課題・展望 当院が震災直後から、全病院挙げて取り組んだ取り組み、主には、石巻地区での支援活動、および当院院内での活動、この2つの活動の状況を振り返ることによって、東日本大震災、および過去の大災害から学んだ教訓について考え直すとともに、来るべき南海トラフ地震に備えて、当院がこれから取り組むべき課題・展望についても考えてみた。当院は、救命救急センター、災害拠点病院、さらには、赤十字病院であることから、大規模災害時の最後の砦として、職員一人ひとりが「いかなる時でも地域の医療は自分たちが守る」という強い使命感を持ち、万全の装備を備えるとともに、地域住民のために可能な限り医療を継続することができる災害に強い病院にならねばならない。 (本人担当部分) 全て 10 (1) : 39-50 (著者名) 石川 清
129	尊敬する兄 石川克己のこと	単著	平成27年 3月	愛知県病院協会会 報	(概要) 2007年11月1日、兄は享年69歳で全てを終えて天に召されました。通いなれた教会で行われた葬儀には600名にも及ぶ多くの障害児母子や友人が訪れ、別れを惜しんでくれました。「障害児に仕えることが僕の伝道だ」という兄の言葉がその通りになりました。生前は辞退していた叙勲を、死後叙勲として正四位瑞宝中綬章を頂きました。そんな兄石川克己は、いまでも私の最も尊敬している人の1人です。 (本人担当部分) 全て 259 : 7-8 (著者名) 石川 清
130	全病院的にコーチングを導入し組織改革に大きな成果を上げる	単著	平成27年 1月	KISSEI KUR	(概要) 医療を取り巻く環境が激変する中、医療機関の多くは組織改革を迫られています。が、決め手となる処方箋を探しあぐねている病院経営者も少なくないでしょう。当院もコーチングに出会うまでは、医療トラブルや看護師離職に打つ手がない状況でした。しかし、対話を通して相手の意欲を引きだし、行動を支援するコーチングを全病院的に導入することで患者と職員の満足度を高め、組織を変えることに成功しています。 (本人担当部分) 全て 8 (2) : 16-18 (著者名) 石川 清
131	人との繋がりが病院を生かす！	単著	平成27年 5月	日本病院会愛知県 支部ニュース	(概要) 「変化の激しい状況の中で、リーダーに求められるのは、常に学び続ける高い学習の俊敏さleaning agilityである。リーダーの能力として、経験は大切であるが、それ以上に、行動力や新しいことを学ぶ力、吸収する力の方がはるかに重要である。そして、その学び続ける能力を身につけるのに一番大切であるのは人との繋がりである。」と。いま、激変の医療環境の中、院長はじめ病院幹部に求められるのは、常に「誰から学べるか？」を考え、「職員間の繋がりが」や、「人との繋がりが」を大切にすることを姿勢だと思えます。 (本人担当部分) 全て 27 : 1 (著者名) 石川 清
132	創立100周年に向け コーチングで成し遂げた意識改革	単著	平成27年 8月	東海医事新報	(概要) 創立100周年に向け コーチングで成し遂げた意識改革について報告した。 (本人担当部分) 全て 3 (615) : 7 (著者名) 石川 清
133	病院図書館員の皆さんに期待すること～人との繋がりが病院を活性化す！～	単著	平成27年 12月	日赤図書館雑誌	(概要) 当院が3年前から取り組んでいるコーチングは、こうした素養、すなわち、個人にとっては、主体的に物事を考え行動する力、リーダーシップを發揮するスキル、また、組織にとっては、スタッフ間の良好なコミュニケーション、その結果、組織間の壁を取り払い、組織改革に至るためのスキル、あるいは成果を得ることが出来ます。こう言った点を考えれば、医療界にはなくてはならないスキルで、一般企業よりもむしろ“医療界にこそコーチング導入が必要である”と考えています。 (本人担当部分) 全て 22 (1) : 1-2 (著者名) 石川 清

134	全病院的にコーチングを導入し組織改革に大きな成果を上げる	単著	平成27年 11月	医事業務	<p>(概要) 医療界にこそ必要なコーチング 今後の展望は全国の医療機関への普及 この活動に取り組んで3年が経過し、さまざまな成果も現れてきた今、医療界にこそ コーチングが必要という思いが一層強くなりました。医療機関を取り巻く環境が激 変する中、職員1人ひとりが物事を主体的に考え行動できる力を身につけ、職種間や 職位間の壁を取り除いて対話によってチームが動けるような新しいコミュニケー ションスタイルを作り上げることが早急に求められています。この組織改革を行う 手法としてコーチングが最も適していることは当院の活動成果からも証明されてい ると思います。今後は当院でのコーチングの普及と定着を図ることもさることなが ら、医療界の組織改革にコーチングを導入する動きを推進していきたいと思ってい ます。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清</p>
135	名古屋第二赤十字病院 DPC II群病院の取り組み	共著	平成27年 12月	病院経営MASTER	<p>(【概要】 近年の病院経営には、医療の高度化・専門化・国民医療費削減・定期的に必要とな る医療機器・設備、電子カルテ等のITの更新への投資、地域連携や他職種間連携 など、多岐にわたる分野を俯瞰することが重要である。 また、社会保障・税の一体改革を受けた消費税の引き上げ、病床機能報告制度や地 域医療構想の導入、非営利ホールディングカンパニー型法人制度の創設など病院経 営を取り巻く環境は劇的な変化を迎えつつある。どのような環境下においても、赤 十字病院の特色・医療の質の向上と効率を求め、地域の基幹病院としての役割を果 たしていきたい。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 5(2):64-67 (著者名) 箕浦伸一、石川清</p>
136	より良いリーダーになりたい と願う院長先生方へ	単著	平成28年 5月	愛知県病院協会会 報	<p>(概要) マイクロソフト社のビル・ゲイツ会長は「すべての人にコーチが必要です。私たち には、フィードバックをしてくれる人が必要なのです。私たちは、フィードバック を受けることで向上するのです」と言っています。フィードバックは周りの人から の贈り物であり、リーダーがより良いリーダーになるために職員が送ってくれる贈 り物です。コーチングを学んだ人はフィードバックを有効活用できますが、一般的 にはフィードバックに慣れていません。特に、ネガティブなフィードバックは周 りが話したがいらないし、本人も聞きたがいらないという問題があり、地位が上がれば 上がるほどフィードバックを受けにくくなります。「中傷を耳にし、わが身の行い を改めることのできる者は幸せだ」ウィリアム・シェークスピア『空騒ぎ』より。 (本人担当部分) 全て 268:7-8 (著者名) 石川清</p>
137	職員が満足して働ける環境 づくりが患者の満足、信頼 や安心につながる	単著	平成28年 6月	最新医療経営 フェイズ・スリー	<p>(概要) 「職員満足度の向上が病院経営に直結する」という考えのもと、当院では、そのた めの手段としてコーチングを導入しています。職員間の壁を取り払い、主体的に物 事を考え、行動する力を個々の職員が身につけることで、活気ある職場づくり、組 織風土の改革に繋がっています。「最高の病院になる」を目標に実現のためのコー チングを導入組織改革のためのツールとして企業で広く用いられているコーチン グ。医療界では、これまで患者が治療や予防に自ら取り組むように働きかけるツ ールとして、医療従事者が個別に学ぶケースはありましたが、全病院的に取り組んだ のは我が国では当院が初めてです。 (本人担当部分) 全て 6:58-59 (著者名) 石川清</p>
138	病院が直面する様々な課題 を乗り越えるために	単著	平成28年 11月	日本病院会愛知県 支部ニュース	<p>(概要) 当院では、多剤耐性菌による院内感染、病院経営の一大危機など病院の存続を左右 する一大危機に際して、コーチングを学んだ幹部はじめ職員一人ひとりが、このア カウンタビリティを発揮して「ライン上」に行き、アカウンタビリティのステッ プをのぼることによって、病院にとっての一大危機を乗り越えることができました。 さて、皆さんの病院ではどうでしょうか？ アカウンタビリティの考え方を取り入れ て、一度取り組んでみられてはいかがでしょうか？【参考】アカウンタビリティ・ マネジメント「主体的に動く：ロジャー・コナーズ他著、伊藤守監訳」 (本人担当部分) 全て 36:2-4 (著者名) 石川清</p>
139	連載「病院組織コーチン グ」全病院的なコーチン グ導入が生んだ組織改革の成 果	単著	平成29年 4月	病院	<p>(概要) 名古屋第二赤十字病院におけるコーチング導入が生んだ組織改革の成果を紹介し た。医療界におけるコーチングは職員一人一人が物事を主体的に考え行動する力を 身につけ、職種間や職位間の壁を越えて対話によってチームを動かすコミュニケー ションスタイルの構築につながるものであると確信されると述べた。 (本人担当部分) 全て 76(4):320-322 (著者名) 石川清</p>
140	これからのリーダーに求め られる資質と行動	単著	平成30年 1月	愛知県病院協会会 報	<p>(概要) これからのリーダーに求められる資質と行動とは、組織を成長させるために部下に 弱みを見せ、成長のために周りに助けを求めることであると思います。 さて、リーダーである皆さんは、自分の組織を成長させるためにどのように行動し ていますか？ (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清</p>

141	定期的な血小板測定により正しく診断に至った周期性血小板減少症	単著	令和5年1月(投稿予定)	臨床血液	(概要) Cyclic thrombocytopenia (CTP) is characterized by periodic fluctuations of platelet counts. CTP is often misdiagnosed as immune thrombocytopenia (ITP) because of similar clinical features. We present a case of 74-year-old male with CTP, whose diagnosis was facilitated by a period of regular weekly platelet count measurements. The patient initially developed mild bleeding symptoms with a platelet count of $0.8 \times 10^4 / \mu\text{L}$. Bone marrow biopsy exhibited reduced megakaryocyte counts and was atypical of ITP. Weekly follow-up of platelet counts demonstrated an apparent cyclic pattern, which led to the CTP diagnosis. Regular platelet count measurements can assist CTP diagnosis in thrombocytopenia. (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清、内田俊樹
No.	その他の論文等				
1	名古屋第二赤十字病院紹介	単著	平成19年	愛知県病院協会	(概要) 名古屋第二赤十字病院紹介した。 (本人担当部分) 全て 208 : 12-15 (著者名) 石川 清
2	私の履歴書	単著	平成19年	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 『私の履歴書』を原稿にした。1. 出身地、2. 出身大学、3. 専攻診療科、4. 職歴、5. 旧知、6. 趣味・特技、7. 家族。、8. 院長連盟への希望 (本人担当部分) 全て 56 (572) : 33 (発表者名) 石川 清
3	開講40周年を祝して：名市大麻酔科と名古屋第二赤十字病院ICU	単著	平成19年	青雲会会報 開講40周年記念特別号	(概要) 『開講40周年を祝して：名市大麻酔科と名古屋第二赤十字病院ICU』当院ICUの発展の歴史を語ることは、名市大麻酔科の発展をそのまま物語ることになるので、名市大麻酔科が当院ICU開設に関わった歴史を紹介し、開講40周年をお祝いする稿としたいと思います。麻酔科医不足が重要な課題となっている昨今、集中治療に重点をおく麻酔科の存在は非常に貴重な意味を持っています。当院では今後ともこの名市大麻酔科のICU運営方式を死守し、集中治療に重点をおく麻酔科医を養成することによって、名市大麻酔科の伝統を守っていきたくと思っています。 (本人担当部分) 全て 25-26 (著者名) 石川 清
4	名古屋第二赤十字病院紹介	単著	平成19年	瑞友会会報	(概要) 名古屋第二赤十字病院の紹介をした。 (本人担当部分) 全て 101 : 6-7 (著者名) 石川 清
5	職員に向けた新年のごあいさつ	単著	平成26年1月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 攻めの気持ちで新年の抱負を 上記の取り組みを進めていくためには、まずは健全経営が大前提です。昨年から取り組んできた安定的な経営体質への改善、コスト、特に、固定費削減に軸足を置いた盤石な経営基盤の上に、上記の目標についてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。職員の皆様のご協力をよろしくお祈ひします。 (本人担当部分) 全て 63 (592) : 57-29 (著者名) 石川 清
6	私の逸品 聖書 重症心身障害児の医療に一生を捧げた兄の形見	単著	平成26年12月	最新医療経営 フェイズ・スリー	(概要) 私の逸品 聖書 重症心身障害児の医療に一生を捧げた兄の形見について書いてみた。 (本人担当部分) 全て p. 96 (著者名) 石川 清
7	名古屋第二赤十字病院創立100周年記念事業紹介	単著	平成27年7月	愛知県病院協会会報	(概要) 名古屋第二赤十字病院は、昨年、創立100周年を迎え、それを契機に創立100周年記念事業を発表しました。同事業として2つの事業を計画しています。1つは名古屋市東部の災害医療の拠点としての「日赤愛知災害医療センター」棟の新築であり、もうひとつは地域の医療ニーズ(救急医療・高度医療)に応えるための救命救急センター棟の増改築です。2つの事業の計画予定地は、当院隣接地への「日赤愛知災害医療センター」棟の新築と救命救急センターに隣接したエリアへの増改築です。 (本人担当部分) 全て 261 : 16-18 (著者名) 石川 清
8	年頭所感 (2016年新年五礼会“新年のごあいさつ”より抜粋)	単著	平成28年1月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) まずは健全経営が大前提：最後になりましたが、上記の取り組みを進めていくためには、まずは健全経営が大前提です。昨年から取り組んできた安定的な経営体質への改善、コスト、特に、固定費削減に軸足を置いた盤石な経営基盤の上に、上記の目標についてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。職員の皆様のご協力をよろしくお祈ひします。 (本人担当部分) 全て 65 (596) : 78-80 (著者名) 石川 清

9	名古屋第二赤十字病院の進むべき方向性	単著	平成28年 5月	昭和区医師会雑誌 VITA	(概要) 現在の病院を取り巻く医療環境は“激変”と言っていいほど大きく変化しています。国の進めている地域医療ビジョン、病床報告制度、DPC制度改革、およびそれらに伴う病院経営の問題等々、色々な課題に直面して病院には大きな変革が求められています。こうした医療環境の変化の中、当院は堅固とした病院の進むべき方向性をもって取り組んでいかねばなりません。そこで本稿では“名古屋第二赤十字病院の進むべき方向性”というタイトルで書かせていただきました。 (本人担当部分) 全て p.50 (著者名) 石川清
10	<リレー連載>拝啓 看護部長	単著	平成28年 5月	看護のチカラ	(概要) 最近の片岡さんの新たな活動は、性暴力被害者のためのワンストップセンター、性暴力救援センター日赤なごや“なごみ”の開設に向けての取り組みです。全国的にもかなり不足しているワンストップセンターですが、救命救急センターを有する病院に開設されるのはわが国では初めてということで、いろいろなどころから大きな期待が寄せられています。その開設の中心的存在として、当院の職員だけでなく、院外の支援者をまとめて、今年の1月、開設までにごぎつけたことは本当に素晴らしいことと思います。今後このセンターは国際救援や災害救護と同様、当院の重要な柱の1つになることと思います。そしてその取り組みは、これからの片岡さんのライフワークになるかと思っています。 (本人担当部分) 全て 21(448) :2 (著者名) 石川清
11	人生のやりがいと赤十字に身を置く誇り”社会に貢献するモラルの高い病院”をめざして	単著	平成28年 3月	東信堂 人道研究ジャーナル	(概要) 当院は全国92ある赤十字病院のうちの5つの国際救援拠点病院の1つである。拠点病院は国際医療救援部を設置し、派遣要員の登録・養成・研修を担当し、今までにスーダン、ケニア、タンザニア、アフガニスタン、パキスタン、イラン、インド、東チモール、インドネシア、フィリピンなど数多くの国々の紛争や大災害に200名近くの職員を派遣してきた。いまや国際救援は当院の歴史と伝統の重要な柱の1つとなった。国際救援は赤十字の使命であると同時に、社会に貢献でき、非常にやりがいのある仕事である。 (本人担当部分) 全て 5:179-185 (著者名) 石川清
12	人生のやりがい	単著	平成29年 3月	愛知県病院協会会報	(概要) 医師という仕事は、人の命に関わる仕事であり、人から感謝されることは、だれにとっても人生の大きなやりがいとなる。医師とは、本来、病める患者さんを救うことにやりがいを感じる高い志を持った者であり、患者さんや家族からの感謝をやりがいとし、社会的な尊敬をプライドとし、これらが満たされれば、義務としての嫌な仕事や大変な仕事も耐えられるものだと思っている。 院長退任後もこんなやりがいを感じられる仕事が見つければいいことはない。 (本人担当部分) 全て 274:9-10 (著者名) 石川清
13	人生のやりがい	単著	平成29年 2月	日本赤十字院長連盟通信	(概要) 医師とは、本来、病める患者さんを救うことにやりがいを感じる高い志を持った者であり、患者さんや家族からの感謝をやりがいとし、社会的な尊敬をプライドとし、これらが満たされれば、義務としての嫌な仕事や大変な仕事も耐えられるものだと思っている。 院長退任後もこんなやりがいを感じられる仕事が見つければいいことはない。 (本人担当部分) 全て 66(597):60-61 (著者名) 石川清
14	2018年新年のご挨拶	単著	平成30年 1月	Future8510	(概要) JCI取得でワンランク上の病院に！ 新たな歴史を創る様々な取り組みに大きな期待 先ずは健全経営が大前提！ (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
15	将来の明るいビジョンが生活習慣を改善する	単著	平成30年 11月	清洲市健康コラム	(概要) それまでドクターから、このままだとひどい目にあう話は嫌というほど聞かされたけれど、楽しい未来について言われたのは初めてでした。ドクターとの短いやりとりの間に、生き生きと楽しそうに人生を過ごしている自分自身の映像が目の前にパッと広がり、そのビジョンで確実に行動は変わりました。それ以後、体重と血圧のコントロールに励み、晩酌も止め、その結果、体重も血圧も正常になりました。行動の源はネガティブな指導ではなく、将来の明るいビジョンでした。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
16	西日本豪雨災害について思うこと	単著	平成30年 11月	教員リレーコラム	(概要) 平成最悪の豪雨災害とされる今回の西日本豪雨災害では、死者・不明者合わせて二百数十名に及び、大雨警戒情報発令から1週間以上経過した今でもまだ約7千人の人たちが避難所生活を余儀なくされています。最近では、赤十字以外にもいろいろな組織が災害救護に高い関心を持ち、救援活動にも参加しています。わが愛知医療学院短期大学も何らかの形で、災害救護に関わることができればと思っています。避難所生活を余儀なくされている被災者にとって、リハビリを専門とする当大学の人たちが活躍する場は非常に多いと思います。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清

17	赤十字大好き人間	単著	平成30年 11月	教員リレーコラム	(概要) 私は、40年以上にわたって赤十字病院で勤務したことから、災害救護や国際救援に関わる機会も多くあり、赤十字の人道・博愛の精神や、世界中に存在する赤十字のネットワークなど赤十字のすばらしさを実際に体験し『赤十字大好き人間』になりました。現在も日赤の参与として日赤の活動に関わる一方、赤十字の素晴らしいを積極的に社会にアピールする役割を担っています。本学の建学の精神である仏心尽障(ぶっしんじんしょう)『知恵と慈しみの心を持って障がいを持つ人々の心身を広く支える』は、赤十字の人道・博愛の精神と非常に似ているところがあります。本学の学生の皆さんも『赤十字大好き人間』になってくれるとうれしいです。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
18	人生のやりがい	単著	平成31年 2月12日	名古屋千種ロータリークラブウィークリー「名古屋ちくさ」	(概要) 昨年、定年を迎え、新たな人生を迎えるに当たっては、「やりがいのある仕事」を第一に考えました。清須市にある佑愛学園という学校法人で、「地域のお年寄りを元気にする」というビジョンを掲げて社会貢献的な仕事に関わっています。人生100年時代、「規則正しい生活習慣と人生のやりがい健康長寿の秘訣」との信念のもと、日々やりがいを持って人生を送りたいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
19	医療界にも『健康経営』の普及を	単著	平成31年 3月	愛知県病院協会会報	(概要) 医療界でも「働き方改革」は喫緊の課題であり、早急にその対応が求められています。その対策としてまず『健康経営』に取り組むべきです。そもそも医療界における「働き方改革」の本質は、単なる長時間労働の是正ではなく「職員の健康」です。医療機関にとって最も大切なのは、「健康な職員」であり、健康とは単に病気でないと言うことではなく、心身共に健康で生き生きとして働ける状態です。職員が健康になることが経営にとってプラスになることをトップが認識し、職員の健康づくりに投資することが大切です。医療機関として「職員の健康」を最重点目標と位置づけ、その対応をしっかりとってれば、働き方はおのずから改善されるものと思います。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
20	医療界にも『健康経営』の普及を	単著	令和元年 5月	ドクターズマガジン 巻頭言	(概要) 医療界でも「働き方改革」は喫緊の課題であり、早急にその対応が求められています。その対策としてまず『健康経営』に取り組むべきです。そもそも医療界における「働き方改革」の本質は、単なる長時間労働の是正ではなく「職員の健康」です。医療機関にとって最も大切なのは、「健康な職員」であり、健康とは単に病気でないと言うことではなく、心身共に健康で生き生きとして働ける状態です。職員が健康になることが経営にとってプラスになることをトップが認識し、職員の健康づくりに投資することが大切です。医療機関として「職員の健康」を最重点目標と位置づけ、その対応をしっかりとってれば、働き方はおのずから改善されるものと思います。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
21	地域医療の正義の見方 期間病院の新たな役回りを考える	単著	平成31年 3月	中日新聞LINKED	(概要) 地域医療の正義の見方 期間病院の新たな役回りを考える (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
22	愛知医療学院短期大学 石川 清学長に聞く、短大・クリニック・こども園の三位一体で地域のお年寄りを元気に	単著	平成31年 4月	月刊 東海財界	(概要) 昨年春まで10年以上もの長きにわたり名古屋第二赤病院長を務めた石川清氏が今春、愛知県で唯一のリハビリ医療短期大学である愛知医療学院短期大学の新学長に就任。臨床医の現場リーダーから教育現場のリーダーへ。「これからは、地域のお年寄りを元気に」をやりがいに石川氏の第二の人生が、いざスタート。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
23	先見名言 地域貢献、産学連携に注力 愛知医療学院短期大学学長 石川 清氏	単著	令和元年 6月4日	中部経済新聞	(概要) 学校法人佑愛学園 愛知医療学院短期大学(清須市)は、4月1日付けで名古屋第二赤十字病院・前院長の石川清氏が新学長に就任した。同大学はリハビリテーションに特化した単科大学で、クリニックを併設。来春にはこども園も開設予定だ。石川学長に同大学の運営方針を聞いた。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
24	インタビュー今月のkey person お年寄り、学生、こどもが交流する地域づくりを推進 学校法人佑愛学園 愛知医療学院短期大学 学長 石川 清氏に聞く	単著	令和元年 9月	Health Care おかしん	(概要) 本学のさらなる発展のため、新学長として新たなビジョンやプロジェクトに取り組んでいます。新たなビジョンとは、来年4月、こども園が開園するのを契機に、短大、クリニック、こども園の3つの組織が三位一体となり、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元根差した学園になることです。また、プロジェクトとして、災害医療救護、全学的なコーチング、健康経営にも取り組んでいます。これらの新たなビジョンやプロジェクトに取り組むことによって、付加価値を持ったリハビリのプロを育成したいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清

25	「ご本人・ご家族が望まれた最期」	単著	令和元年 11月	川村梯式氏追悼 集・三晃社75年史	(概要) 川村氏は最後の最後まで住み慣れたご自宅でご家族と一緒に過ごされ、病院で過ごされたのは1日弱でした。ご家族との強い絆があり、ご家族が最期の迎え方を考えられておられたことが、望んだ最期を迎えられたと思います。病院の本来の使命は、最善の医療や看護を提供し病気を治すことですが、残念ながら人の死は避けられません。亡くなられる患者さんやご家族への対応は、最善の医療や看護を提供すること以上に大切なことだと思っています。川村家の皆さんが川村氏の最期を迎える場所として当院を選んでいただいたことに感謝し、今は亡き川村氏のご生前をしのびご冥福をお祈りするとともに、本稿を寄稿できますことを心から感謝し追悼の言葉とさせていただきます。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
26	学長就任あいさつ	単著	令和元年 7月	同窓会会報	(概要) 本学のさらなる発展のため、新学長として新たなビジョンやプロジェクトに取り組んでいます。新たなビジョンとは、来年4月、こども園が開園するのを契機に、短大、クリニック、こども園の3つの組織が三位一体となり、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元と根差した学園になることです。また、プロジェクトとして、災害医療救護、全学的なコーチング、健康経営にも取り組んでいます。これらの新たなビジョンやプロジェクトに取り組むことによって、付加価値を持ったリハビリのプロを育成したいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
27	Special Dialogue対談 前編 生産性の向上と健康レベルの向上が働き方改革の推進エンジンに	単著	令和元年 6月	日経ビジネス	(概要) 生産性の向上と健康レベルの向上が働き方改革の推進エンジンに (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
28	Special Dialogue対談 後編 健康戦略として取り組む健康経営データ活用がもたらす効果とは	単著	令和元年 7月	日経ビジネス	(概要) 健康戦略として取り組む健康経営データ活用がもたらす効果とは (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
29	Special Dialogue対談 前編 教育界でも健康経営、本質を理解して取り組めば企業業績にも貢献する	単著	令和元年 9月	日経ビジネス	(概要) 教育界でも健康経営、本質を理解して取り組めば企業業績にも貢献する (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
30	Special Dialogue対談 後編 健康管理データを一元管理することが健康経営を成功に導くカギになる	単著	令和元年 10月	日経ビジネス	(概要) 健康管理データを一元管理することが健康経営を成功に導くカギになる (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
31	学長あいさつ：付加価値を持ったリハビリのプロを育成	単著	令和元年 7月	後援会会報	(概要) 学長就任にあたりましてこの場をお借りして後援会の皆様にご挨拶をさせていただきます。さて、本学のさらなる発展のため、新学長として新たなビジョンやプロジェクトに取り組んでいます。新たなビジョンとは、来年4月、こども園が開園するのを契機に、短大、クリニック、こども園の3つの組織が三位一体となり、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元と根差した学園になることです。これらの新たなビジョンやプロジェクトに取り組むことによって、付加価値を持ったリハビリのプロを育成したいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
32	【巻頭特集】愛知県唯一のリハビリ医療専門短期大学 愛知医療学院短期大学	単著	令和元年 7月	清須・あま・地域 みっちゃんく生活情 報誌「くれよん」	(概要) 学園から、地元の方たちや未来の入学者へ伝えたいこと 本学はリハビリの短大、クリニック、こども園(2020年開園)の3つの組織が三位一体となり「地域のお年寄りを元気にする」というビジョンを掲げています。お年寄り、学生、こどもの3世代が、お互いを思いやり助け合いながら、日々日常の生活の中で交流する世界を創り、地域に根差した学園を目指しています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
33	地域医療振興、災害時救援で協力 愛知医療学院短期大学、清須市と連携協定	単著	令和元年 7月	中部経済新聞	(概要) 地域医療振興、災害時救援で協力 愛知医療学院短期大学、清須市と連携 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
34	大学・短大トップインタビュー	単著	令和元年 7月	リクルート進学総 研	(概要) ①37年の歴史と伝統を持ち1,700名以上のリハビリのプロを社会に輩出、②注目が集まる災害時のリハビリの役割、③三位一体となって地域のお年寄りを元気にする、④全学的なコーチング導入で主体性のある学生を育成、⑤「健康経営」の考え方を取り入れ、「健康」に関して意識の高い学生を育成、⑥四年制大学への移行を視野に入れ、盤石の体制で短大を運営 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清

35	ラグビーの魅力	単著	令和元年 7月	教員リレーコラム	(概要) ラグビーの魅力に取りつかれた人は沢山います。医師の中にも沢山いて、私もその一人です。本大会を盛り上げるために、日本最大級の医療従事者用Webサイト「m3.com」は、ラグビーに魅せられた医師達による<リレー企画：ラグビーを愛する医師列伝>を企画し、5月からサイトに掲載しています。執筆陣はIP細胞の山中伸弥先生はじめいずれも現在の医療界を牽引する医師たちで、この企画のために結成されたドリームチームです。僭越ながら私も執筆陣の一人として加えていただき第9回を担当しました。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
36	今こそ経営にコーチングを	単著	令和元年 12月	東海財界	(概要) 昨年春まで10年以上もの長きにわたり名古屋第二赤病院長を務めた石川清氏が今春、愛知県で唯一のリハビリ医療短期大学である愛知医療学院短期大学の新学長に就任。臨床医の現場リーダーから教育現場のリーダーへ。「これからは、地域のお年寄りを元気に」をやりがいに石川氏の第二の人生が、いざスタート。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
37	なごみ開設5周年に寄せて	単著	令和2年 5月	なごみ5年誌	(概要) なごみ開設5周年おめでとうございます。現在、活動しておられるスタッフの皆様の日頃の献身的な活動に敬意を表したいと思います。この5年間の活動で、いまやなごみは社会から必要とされる確固たる立ち位置を築かれたかと思っています。名古屋第二赤十字病院と女性と子どものライフケア研究所は、性暴力被害者支援のための病院拠点型のワンストップセンター開設の検討を開始し、当院を拠点としたワンストップセンター開設にむけて準備委員会を構成し、それを支える地域のネットワークの構築、支援者養成を含めた被害者支援体制づくりにむけて取り組みました。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
38	ラグビーに学ぶ健康長寿の3つの秘訣	単著	令和元年 7月	M3「リレー企画」ラグビーを愛する医師列伝	(概要) <リレー企画>ラグビーを愛する医師列伝 https://membersmedia.m3.com/articles/982 <ラグビーに学ぶ健康長寿3つの秘訣> 内容は「ラグビーに魅せられた私の青春時代」です。高校、大学、社会人を含める24歳の時まで26年間現役でした。現役時代はラグビーのプレーの面白さだけでなく、「紳士のスポーツ」、「自己犠牲の精神」、「ノーサイドの精神」などプレー以外の点でもラグビーの魅力に取りつかれ、ラグビーをやっていることにいつも誇りを感じていました。私にとってラグビーは人生のやりがいの1つであり、四半世紀にわたるラグビー経験から学んだことは多く、その後の自分の人生の生き方、物事の考え方に大きな影響を与えてくれました。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
39	新年のご挨拶	単著	令和2年 1月	学校法人佑愛学園ホームページ	(概要) 学校法人佑愛学園は2022年に創立40周年を迎えますが、創立40周年に向けて目指すべきビジョンにしっかり取り組んでいきたいと思っています。本年4月、こども園が開園し、佑愛学園は短大、クリニックに加えこども園を併設することになります。本学は、今までは短大単体として発展を遂げてきました。しかし、今後はクリニック、こども園を併設した他にはない特色のあるリハビリの短期大学として発展していくこととなります。短大、クリニック、こども園の3つの組織が有機的に繋がり、三位一体となって地域や行政と強く連携し、しっかりと地元根差した学園になることです。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
40	巻頭言	単著	令和2年 2月	令和元年度第10巻卒業論文集	(概要) 愛知医療学院短期大学第10期生による卒業論文集の発刊おめでとうございます。 (著者名) 石川清
41	愛知医療学院短期大学	単著	令和元年 7月	みんなで考える大学特集 (株)産通	(概要) 本学はリハビリに特化した単科の短期大学であり、37年の歴史と伝統を持ち、今までに1,700名以上の卒業生を社会に排出してきました。さらに、いま新たなビジョンに向けて取り組んでいます。短大、クリニック、こども園(来年4月開園)の3つの組織が三位一体となり、お年寄り、学生、こどもの3世代が日々日常の生活の中で、お互いを思いやり助け合いながら交流する場を提供することで、この地域になくてはならない学園を目指しています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清
42	専攻科の継続とより一層の活性化に向けて!	単著	令和2年 8月	同窓会会報	(概要) 同窓会の皆様には日頃より短大運営に深いご理解とご協力をいただきまして心より御礼を申し上げます。今回、専攻科継続を契機に、専攻科のより一層の活性化に向けて全学挙げて取り組むことによって4年生大学化へのステップとしたいと思っています。同窓会の皆様にはご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川清

43	学長就任あいさつ	単著	令和2年 11月	同窓会会報	(概要) 今後、本学がさらに発展していくためには、同窓会組織の皆様のご支援は不可欠となります。同窓会組織がより発展するばかりでなく、本学と同窓会組織とのより密接な関係を築いていきたいと思っています。そのためには卒業生の皆様が自慢できる短大、卒業生の皆様が好んで訪問したくなるような短大にならなければなりません。本学がこれまでの歴史と伝統を守りつつ、更なる発展をするために、学長として微力ながら貢献したいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
44	主體的な職員が育ち定着する「組織改革」の進め方	単著	令和2年 10月	ディスカバリー・ウェンティワン ホームページ	(概要) 院長自らがイニシアティブをとり、「職員がやりがいを持って働き続けられる」病院にグレードアップすべく、職員の待遇改善などにとどまらず、院内のコミュニケーションを活性化させ、コーチングを通して組織改革をしようと決断されました。しかも、自らに3年間という期限を定め、幹部をはじめとするリーダー層とともに、スタッフみんなまでコーチングに取り組み、主要なキーパーソンを次々に巻き込みながら改革を推進していかれました。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
45	“Withコロナ”を乗り越え新たな学園を目指して	単著	令和2年 6月	後援会会報	(概要) 本学園はこの4月にこども園が開園し組織として大きな変化がありました。こども園の開園を契機に、短大、クリニック、こども園の3つの組織が三位一体となり、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元根差した学園を目指していきます。そしてさらに、本学園創立40周年(2022年)を目標に、すでに取り組んでいるプロジェクト(災害医療プロジェクト、コーチングプロジェクト、健康経営プロジェクト等)を達成していきます。今後は“withコロナ”の危機を乗り越えたとともに、新たな学園を目指して教職員一丸となって頑張っていく所存です。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
46	巻頭言	単著	令和2年 6月	月刊東海財界	(概要) 一つの社会がまさかの時のためにどこまで投資をするかは、その社会を評価する尺度である。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
47	マイウエイ~人生のやりがいを求めて~	単著	令和3年 5月1日 令和3年 6月30日	中部経済新聞	(概要) 50日連載(人生のやりがいを求めて) (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
48	コロナ終息後の新たな学園を目指して	単著	令和3年 6月	後援会会報	(概要) 後援会の皆様には日頃から一方ならぬご支援をいただきまして有難うございます。本学園は昨年4月にこども園が開園し組織として大きな変化がありました。こども園の開園を契機に、短大、クリニック、こども園の3つの組織が三位一体となり、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元根差した学園を目指していきます。そして、新たな学園を目指して教職員一丸となって頑張っていく所存です。後援会の皆様には今後ともご支援をよろしくお願いいたします。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
49	大規模災害時に求められるリハスタッフの役割~過去の大災害から学んだ教訓~	単著	令和3年 9月	同窓会会報	(概要) 東日本大震災以後の大災害で、被災者の生活不活発病や災害関連死を防ぐための災害リハビリテーションの重要性が強調され、その活動を行ってきたJRT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) が高い評価を受けています。今回は自身で経験した過去の大災害から学んだ教訓についてお話しするとともに、JRATの活動についても言及したいと思います。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
50	瑞宝中綬章 (保健衛生功勞)	単著	令和3年 7月	名古屋医報	(概要) このたび、医師として紛争地域や自然災害の被災地で活動し、長年にわたり国際活動に貢献された、日赤愛知医療センター名古屋第二病院石川 清名誉院長が令和3年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されましたので、特別インタビューをお届けします。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
51	会員の栄誉：瑞宝中綬章	単著	令和3年 9月	愛知医報	(概要) 瑞宝中受賞受章報告 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
52	特別インタビュー：瑞宝中綬章受章	単著	令和3年 9月	赤十字国際ニュース	(概要) このたび、医師として紛争地域や自然災害の被災地で活動し、長年にわたり国際活動に貢献された、日赤愛知医療センター名古屋第二病院石川 清名誉院長が令和3年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されましたので、特別インタビューをお届けします。 (本人担当部分) 全て (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清

53	パロマ（株）と本学園との共同ワクチン接種	単著	令和3年9月	同窓会会報	(概要) 学校法人佐愛学園が目指すべく方向性として、かねてより近隣の企業との産学連携及び社会貢献活動を模索していました。そのような中、国の新型コロナウイルスワクチンの職域接種の方針が決定したのを受けて、本学園は近隣にあるパロマ（株）清須工場と共同でワクチン接種を実施することになりました。今回の接種で、パロマ（株）と本学園との良好な関係が得られたことから、近々、産学連携協定を結ぶ計画をしたいと思っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
54	生活習慣病を予防するために「影の理由」を克服する	単著	令和3年11月	広報清須市「健康のためのワンポイントアドバイス」	(概要) 生活習慣病を予防するために「影の理由」を克服することです。人は常になんらかの「影の理由」に突き動かされているから、と言います。実は、この「影の理由」を克服しなければ、めざす目的は達成できません。この「影の理由」が常に無意識のうちに最優先され、「表の理由」に対する行動が弱まります。「影の理由」をしっかりと表に引き上げ、それとどう折り合いをつけるか、まずはそれを考える必要があります。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
55	論壇：地域のお年寄りを元気にするというビジョン達成に向けて	単著	令和3年12月	全私学新聞	(概要) お年寄りとの交流で生きた学びの場に (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
56	「げんき広場」創刊号発行に寄せて	単著	令和4年3月	げんき広場	(概要) この度は「げんき広場」創刊号の発行おめでとうございます。「げんき広場」の発行をきっかけとして、清須市民げんき大学が益々発展し、さらには、“この地域のお年寄りが元気になる”ことを心より願っています。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
57	鈴木謙三記念医科学応用研究財団40周年記念誌発行に寄せて	単著	令和4年3月	鈴木謙三記念医科学応用研究財団40周年記念誌	(概要) 鈴木謙三記念医科学応用研究財団が故鈴木謙三氏の遺志に則り国民医療の健全なる発展とその振興に役立つことを願って設立され、40年もの長きにわたって調査研究への助成ばかりでなく国際交流への助成や学術講演会の開催などを通して社会に貢献されてきたことに心から敬意を表したい。「健康創造」を事業領域として「世のため、人のため」という“創業のこころ”を礎にしているスズケン株式会社と本財団の益々のご発展を祈念している。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清
No.	学会での口頭発表等				
No.	事 項	年 月 日	発表学会等の名称	概 要	
1	Dopamineの投与量による循環その他のパラメーターへの影響	昭和54年2月	第6回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 第6回日本集中治療医学会総会にて、opamineの投与量による循環その他のパラメーターへの影響について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村不二雄、原田 純、石川 清、他2名	
2	呼吸循環動態把握のための中心静脈採取の意義	昭和54年3月	第69回日本麻酔学会東海地方会 名古屋	(概要) 第69回日本麻酔学会東海地方会にて、呼吸循環動態把握のための中心静脈採取の意義について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他4名	
3	Carcinoid症候群の術中・術後の管理	昭和54年3月	第69回日本麻酔学会東海地方会 名古屋	(概要) 第69回日本麻酔学会東海地方会にて、Carcinoid症候群の術中・術後の管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 加藤 忠、石川 清、他2名	
4	肺胞蛋白症の大量肺洗浄効果と洗浄液組織に関する研究—3症例から—	昭和54年5月	第26回日本麻酔学会総会 東京	(概要) 第26回日本麻酔学会総会にて、肺胞蛋白症の大量肺洗浄効果と洗浄液組織に関する研究—3症例から—を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 後藤幸生、石川 清、他4名	
5	呼吸・循環動態把握のための中心静脈採取の意義	昭和55年2月	第7回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 第7回日本集中治療医学会総会にて、呼吸・循環動態把握のための中心静脈採取の意義を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他4名	

6	新鎮痛薬butorphanolの baranced anesthesiaへの応用	昭和56年 1月	第71回日本麻酔学会東海地方会 津	(概要) 第71回日本麻酔学会東海地方会にて、新鎮痛薬butorphanolの baranced anesthesiaへの応用について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 清田豊秋、竹内幹夫、中川 隆、 <u>石川 漣</u> 、他1名
7	1ヶ月にわたる集中管理を必要とした痙攣重積の一例	昭和56年 5月	第28回日本麻酔学会総会 松江	(概要) 第28回日本麻酔学会総会にて、1ヶ月にわたる集中管理を必要とした痙攣重積の一例を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漣</u> 、他4名
8	大量肺洗浄による各テクニックの比較検討—肺蛋白症の5症例から—	昭和56年 5月	第28回日本麻酔学会総会 松江	(概要) 第28回日本麻酔学会総会にて、大量肺洗浄による各テクニックの比較検討—肺蛋白症の5症例から—を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 後藤幸生、明石 学、 <u>石川 漣</u> 、他3名
9	骨セメント使用時の呼吸・循環動態の変動について	昭和56年 11月	第1回日本臨床麻酔学会総会 岡山	(概要) 第1回日本臨床麻酔学会総会にて、骨セメント使用時の呼吸・循環動態の変動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村明美、明石 学、野村知秀、二宮正則、 <u>石川 漣</u> 、他1名
10	Total Intravenous Anesthesia (TIA) の試み	昭和57年 2月	第72回日本麻酔学会東海地方会 名古屋	(概要) 第72回日本麻酔学会東海地方会にて、Total Intravenous Anesthesia (TIA) の試みを発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 立山 尚、八田 誠、的場宏江、中川 隆、 <u>石川 漣</u> 、他1名
11	クモ膜下微量モルフィン-GO麻酔の試み	昭和57年 2月	第72回日本麻酔学会東海地方会 名古屋	(概要) 第72回日本麻酔学会東海地方会にて、クモ膜下微量モルフィン-GO麻酔の試みを発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 竹内幹夫、 <u>石川 漣</u> 、他4名
12	重症患者のlong-term sedationとしてのアルテシンの持続注入法	昭和57年 5月	第9回日本集中治療医学会総会 福島	(概要) 第9回日本集中治療医学会総会にて、重症患者のlong-term sedationとしてのアルテシンの持続注入法を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漣</u> 、他6名
13	Total Intravenous Anesthesia (TIA) の試み	昭和57年 11月	第2回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 第2回日本臨床麻酔学会総会にて、Total Intravenous Anesthesia (TIA) の試みを発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漣</u> 、他5名
14	High frequency jet ventilationの換気条件	昭和57年 11月	第2回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 第2回日本臨床麻酔学会総会にて、.High frequency jet ventilationの換気条件について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平出 薫、八田 誠、 <u>石川 漣</u> 、他4名
15	VS-600による累積高頻度ジェット換気法	昭和58年 2月	第73回日本麻酔学会東海地方会 名古屋	(概要) 第73回日本麻酔学会東海地方会にて、VS-600による累積高頻度ジェット換気法を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平出 薫、 <u>石川 漣</u> 、他4名
16	偏側高頻度ジェット換気法が著効した左無気肺の一症例	昭和58年 3月	第10回日本集中治療医学会総会 岡山	(概要) 第10回日本集中治療医学会総会にて、偏側高頻度ジェット換気法が著効した左無気肺の一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 清田豊秋、明石 学、 <u>石川 漣</u> 、他2名

17	院内救急蘇生の実態	昭和58年 9月	第2回日本蘇生学 会総会 東京	(概要) 第2回日本蘇生学会総会にて、院内救急蘇生の実態について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 高田宗明、的場宏江、高須昭彦、 <u>石川 清</u> 、他3名
18	麻酔科医による大動脈バルンパン ピング (IABP) の施行	昭和59年 2月	第74回日本麻酔学 会東海地方会 岐阜	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、麻酔科医による大動脈バルンパンピング (IABP) の 施行について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村不二雄、清田豊秋、中川 隆、宮野英範、平出 薫、 <u>石川 清</u>
19	急性呼吸不全症例に対するOKY-046 の試用	昭和59年 3月	第11回日本集中治 療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、急性呼吸不全症例に対するOKY-046の試用について発 表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平出 薫、 <u>石川 清</u> 、他4名
20	蘇生後ICU管理症例からみた院内蘇 生の実態	昭和59年 3月	第11回日本集中治 療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、蘇生後ICU管理症例からみた院内蘇生の実態について 発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 清田豊秋、高田宗明、宮野英範、青地 修、平出 薫、 <u>石川 清</u>
21	局所止血のためのアドレナリン過 量投与により心停止をきたした症 例	昭和59年 9月	第3回日本蘇生学 会総会 熊本	(概要) 日本蘇生学会総会にて、局所止血のためのアドレナリン過量投与により心停止をき たした症例について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 清</u> 、他5名
22	アクトシン (Cyclic AMP製剤) の 循環におよぼす影響	昭和60年 3月	第75回日本麻酔学 会東海地方会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、アクトシン (Cyclic AMP製剤) の循環におよぼす影 響について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村不二雄、 <u>石川 清</u> 、他4名
23	重症肺不全に対するselective PEEPの試み	昭和60年 5月	第12回日本集中治 療医学会総会 仙台	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、重症肺不全に対するselective PEEPの試みについて 発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 清田豊秋、 <u>石川 清</u> 、他4名
24	重症患者の鎮痛鎮静法 (2) モル フィン間歇投与法と持続点滴法の 比較	昭和60年 5月	第12回日本集中治 療医学会総会 仙台	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、重症患者の鎮痛鎮静法 (2) モルフィン間歇投与法と 持続点滴法の比較について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村不二雄、 <u>石川 清</u> 、他4名
25	帯状疱疹痛の治療効果に関与する 因子について一多変量解析による 治療的評価の試み一	昭和60年 6月	第19回日本ペイン クリニック学会総 会 札幌	(概要) 日本ペインクリニック学会総会にて、帯状疱疹痛の治療効果に関与する因子につい て一多変量解析による治療的評価の試み一について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 早川 潔、津田喬子、竹内幹夫、馬淵則文、 <u>石川 清</u> 、他1名
26	コンピュータによる大量フェンタ ニール自動麻酔の試み	昭和61年 2月	第76回日本麻酔学 会東海地方会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、コンピュータによる大量フェンタニール自動麻酔の 試みについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 高須昭彦、竹内幹夫、八田 誠、 <u>石川 清</u> 、他2名
27	ICUの感染対策の一法としての内因 菌対策	昭和61年 2月	第13回日本集中治 療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、ICUの感染対策の一法としての内因菌対策について発 表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中川 隆、八田 誠、高須宏江、間淵則文、 <u>石川 清</u> 、他1名

28	DiltiazemのPancuroniumに対する筋弛緩増強作用の検討	昭和61年 11月	第6回日本臨床麻酔学会総会 仙台	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、DiltiazemのPancuroniumに対する筋弛緩増強作用の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 間瀬則文、 <u>石川 漑</u> 、他4名
29	麻酔下における心拍変動性の分析	昭和62年 4月	第34回日本麻酔学会総会 東京	(概要) 日本麻酔学会総会にて、麻酔下における心拍変動性の分析について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 竹内幹夫、 <u>石川 漑</u> 、他4名
30	ハローセン肝障害ラットモデルに対するシメチジン、N-アセチルシステインの効果	昭和62年 4月	第34回日本麻酔学会総会 東京	(概要) 日本麻酔学会総会にて、ハローセン肝障害ラットモデルに対するシメチジン、N-アセチルシステインの効果について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 津田喬子、 <u>石川 漑</u> 、他1名
31	Protective effect of cimetidine, N-acetylcystein (NAC) and-tocopherol of phenobarbital-	昭和63年 5月	9th World Congress of Anaesthesiologists ワシントン	(概要) 9th World Congress of Anaesthesiologistsにて、Protective effect of cimetidine, N-acetylcystein (NAC) and-tocopherol of phenobarbital-について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漑</u> 、他3名
32	ICU入室者の体温リズム	平成元年 2月	第79回日本麻酔学会東海地方会 浜松	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、ICU入室者の体温リズムについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石川茂樹、竹内幹夫、奥村恭子、小林智子、 <u>石川 漑</u> 、他2名
33	Continuous flow方式人工呼吸器CV-2000 AdultとNEWPORT VENTILATOR MODEL E100AのCPAPモードおよびassistモードでの比較	平成元年 2月	第79回日本麻酔学会東海地方会 浜松	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、Continuous flow方式人工呼吸器CV-2000 AdultとNEWPORT VENTILATOR MODEL E100AのCPAPモードおよびassistモードでの比較について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤彰師、馬瀬則文、中川 隆、 <u>石川 漑</u> 、他3名
34	Continuous flow方式人工呼吸器CV-2000 AdultとNEWPORT VENTILATOR MODEL E100AのCPAPモード、IMVモードおよびassistモードでの比較	平成元年 6月	第16回日本集中治療医学会総会 旭川	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、Continuous flow方式人工呼吸器CV-2000 AdultとNEWPORT VENTILATOR MODEL E100AのCPAPモード、IMVモードおよびassistモードでの比較について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 間瀬則文、伊藤彰師、石川茂樹、奥村恭子、花村泰範、 <u>石川 漑</u>
35	極端な低酸素血症にBarotraumaを合併し、weaningに難渋した肺水腫の一例	平成元年 7月	第11回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、極端な低酸素血症にBarotraumaを合併し、weaningに難渋した肺水腫の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 花村泰範、八田 誠、 <u>石川 漑</u> 、他5名
36	人工心肺後の橈骨動脈圧の信頼性の検証	平成元年 7月	第11回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、人工心肺後の橈骨動脈圧の信頼性の検証について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 薮 隆文、 <u>石川 漑</u> 、他5名
37	Hypovolemiaの指標としてのパルスオキシメーターの利用	平成元年 7月	第11回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、Hypovolemiaの指標としてのパルスオキシメーターの利用について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、 <u>石川 漑</u> 、他5名
38	New Approaches to the Treatment of the Critically Ill (Closed Loop Feedback System for Arterial Pressure Control)	平成元年 9月	THE 5TH WORLD CONGRESS ON INTENSIVE & CRITICAL CARE MEDICINE 京都	(概要) THE 5TH WORLD CONGRESS ON INTENSIVE & CRITICAL CARE MEDICINEにて、New Approaches to the Treatment of the Critically Ill (Closed Loop Feedback System for Arterial Pressure Control) について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漑</u> 、他6名

39	Body Temperature Rhythm of Critically Ill Patients	平成元年 9月	THE 5TH WORLD CONGRESS ON INTENSIVE & CRITICAL CARE MEDICINE 京都	(概要) THE 5TH WORLD CONGRESS ON INTENSIVE & CRITICAL CARE MEDICINEにて、Body Temperature Rhythm of Critically Ill Patientsについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 竹内幹夫、津田喬子、石川 清、他3名
40	Hypovolemiaの指標としてのパルスオキシメーターの利用	平成元年 11月	第9回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、Hypovolemiaの指標としてのパルスオキシメーターの利用について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、石川 清、他6名
41	人工心肺後の橈骨動脈圧の信頼性の検討	平成元年 11月	第9回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、人工心肺後の橈骨動脈圧の信頼性の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 薊 隆文、石川 清、他4名
42	IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの1例	平成2年 2月	第80回日本麻酔学会東海地方会 岡崎	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田淵昭彦、石川 清、他4名
43	ラリンジャルマスク挿入時の循環動態に及ぼす影響の検討	平成2年 2月	第80回日本麻酔学会東海地方会 岡崎	(概要) 日本麻酔学会東海地方会にて、ラリンジャルマスク挿入時の循環動態に及ぼす影響の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋貞哉、馬淵則文、石川 清、他4名
44	ラリンジャルマスクによるEhlers-Danlos症候群の経験	平成2年 5月	第37回日本麻酔学会総会 長野	(概要) 日本麻酔学会総会にて、ラリンジャルマスクによるEhlers-Danlos症候群の経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤彰師、馬淵則文、中川 隆、安藤 浩、石川 清、他1名
45	心原性呼吸不全の管理についての検討—水分バランスからみた考察—	平成2年 6月	第17回日本集中治療医学会総会 大阪	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、心原性呼吸不全の管理についての検討—水分バランスからみた考察—について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他5名
46	IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの1例	平成2年 6月	第17回日本集中治療医学会総会 大阪	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、IABPによる循環管理にて救命しえたアナフィラキシーショックの1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田淵昭彦、石川 清、他4名
47	BRONCHODILATING EFFECT OF INHALED OR ORALY ADMINISTERED CALCIUM CHANNEL BLOCKING AGENTSON METHACHOLINE-INDUCED BRONCHOCONSTRICTION	平成2年 6月	Joint Meeting of the Canadiaan Anaesthetists' Society and the Japan Society of Anesthesiology Canada	(概要) Joint Meeting of the Canadiaan Anaesthetists' Society and the Japan Society of Anesthesiologyにて、BRONCHODILATING EFFECT OF INHALED OR ORALY ADMINISTERED CALCIUM CHANNEL BLOCKING AGENTSON METHACHOLINE-INDUCED BRONCHOCONSTRICTIONについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 津田喬子、竹内幹夫、石川 清、他3名
48	心原性呼吸不全症例に対するマスク変動のCPAP換気法の有用性	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、心原性呼吸不全症例に対するマスク変動のCPAP換気法の有用性について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 高木宏幸、石川 清、他3名
49	急性心不全を来した高血圧性緊急症例の検討	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、急性心不全を来した高血圧性緊急症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋貞哉、石川 清、他4名

50	名古屋市立大学医学部集中治療部 (ICU) における死亡症例の統計	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、名古屋市立大学医学部集中治療部 (ICU) における死亡症例の統計について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 花村泰範、竹内幹夫、八田 誠、山原 武、石川 漣、他1名
51	モルフィン、ミダゾラム併用持続点滴による鎮痛鎮静法—至適投与量の検討—	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、モルフィン、ミダゾラム併用持続点滴による鎮痛鎮静法—至適投与量の検討—について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 角谷信子、石川 漣、他4名
52	IABP作動中バルーン破裂を起こした一症例	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、IABP作動中バルーン破裂を起こした一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 大堀 久、石川 漣、他4名
53	変動CPAPの肺酸素化能—変動CPAPレベル及び変動回数との及ぼす影響—	平成2年 9月	第12回日本集中治療医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、変動CPAPの肺酸素化能—変動CPAPレベル及び変動回数との及ぼす影響—について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、石川 漣、他4名
54	体表式ペーシングにより救命し得た心停止の一例	平成2年 10月	第9回日本蘇生学会総会 山形	(概要) 日本蘇生学会総会にて、体表式ペーシングにより救命し得た心停止の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、石川 漣、他4名
55	術中超大量出血症例の管理についての検討	平成2年 11月	第10回日本臨床麻酔学会総会 横浜	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、術中超大量出血症例の管理についての検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 湯本正人、西田 修、石川 漣、他3名
56	Cutis marmorata telangiectasia congenitaの麻酔経験	平成2年 11月	第10回日本臨床麻酔学会総会 横浜	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、Cutis marmorata telangiectasia congenitaの麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 宮本 克、竹内幹夫、石川 漣、他3名
57	変動CPAPの肺酸素化能—変動CPAPレベル及び変動回数との及ぼす影響—	平成3年 2月	第18回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、変動CPAPの肺酸素化能—変動CPAPレベル及び変動回数との及ぼす影響—について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、石川 漣、他5名
58	骨髄移植後呼吸不全のICUにおける管理	平成3年 2月	第18回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、骨髄移植後呼吸不全のICUにおける管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、八田 誠、石川 漣、他4名
59	重篤な全身症状を呈したVivrio Vulnificus感染症の3症例	平成3年 2月	第18回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、重篤な全身症状を呈したVivrio Vulnificus感染症の3症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋貞哉、石川 漣、他5名
60	モルフィン、ミダゾラム併用持続点滴による鎮痛鎮静法—至適投与量の検討—	平成3年 2月	第18回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、モルフィン、ミダゾラム併用持続点滴による鎮痛鎮静法—至適投与量の検討—について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 角谷信子、石川 漣、他5名
61	IABP作動中バルーン破裂を起こした一症例	平成3年 2月	第18回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、IABP作動中バルーン破裂を起こした一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田義人、石川 漣、他5名

62	経食道的および経気管的ドップラー法による連続的心拍出量測定 の検討	平成3年 2月	第81回日本麻酔学会 東海地方会総会 豊明	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、経食道的および経気管的ドップラー法による連続的心拍出量測定 の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田義人、西田 修、湯本正人、米子憲一、八田 誠、石川 清、他1名
63	プロスタグランディンE1投与が移植腎機能に及ぼす影響の検討	平成3年 2月	第81回日本麻酔学会 東海地方会総会 豊明	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、プロスタグランディンE1投与が移植腎機能に及ぼす影響の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石田 進、安藤 浩、竹内幹夫、花村泰範、高須宏江、石川 清、他1名
64	ウィーニングの指標としての酸素消費量の面からみた呼吸仕事量測定の意義	平成3年 2月	第81回日本麻酔学会 東海地方会総会 豊明	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、ウィーニングの指標としての酸素消費量の面からみた呼吸仕事量測定の意義について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 梶野友世、石川 清、他5名
65	重篤な全身症状を呈したVivrio Vulnificus感染症の3例	平成3年 2月	第81回日本麻酔学会 東海地方会総会 豊明	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、重篤な全身症状を呈したVivrio Vulnificus感染症の3例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 米子憲一、棚橋貞範、石川 清、他4名
66	重症呼吸不全、心不全をきたした長期気管内挿管を要したマイコプラズマ肺炎の一症例	平成3年 2月	第81回日本麻酔学会 東海地方会総会 豊明	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、重症呼吸不全、心不全をきたした長期気管内挿管を要したマイコプラズマ肺炎の一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋貞範、馬淵則文、伊藤彰師、高須宏江、安藤恒三郎、石川 清、他1名
67	体外循環下心臓手術におけるサイオペンタールの末梢循環に及ぼす影響	平成3年 3月	第38回日本麻酔学会 総会 大阪	(概要) 日本麻酔学会総会にて、体外循環下心臓手術におけるサイオペンタールの末梢循環に及ぼす影響について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤彰師、田中明美、荒川もとみ、永田真敏、石川 清、他2名
68	麻酔科医による救急方式の産科救急活動一過去15年間のまとめ	平成3年 3月	第8回東海救急医学会 総会 静岡	(概要) 東海救急医学会総会にて、麻酔科医による救急方式の産科救急活動一過去15年間のまとめについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、石川 清、他5名
69	生体部分肝移植術後のICU管理について	平成3年 9月	第13回日本集中治療医学会 東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、生体部分肝移植術後のICU管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、石川 清、他6名
70	APACHE-IIシステム中間報告	平成3年 9月	第13回日本集中治療医学会 東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、APACHE-IIシステム中間報告について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 薊 隆文、八田 誠、石川 清、他4名
71	ICUにおける周術期管理にて救命し得た縦隔腫瘍の一例	平成3年 9月	第13回日本集中治療医学会 東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、ICUにおける周術期管理にて救命し得た縦隔腫瘍の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 角谷信子、石川 清、他5名
72	機械的人工呼吸からのウィーニング時のモニターとしての代謝モニターの有用性	平成3年 9月	第13回日本集中治療医学会 東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、機械的人工呼吸からのウィーニング時のモニターとしての代謝モニターの有用性について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石田 進、石川 清、他5名
73	血漿交換+血液濾過透析が有効であった亜急性型劇症肝炎の2症例の治療経験	平成3年 9月	第13回日本集中治療医学会 東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海地方会総会にて、血漿交換+血液濾過透析が有効であった亜急性型劇症肝炎の2症例の治療経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 笹野 寛、竹内昭憲、田淵昭彦、小田尚子、米子憲一、馬場瑛逸、白木茂博、石川 清、他1名

74	プロスタグランジンE1投与による低血圧麻酔が腎機能に及ぼす影響の検討	平成3年 10月	第11回日本臨床麻酔学会総会 浦安	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、プロスタグランジンE1投与による低血圧麻酔が腎機能に及ぼす影響の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、湯本正人、 <u>石川 漕</u> 、他4名
75	経食道のおよび経気管的ドップラー法による連続的心拍出量測定 の検討	平成3年 10月	第11回日本臨床麻酔学会総会 浦安	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、経食道のおよび経気管的ドップラー法による連続的心拍出量測定 の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田義人、西田 修、 <u>石川 漕</u> 、他4名
76	麻酔科医による救済方式の産科救急活動一過去15年間のまとめ	平成3年 11月	第19回日本救急医学会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、麻酔科医による救済方式の産科救急活動一過去15年間のまとめ について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、 <u>石川 漕</u> 、他5名
77	生体部分肝移植術後のICU管理について	平成4年 2月	第19回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会総会にて、生体部分肝移植術後のICU管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 西田 修、 <u>石川 漕</u> 、他5名
78	ICUにおける周術期管理にて救命し得た縦隔腫瘍の一例	平成4年 2月	第19回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会総会にて、ICUにおける周術期管理にて救命し得た縦隔腫瘍の一例 について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 角谷信子、 <u>石川 漕</u> 、他5名
79	機械的人工呼吸からのウィーニング時のモニターとしての代謝モニターの有用性	平成4年 2月	第19回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会総会にて、機械的人工呼吸からのウィーニング時のモニターとしての代謝モニターの有用性について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石田 進、 <u>石川 漕</u> 、他5名
80	ウィーニング時のモニターとしてのCP-100ブルモナリモニターの有用の検討	平成4年 3月	第82回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、ウィーニング時のモニターとしてのCP-100ブルモナリモニターの有用の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石田 進、 <u>石川 漕</u> 、他5名
81	ICU管理のもとに緊急手術を施行した症例の検討	平成4年 3月	第82回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、ICU管理のもとに緊急手術を施行した症例の検討 について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 湯本正人、間瀬則文、伊藤彰師、高須宏江、 <u>石川 漕</u> 、他1名
82	ABO血液型不適合生体部分肝移植における超急性拒絶反応コントロール	平成4年 3月	第82回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、ABO血液型不適合生体部分肝移植における超急性拒絶反応コントロール について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、安藤 浩、西田 修、薊 隆文、津田喬子、 <u>石川 漕</u> 、他1名
83	術前、手術室において分肺機能を測定した肺切除術の一症例	平成4年 3月	第82回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、術前、手術室において分肺機能を測定した肺切除術の一症例 について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田義人、八田 誠、安藤 浩、石田 進、 <u>石川 漕</u> 、他2名
84	生体部分肝移植術後、縦隔気腫、穿孔性腹膜炎を合併した一症例	平成4年 3月	第82回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、生体部分肝移植術後、縦隔気腫、穿孔性腹膜炎を合併した一症例 について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 朝元健次、西田 修、 <u>石川 漕</u> 、他5名
85	Continuous measurements of V02, VCO2 and RQ as a predictor of successful weaning from mechanical ventilation	平成4年 3月	12th International Symposium on Intensive care and Emergency Medicine Brussels	(概要) 12th International Symposium on Intensive care and Emergency Medicineにて、Continuous measurements of V02, VCO2 and RQ as a predictor of successful weaning from mechanical ventilation について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>石川 漕</u> 、他3名

86	ABO血液型不適合間生体部分肝移植の麻酔経験	平成4年 4月	第39回日本麻酔学会総会 福岡	(概要) 日本麻酔学会総会にて、ABO血液型不適合間生体部分肝移植の麻酔経験について発表 した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、八田 修、湯本正人、藤田義人、角谷信子、西田 修、石 川 清、他1名
87	当ICUにおけるDNR症例の検討	平成5年 2月	第83回日本麻酔学会東海地方会総会 岐阜	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、当ICUにおけるDNR症例の検討について発表し た。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清
88	ECLA症例28例の検討	平成5年 6月	第20回日本集中治療医学会総会 札幌	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、ECLA症例28例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石田 進、棚橋貞哉、西田 修、石川 清、他5名
89	高齢者集中治療の現況と問題点	平成6年 2月	第21回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、高齢者集中治療の現況と問題点について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他3名
90	当ICUにおけるDNR症例の検討	平成6年 9月	第2回日本集中治療医学会東海北陸地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、当ICUにおけるDNR症例の検討について発 表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清
91	9劇症型感染症の5症例	平成6年 9月	第2回日本集中治療医学会東海北陸地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、劇症型感染症の5症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 永井英雅、湯本正人、岡本江里砂、有馬 一、安藤 浩、高須宏江、 石川 清
92	市中病院の救急医療におけるICUのはたす役割	平成6年 10月	第12回日本救急医学会東海地方会 名古屋	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、市中病院の救急医療におけるICUのはたす役割につ いて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、高須宏江、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、石川 清
93	当ICUにおけるDNR症例の検討	平成7年 2月	第22回日本集中治療医学会総会 大阪	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、当ICUにおけるDNR症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清、 他1名
94	無脾症ないし脾摘後に見られた重症感染症の3症例	平成7年 2月	第22回日本集中治療医学会総会 大阪	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、無脾症ないし脾摘後に見られた重症感染症の3症例に ついて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 湯本正人、岡本江里砂、有馬 一、安藤 浩、高須宏江、石川 清、 他1名
95	Septic DICにおける抗PAF剤の使用経験	平成7年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、Septic DICにおける抗PAF剤の使用経験について 発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
96	強皮症合併妊娠に対する帝王切開術の麻酔経験	平成7年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、強皮症合併妊娠に対する帝王切開術の麻酔経験 について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清
97	Bystander、救急隊によるCPRに引き続きECLA施行により救命し得たDOA症例	平成7年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、Bystander、救急隊によるCPRに引き続きECLA施 行により救命し得たDOA症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 有馬 一、岡本江里砂、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清

98	長期低栄養下に置かれショック状態でICUに搬入されたホームレスの一例	平成7年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、長期低栄養下に置かれショック状態でICUに搬入されたホームレスの一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 後藤美穂子、湯本正人、岡本江里砂、有馬 一、安藤 浩、高須宏江、石川 清
99	Septic DICにおける抗PAF剤の使用経験	平成7年 4月	第42回日本麻酔学会総会浜松	(概要) 日本麻酔学会総会にて、Septic DICにおける抗PAF剤の使用経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安藤 浩、岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
100	強皮症合併妊娠に対する帝王切開術の麻酔経験	平成7年 4月	第42回日本麻酔学会総会浜松	(概要) 日本麻酔学会総会にて、強皮症合併妊娠に対する帝王切開術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 岡本江里砂、有馬 一、湯本正人、安藤 浩、高須宏江、石川 清
101	15回のICU入退室を繰り返した低肺機能の1例	平成7年 9月	第3回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会岐阜	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、15回のICU入退室を繰り返した低肺機能の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋順治、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
102	多臓器不全に対しステロイドパルス療法が著効したHAM	平成7年 9月	第3回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会岐阜	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、多臓器不全に対しステロイドパルス療法が著効したHAMについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 宮本綾子、杉本憲治、若山江里砂、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
103	呼吸管理に難渋した高度肥満の一例	平成7年 9月	第3回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会岐阜	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、呼吸管理に難渋した高度肥満の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 内堀充敏、有馬 一、杉本憲治、若山江里砂、湯本正人、高須宏江、石川 清
104	心臓術後縦隔炎 (MRSA感染症) の3症例	平成7年 9月	第3回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会岐阜	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、心臓術後縦隔炎 (MRSA感染症) の3症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 若山江里砂、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
105	体育の運動中、心肺停止状態となり、教師・救急隊員によるCPRを施行されDOA状態で搬入された中高校生の三症例	平成7年 10月	第14回日本蘇生学会総会鹿児島	(概要) 日本蘇生学会総会にて、体育の運動中、心肺停止状態となり、教師・救急隊員によるCPRを施行されDOA状態で搬入された中高校生の三症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋順治、石川 清、他6名
106	低栄養による低K血症にて頻回のVT発作を来したホームレスの一例	平成7年 10月	第14回日本蘇生学会総会鹿児島	(概要) 日本蘇生学会総会にて、低栄養による低K血症にて頻回のVT発作を来したホームレスの一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、若山江里砂、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清、他1名
107	縦隔気腫・皮下気腫を合併するもイソフルラン吸入が著効した喘息重責発作の一例	平成7年 10月	第13回日本救急医学会東海地方会総会岐阜	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、縦隔気腫・皮下気腫を合併するもイソフルラン吸入が著効した喘息重責発作の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 勝野雅央、若山江里砂、棚橋順治、杉本憲治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
108	体育の運動中、心肺停止状態となり、教師・救急隊員によるCPRを施行されDOA状態で搬入された中高校生の三症例	平成7年 10月	第13回日本救急医学会東海地方会総会岐阜	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、体育の運動中、心肺停止状態となり、教師・救急隊員によるCPRを施行されDOA状態で搬入された中高校生の三症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 若山江里砂、棚橋順治、杉本憲治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
109	低栄養による低K血症にて頻回のVT発作を来したホームレスの一例	平成7年 10月	第13回日本救急医学会東海地方会総会岐阜	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、低栄養による低K血症にて頻回のVT発作を来したホームレスの一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、若山江里砂、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清

110	救命救急センターを有する市中基幹病院の救急医療の現状と問題点	平成7年 11月	第23回日本救急医学会総会 福岡	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、救命救急センターを有する市中基幹病院の救急医療の現状と問題点について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他7名
111	18回のICU入室を繰り返した低肺機能の1例	平成8年 1月	第23回日本集中治療医学会総会 横浜	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、18回のICU入室を繰り返した低肺機能の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋順治、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
112	呼吸管理に難渋した高度肥満の1例	平成8年 1月	第23回日本集中治療医学会総会 横浜	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、呼吸管理に難渋した高度肥満の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 内堀充敏、有馬 一、杉本憲治、若山江里砂、湯本正人、高須宏江、石川 清
113	心臓術後縦隔炎 (MRSA感染症) の3症例	平成8年 1月	第23回日本集中治療医学会総会 横浜	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、心臓術後縦隔炎 (MRSA感染症) の3症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 若山江里砂、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
114	多臓器不全にて死亡したサルモネラ敗血症の1例	平成8年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、多臓器不全にて死亡したサルモネラ敗血症の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田孝義、棚橋順治、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
115	妊娠合併Marfan症候群に対する帝王切開術の麻酔経験	平成8年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、妊娠合併Marfan症候群に対する帝王切開術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 山田浩史、棚橋順治、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
116	透析患者の心臓手術における周術期問題点の検討	平成8年 2月	第85回日本麻酔学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本麻酔学会東海地方会総会にて、透析患者の心臓手術における周術期問題点の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、若山江里砂、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清
117	腎性上皮小体機能亢進症における上皮小体摘出前腕自家移植術の周術期管理	平成8年 4月	第43回日本麻酔学会総会 岡山	(概要) 日本麻酔学会総会にて、腎性上皮小体機能亢進症における上皮小体摘出前腕自家移植術の周術期管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 加藤倫子、湯本正人、棚橋順治、若山江里砂、杉本憲治、有馬 一、高須宏江、石川 清、他1名
118	骨セメントにより術中心停止をきたしたECLAにて救命しえた大腿骨頸部骨折の1例	平成8年 4月	第43回日本麻酔学会総会 岡山	(概要) 日本麻酔学会総会にて、骨セメントにより術中心停止をきたしたECLAにて救命しえた大腿骨頸部骨折の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、若山江里砂、棚橋順治、有馬 一、湯本正人、高須宏江、石川 清、他1名
119	原因不明の重症感染症に横紋筋融解症、DIC、腎不全を合併した1例	平成8年 6月	第4回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会 福井	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、原因不明の重症感染症に横紋筋融解症、DIC、腎不全を合併した1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平手博之、杉本憲治、田中啓介、棚橋順治、有馬 一、若山江里砂、安田眞佐理、高須宏江、石川 清
120	急激な経過で不幸な転帰をとった急性壊死性脳症の1例	平成8年 6月	第4回日本集中治療医学会東海北陸地方会総会 福井	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会総会にて、急激な経過で不幸な転帰をとった急性壊死性脳症の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田中啓介、棚橋順治、平手博之、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、高須宏江、石川 清

121	病原性大腸菌O-157による感染症に急性脳症を合併し死亡した一症例	平成8年 9月	第13回日本救急医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、病原性大腸菌O-157による感染症に急性脳症を合併し死亡した一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、高須宏江、石川 漣
122	当院救急救命センターにおけるアナフィラキシーショック症例の検討	平成8年 9月	第13回日本救急医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、当院救急救命センターにおけるアナフィラキシーショック症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、高須宏江、石川 漣
123	水中毒に横紋筋融解症を来した一症例	平成8年 9月	第13回日本救急医学会東海地方会総会 名古屋	(概要) 日本救急医学会東海地方会総会にて、水中毒に横紋筋融解症を来した一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 竹内美佳、田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、高須宏江、石川 漣
124	Management by tracheobronchial stents placement for a case with extreme thoracic deformity of spinal caries	平成8年 11月	第5回アジア呼吸療法学会 タイ	(概要) アジア呼吸療法学会にて、Management by tracheobronchial stents placement for a case with extreme thoracic deformity of spinal cariesについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) K. Sugimoto, K. Tanaka, H. Hirate, E. Wakayama, H. Arima, M. Yasuda, H. Takasu, K. Ishikawa
125	透析患者の心臓手術における周術期管理の検討	平成8年 11月	第1回日本心臓血管麻酔学会総会 東京	(概要) 日本心臓血管麻酔学会総会にて、透析患者の心臓手術における周術期管理の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田中啓介、杉本憲治、平手博之、棚橋順治、高須宏江、石川 漣
126	胸郭形成術後の呼吸機能低下患者に対する僧帽弁置換術の麻酔経験	平成8年 11月	第1回日本心臓血管麻酔学会総会 東京	(概要) 日本心臓血管麻酔学会総会にて、胸郭形成術後の呼吸機能低下患者に対する僧帽弁置換術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 加藤 互、杉本憲治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、石川 漣
127	寒冷凝集素症合併Marfan症候群に対する低体温下下部人工血管置換術の麻酔経験	平成8年 11月	第16回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、寒冷凝集素症合併Marfan症候群に対する低体温下下部人工血管置換術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、田中啓介、平手博之、棚橋順治、若山江里砂、有馬 一、安田眞佐理、高須宏江、石川 漣
128	冠動脈バイパス術、腹部人工血管置換術を同時に施行した6症例	平成8年 11月	第16回日本臨床麻酔学会総会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会総会にて、冠動脈バイパス術、腹部人工血管置換術を同時に施行した6症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平手博之、有馬 一、田中啓介、杉本憲治、棚橋順治、若山江里砂、安田眞佐理、高須宏江、石川 漣
129	抗凝固モニターHepcon/HMSの使用経験（ヘパリン・プロタミン定量、血小板活性凝固試験）	平成9年 2月	第87回日本麻酔学会東海北陸地方会 沼津	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、抗凝固モニターHepcon/HMSの使用経験（ヘパリン・プロタミン定量、血小板活性凝固試験）について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平手博之、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
130	生体腎移植後患者に対する冠動脈バイパス術の麻酔経験	平成9年 2月	第87回日本麻酔学会東海北陸地方会 沼津	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、生体腎移植後患者に対する冠動脈バイパス術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田中啓介、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
131	食道癌手術症例における周術期管理	平成9年 2月	第87回日本麻酔学会東海北陸地方会 沼津	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、食道癌手術症例における周術期管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 雨宮 剛、有馬 一、杉本憲治、棚橋順治、高須宏江、石川 漣

132	最近10年間の腎性上皮小体機能亢進症に対する上皮小体全摘出後前腕筋肉内自家移植術の麻酔管理	平成9年 4月	第44回日本麻酔学会総会 新潟	(概要) 日本麻酔学会総会にて、最近10年間の腎性上皮小体機能亢進症に対する上皮小体全摘出後前腕筋肉内自家移植術の麻酔管理について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 棚橋順治、平手博之、田中啓介、有馬 一、高須宏江、石川 漑
133	胸郭形成術後の呼吸機能低下患者に対する心臓手術の3症例	平成9年 4月	第44回日本麻酔学会総会 新潟	(概要) 日本麻酔学会総会にて、胸郭形成術後の呼吸機能低下患者に対する心臓手術の3症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平手博之、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漑
134	集中治療の医療費の内訳と影響を及ぼす因子の検討	平成9年 5月	第24回日本集中治療医学会総会 盛岡	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、集中治療の医療費の内訳と影響を及ぼす因子の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 有馬 一、平手博之、田中啓介、棚橋順治、杉本憲治、高須宏江、石川 漑
135	術中AMIを発症しPCPS、PTCAを施行するも救命し得なかった1症例	平成9年 5月	第24回日本集中治療医学会総会 盛岡	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、「術中AMIを発症しPCPS、PTCAを施行するも救命し得なかった1症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 原田修治、杉本憲治、平手博之、田中啓介、棚橋順治、有馬 一、安田眞佐里、高須宏江、石川 漑
136	左肺腫瘍内出血による急性呼吸循環不全に対し二期的手術にて救命し得た肺腫瘍の1例	平成9年 5月	第24回日本集中治療医学会総会 盛岡	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、「左肺腫瘍内出血による急性呼吸循環不全に対し二期的手術にて救命し得た肺腫瘍の1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 高橋 祐、田中啓介、平手博之、棚橋順治、杉本憲治、有馬 一、高須宏江、石川 漑
137	Evaluation of Costs of Intensive Care in the Community Hospital in Japan	平成9年 6月	The 7th World Congress of Intensive&Critical Care Medicine Ottawa	(概要) The 7th World Congress of Intensive&Critical Care Medicine Ottawaにて、Evaluation of Costs of Intensive Care in the Community Hospital in Japanについて発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) <u>Kiyoshi Ishikawa</u> 、他4名
138	Intensive Care of Guillan-Barre Syndrome	平成9年 6月	The 7th World Congress of Intensive&Critical Care Medicine Ottawa	(概要) The 7th World Congress of Intensive&Critical Care Medicine Ottawaにて、Intensive Care of Guillan-Barre Syndromeについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) Masahisa Katsuno, Hajime Arima, Kenji Sugimoto, Hiroe Takasu, <u>Kiyoshi Ishikawa</u>
139	心拍再開しICU管理を行った院外心肺機能停止(CPAOA)症例の検討～生命倫理、医療経済の観点から～	平成9年 6月	第5回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「心拍再開しICU管理を行った院外心肺機能停止(CPAOA)症例の検討～生命倫理、医療経済の観点から～」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 遠山 卓、横江正道、山田富雄、真野るみ子、有馬 一、杉本憲治、石川 漑
140	IABP離脱困難となった心原性ショック2症例についての検討	平成9年 6月	第5回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、IABP離脱困難となった心原性ショック2症例についての検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、大島 覚、杉本憲治、田中啓介、平手博之、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漑
141	CPB離脱困難に対しLVASを使用し軽快したCABG・MVPの一症例	平成9年 6月	第5回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、CPB離脱困難に対しLVASを使用し軽快したCABG・MVPの一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤義久、真野るみ子、山田富雄、平手博之、田中啓介、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漑
142	心臓手術におけるHepecon/HMSの使用経験	平成9年 9月	第2回日本心臓血管麻酔学会 札幌	(概要) 日本心臓血管麻酔学会にて、心臓手術におけるHepecon/HMSの使用経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田中啓介、杉本憲治、真野るみ子、山田富雄、平手博之、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漑
143	日本赤十字社の災害救護訓練の現状	平成9年 10月	第14回日本救急医学会東海地方会 浜松	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、日本赤十字社の災害救護訓練の現状について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漑、他3名

144	治療に難渋したHELLP症候群の一例	平成9年 10月	第14回日本救急医学 会東海地方会 浜松	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「治療に難渋したHELLP症候群の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 真野るみ子、山田富雄、田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
145	治療に難渋するも集中治療により救命しえた悪性症候群の一例	平成9年 10月	第14回日本救急医学 会東海地方会 浜松	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「治療に難渋するも集中治療により救命しえた悪性症候群の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 大塚康洋、真野るみ子、山田富雄、田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
146	痙攣コントロールに難渋しICU管理を行った無菌性髄膜炎の一例	平成9年 10月	第14回日本救急医学 会東海地方会 浜松	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「痙攣コントロールに難渋しICU管理を行った無菌性髄膜炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、遠山卓、塚川敏行、鈴木伸行、田中啓介、平手博之、杉本憲治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
147	当院の心肺機能停止患者(CPA)の地理的来院状況と来院までの時間の検討	平成9年 10月	第14回日本救急医学 会東海地方会 浜松	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「当院の心肺機能停止患者(CPA)の地理的来院状況と来院までの時間の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、塚川敏行、横江正道、遠山 卓、新谷 彬、石川 漣
148	来院時心肺停止(CPAOA)患者の医療経済上の問題点—CPAOA患者のcost/effectivenessおよびICU運営からの検討—	平成9年 11月	第25回日本救急医学 会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、「来院時心肺停止(CPAOA)患者の医療経済上の問題点—CPAOA患者のcost/effectivenessおよびICU運営からの検討—」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、石川 漣、他10名
149	ICU管理を要した脳炎・髄膜炎14症例の検討	平成9年 11月	第25回日本救急医学 会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、ICU管理を要した脳炎・髄膜炎14症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 真野るみ子、棚橋順治、山田富雄、田中啓介、平手博之、杉本憲治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
150	市中基幹病院救命救急センターでの患者不応需における現状と問題点	平成9年 11月	第25回日本救急医学 会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、市中基幹病院救命救急センターでの患者不応需における現状と問題点について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、鈴木伸行、遠山 卓、横江正道、新谷 彬、真野るみ子、山田富雄、田中啓介、平手博之、杉本憲治、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
151	IABP離脱困難となった心原性ショック4症例の検討	平成9年 11月	第25回日本救急医学 会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、IABP離脱困難となった心原性ショック4症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、遠山 卓、塚川敏行、鈴木伸行、杉本憲治、真野るみ子、山田富雄、田中啓介、平手博之、棚橋順治、有馬 一、高須宏江、石川 漣
152	院外心肺機能停止症例(CPAOA)の検討	平成9年 11月	第25回日本救急医学 会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、院外心肺機能停止症例(CPAOA)の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 遠山 卓、横江正道、塚川敏行、鈴木伸行、有馬 一、杉本憲治、棚橋順治、石川 漣
153	集中治療の医療費および医療費に影響を及ぼす因子の検討	平成9年 11月	第33回日本赤十字 社医学会総会 名古屋	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、集中治療の医療費および医療費に影響を及ぼす因子の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石川 漣、他8名
154	当病院の救急医療体制の現状	平成9年 11月	第33回日本赤十字 社医学会総会 名古屋	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、当病院の救急医療体制の現状について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、塚川敏行、横江正道、遠山 卓、新谷 彬、石川 漣
155	肺胞蛋白症に対する体外循環併用肺洗浄の麻酔経験	平成10年 2月	第88回日本麻酔学 会東海北陸地方会 岐阜	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、肺胞蛋白症に対する体外循環併用肺洗浄の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 真野るみ子、田中啓介、山田富雄、平手博之、杉本憲治、林 和敏、有馬 一、高須宏江、石川 漣

156	腫瘍性気道狭窄に対する気管内ステント留置術の麻酔経験	平成10年 2月	第88回日本麻酔学会 東海北陸地方会 岐阜	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、腫瘍性気道狭窄に対する気管内ステント留置術の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、有馬 一、真野るみ子、田中啓介、山田富雄、平手博之、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 清
157	高血圧クリーゼを来しICUにて周術期管理を行った小児褐色細胞腫の一例	平成10年 2月	第88回日本麻酔学会 東海北陸地方会 岐阜	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、高血圧クリーゼを来しICUにて周術期管理を行った小児褐色細胞腫の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 松岡史子、平手博之、真野るみ子、山田富雄、田中啓介、杉本憲治、林 和敏、有馬 一、高須宏江、石川 清
158	当ICUにおける保険査定の検討	平成10年 3月	第25回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、当ICUにおける保険査定の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 有馬 一、真野るみ子、田中啓介、平手博之、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 清
159	神経性食思不振症に心原性ショックを合併した二症例	平成10年 3月	第25回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、神経性食思不振症に心原性ショックを合併した二症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、真野るみ子、田中啓介、山田富雄、有馬 一、林 和敏、高須宏江、石川 清
160	多臓器不全にて死亡したサルモネラ敗血症の二症例	平成10年 3月	第25回日本集中治療医学会総会 東京	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、多臓器不全にて死亡したサルモネラ敗血症の二症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 山田富雄、真野るみ子、田中啓介、平手博之、杉本憲治、林 和敏、有馬 一、高須宏江、石川 清
161	東山ビルガス爆発事故に対する当救命救急センターの対応	平成10年 6月	第1回日本臨床救急医学会総会 倉敷	(概要) 日本臨床救急医学会総会にて、東山ビルガス爆発事故に対する当救命救急センターの対応について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、遠山 卓、塚川敏行、鈴木伸行、真野るみ子、山田富雄、田中啓介、平手博之、杉本憲治、林 和敏、有馬 一、高須宏江、石川 清
162	当院救命救急センターの全科医師参加型体制のなかでの救急部の現況	平成10年 6月	第1回日本臨床救急医学会総会 倉敷	(概要) 日本臨床救急医学会総会にて、当院救命救急センターの全科医師参加型体制のなかでの救急部の現況について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、横江正道、塚川敏行、石川 清
163	長期にわたりICU管理を行ったDNRの一例	平成10年 6月	第6回日本集中治療医学会東海北陸地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、長期にわたりICU管理を行ったDNRの一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 真野るみ子、山田富雄、石本雅幸、田口弥人、林 和敏、田中啓介、杉浦健之、高須宏江、石川 清
164	LVASを装着し心臓移植待機中に脳梗塞を合併した拡張型心筋症の一例	平成10年 6月	第6回日本集中治療医学会東海北陸地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、LVASを装着し心臓移植待機中に脳梗塞を合併した拡張型心筋症の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、田中啓介、石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、杉浦健之、林 和敏、高須宏江、石川 清
165	Management of an Explosion Disaster in Our Emergency&Critical Care Center	平成10年 9月	The 4th アジア・太平洋災害医学会 (APCDM) 札幌	(概要) The 4th アジア・太平洋災害医学会 (APCDM)にて、Management of an Explosion Disaster in Our Emergency&Critical Care Centerについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) Masamichi Yokoe, Toshiyuki Tsukagawa, Nobuyuki Suzuki, Kiyoshi Ishikawa
166	急激に多臓器不全となり、診断が困難であった悪性リンパ腫の一症例	平成10年 9月	第15回日本救急医学会東海地方会 松本	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、急激に多臓器不全となり、診断が困難であった悪性リンパ腫の一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石本雅幸、高須宏江、横江正道、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、杉浦健之、林 和敏、安田邦光、石川 清、他1名

167	当院における小児脳死症例についての検討	平成10年 9月	第15回日本救急医学会東海地方会 松本	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、当院における小児脳死症例についての検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤田 貢、田口弥人、石本雅幸、真野るみ子、山田富雄、杉浦健之、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
168	当院救命救急センターにおける薬物内服による自殺企図患者の検討	平成10年 9月	第15回日本救急医学会東海地方会 松本	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、当院救命救急センターにおける薬物内服による自殺企図患者の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 早川徳香、横江正道、加納良彦、山本博之、西口康二、塚川敏行、鈴木伸行、石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、杉浦健之、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
169	当院における心肺機能停止患者(CPAOA)についての検討—地理的来院状況と来院までの時間を中心として—	平成10年 9月	第15回日本救急医学会東海地方会 松本	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「当院における心肺機能停止患者(CPAOA)についての検討—地理的来院状況と来院までの時間を中心として—」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 加納良彦、塚川敏行、早川徳香、西口康二、山本博之、横江正道、鈴木伸行、新谷 彬、石川 清
170	薬物内服による自殺企図患者の検討	平成10年 11月	第26回日本救急医学会総会 高松	(概要) 日本救急医学会総会にて、薬物内服による自殺企図患者の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石本雅幸、杉浦健之、横江正道、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
171	小児CPA症例の検討—学校管理下CPAも含め—	平成10年 11月	第26回日本救急医学会総会 高松	(概要) 日本救急医学会総会にて、小児CPA症例の検討—学校管理下CPAも含め—について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、塚川敏行、鈴木伸行、岩佐充二、石川 清
172	救命救急センター受療者統計—ICD-10を用いて—	平成10年 11月	第26回日本救急医学会総会 高松	(概要) 日本救急医学会総会にて、救命救急センター受療者統計—ICD-10を用いて—を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、加納良彦、早川徳香、西口康二、山本博之、遠山 卓、横江正道、鈴木伸行、石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、田中啓介、杉浦健之、林 和敏、高須宏江、石川 清
173	年間約38500人が受診する救命救急センターの現況と問題点	平成10年 11月	第26回日本救急医学会総会 高松	(概要) 日本救急医学会総会にて、年間約38500人が受診する救命救急センターの現況と問題点について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、横江正道、塚川敏行、石川 清
174	出血性胃潰瘍による高度貧血(Hb 2.0/dl)を無輸血で救命し得たエホバの証人の一症例	平成11年 5月	第46回日本麻酔学会 北海道	(概要) 日本麻酔学会にて、「出血性胃潰瘍による高度貧血(Hb 2.0/dl)を無輸血で救命し得たエホバの証人の一症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉浦健之、石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
175	著しい電解質異常と代謝性アルカローシスを認めた摂食障害の一例	平成11年 6月	第7回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「著しい電解質異常と代謝性アルカローシスを認めた摂食障害の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 梶田裕加、安田邦光、石本雅幸、田口弥人、真野るみ子、山田富雄、林 和敏、高須宏江、石川 清
176	長期間のPCPS管理後MOFを合併するも救命し得た重症心筋症の一例	平成11年 6月	第7回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「長期間のPCPS管理後MOFを合併するも救命し得た重症心筋症の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺澤 篤、梶田裕加、安田邦光、石本雅幸、田口弥人、真野るみ子、山田富雄、林 和敏、高須宏江、石川 清
177	当院における危機管理マニュアル作成の試み	平成11年 6月	第7回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、当院における危機管理マニュアル作成の試みについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、寺澤 篤、梶田裕加、石本雅幸、田口弥人、真野るみ子、山田富雄、林 和敏、高須宏江、石川 清

178	定額支払い制度の検討～CABGでの検討～	平成11年 10月	第4回日本心臓血管麻酔学会学術大会総会 広島	(概要) 日本心臓血管麻酔学会学術大会総会にて、「定額支払い制度の検討～CABGでの検討～」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口弥人、石川 漣
179	臓器移植を考慮した当ICUにおける小児脳死症例についての検討	平成11年 10月	第18回日本蘇生学会 沖縄	(概要) 日本蘇生学会にて、臓器移植を考慮した当ICUにおける小児脳死症例についての検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口弥人、梶田裕加、寺澤 篤、真野るみ子、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣
180	心拍再開しICUに収容したCPA症例の検討	平成11年 10月	第18回日本蘇生学会 沖縄	(概要) 日本蘇生学会にて、心拍再開しICUに収容したCPA症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 梶田裕加、安田邦光、石本雅幸、田口弥人、真野るみ子、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 漣
181	発症後9時間で脳波が平坦になった劇症Reye症候群の一例	平成11年 10月	第18回日本蘇生学会 沖縄	(概要) 日本蘇生学会にて、発症後9時間で脳波が平坦になった劇症Reye症候群の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 松下邦洋、梶田裕加、安田邦光、石本雅幸、田口弥人、真野るみ子、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 漣
182	術中の突発性心室細動に対し、PCPSによって救命し得た一症例	平成11年 10月	第18回日本蘇生学会 沖縄	(概要) 日本蘇生学会にて、「術中の突発性心室細動に対し、PCPSによって救命し得た一症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣
183	当科における危機管理マニュアル作成の試み	平成11年 11月	第19回日本臨床麻酔学会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「当科における危機管理マニュアル作成の試み」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、石本雅幸、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、杉浦健之、林 和敏、高須宏江、石川 漣
184	気道出血、LOSに対し右心バイパス、LVSを併用しMOFを合併するも救命し得たAVRの一例	平成11年 11月	第19回日本臨床麻酔学会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「気道出血、LOSに対し右心バイパス、LVSを併用しMOFを合併するも救命し得たAVRの一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺澤 篤、梶田裕加、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣
185	危機管理マニュアルについて 当院救命救急センターでの試み	平成11年 11月	第27回日本救急医学会 東京	(概要) 日本救急医学会にて、「危機管理マニュアルについて 当院救命救急センターでの試み」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、鈴木伸行、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣
186	名古屋第二赤十字病院の全科参加型体制のなかでの救急医療の現状	平成11年 11月	第35回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、「名古屋第二赤十字病院の全科参加型体制のなかでの救急医療の現状」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、塚川敏行、石川 漣、他2名
187	当科における腎移植559例の麻酔経験	平成12年 2月	第33回日本腎移植臨床研究会 名古屋	(概要) 日本腎移植臨床研究会にて、当科における腎移植559例の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺澤 篤、梶田裕加、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣、他1名
188	敗血症DIC、多臓器不全を合併し不幸な転帰をとった腸腰筋膿瘍の一例	平成12年 2月	第90回日本麻酔学会東海北陸地方会 三重	(概要) 日本麻酔学会東海北陸地方会にて、敗血症DIC、多臓器不全を合併し不幸な転帰をとった腸腰筋膿瘍の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、梶田裕加、寺澤 篤、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣

189	多臓器不全を合併するもPCPSをはじめとした周術期の集中治療により救命し得た褐色細胞腫の一例	平成12年 3月	第27回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、多臓器不全を合併するもPCPSをはじめとした周術期の集中治療により救命し得た褐色細胞腫の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 梶田裕加、寺澤 篤、真野るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
190	劇症型心筋炎に対してPCPSを施行した症例の検討	平成12年 3月	第27回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、劇症型心筋炎に対してPCPSを施行した症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺澤 篤、梶田裕加、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
191	胃潰瘍治癒後の幽門狭窄による慢性的嘔吐から、重症の横紋筋融解症をきたした一症例	平成12年 3月	第27回日本集中治療医学会総会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、胃潰瘍治癒後の幽門狭窄による慢性的嘔吐から、重症の横紋筋融解症をきたした一症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、梶田裕加、寺澤 篤、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 清
192	重度敗血症患者における単球CD40の発現の検討	平成12年 4月	第47回日本麻酔科学会 東京	(概要) 日本麻酔科学会にて、重度敗血症患者における単球CD40の発現の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 杉本憲治、石川 清
193	ABO不適合生体腎移植25例の麻酔経験	平成12年 4月	第47回日本麻酔科学会 東京	(概要) 日本麻酔科学会にて、ABO不適合生体腎移植25例の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺澤 篤、田口弥人、梶田裕加、林 和敏、石川 清
194	当院での医療事故対策一危機管理マニュアル作成の試みー	平成12年 4月	第3回日本臨床救急医学会総会 東京	(概要) 日本臨床救急医学会総会にて、「当院での医療事故対策一危機管理マニュアル作成の試みー」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、梶田裕加、寺澤 篤、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、高須宏江、石川 清
195	集中治療を必要とした児童虐待の4症例	平成12年 4月	第3回日本臨床救急医学会総会 東京	(概要) 日本臨床救急医学会総会にて、集中治療を必要とした児童虐待の4症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、石川 清、他8名
196	PCPS、IABPによる補助循環にて救命し得た褐色細胞腫の一例	平成12年 4月	第3回日本臨床救急医学会総会 東京	(概要) 日本臨床救急医学会総会にて、PCPS、IABPによる補助循環にて救命し得た褐色細胞腫の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 梶田裕加、杉本憲治、田口 学、寺澤 篤、高津るみ子、田口弥人、山田富雄、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
197	Anaesthetic management for parathyroidectomy (PTx) in renal hyperparathyroidism (HPT). 26year experience.	平成12年 6月	12th World Congress of Anaesthesiologists. Canada	(概要) 12th World Congress of Anaesthesiologists.にて、.Anaesthetic management for parathyroidectomy (PTx) in renal hyperparathyroidism (HPT). 26year experienceについて発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) K. Ishikawa, K. Sugimoto, K. Hayashi, K. Yasuda
198	ABO-incompatible living kidney transplantation ?25 cases experience.	平成12年 6月	12th World Congress of Anaesthesiologists. Canada	(概要) 12th World Congress of Anaesthesiologists.にて、ABO-incompatible living kidney transplantation ?25 cases experience.について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) A. Terazawa, T. Yamada, M. Taguchi, K. Ishikawa
199	ICU入出時に著明な高リン血症を呈した3症例	平成12年 6月	第8回日本集中治療医学会東海北陸地方会 富山	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「ICU入出時に著明な高リン血症を呈した3症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 河原三四郎、山田富雄、林 和敏、田口 学、田口弥人、梶田裕加、寺澤 篤、杉本憲治、安田邦光、高須宏江、石川 清
200	ショック状態で搬入され短期間の集中治療により軽快した偶発性低体温症の一例	平成12年 6月	第8回日本集中治療医学会東海北陸地方会 富山	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、ショック状態で搬入され短期間の集中治療により軽快した偶発性低体温症の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 太田貴美子、林 和敏、田口 学、田口弥人、梶田裕加、寺澤 篤、山田富雄、杉本憲治、安田邦光、高須宏江、石川 清

201	診断、治療に難渋した乳児細菌性髄膜炎の一例	平成12年 6月	第8回日本集中治療医学会東海北陸地方会 富山	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「診断、治療に難渋した乳児細菌性髄膜炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 吉田統彦、寺澤 篤、田口 学、梶田裕加、田口弥人、高津るみ子、山田富雄、杉本憲治、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
202	成人開心術後に生じたPH crisisの一例	平成12年 10月	第20回日本臨床麻酔学会 佐賀	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、成人開心術後に生じたPH crisisの一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 林 和敏、田口弥人、杉本憲治、安田邦光、高須宏江、石川 清
203	腎性上皮小体機能亢進症 (HPT) に対する上皮小体全摘・前腕筋内自家移植術 (PTx) の麻酔経験	平成12年 10月	第20回日本臨床麻酔学会 佐賀	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、腎性上皮小体機能亢進症 (HPT) に対する上皮小体全摘・前腕筋内自家移植術 (PTx) の麻酔経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、石川 清、他4名
204	The incidence and outcome of systemic inflammatory response syndrome (SIRS) and sequential organ failure assessment (SOFA) in patients with positive blood culture.	平成12年 11月	Western Pacific Association of Critical Care Medicine 11th Congress. Shinapore	(概要) Western Pacific Association of Critical Care Medicine 11th Congress.にて、The incidence and outcome of systemic inflammatory response syndrome (SIRS) and sequential organ failure assessment (SOFA) in patients with positive blood culture.について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) M. Taguchi, K. Sugimoto, K. Ishikawa
205	Successful resuscitation of a status asthmaticus patient with percutaneous cardiopulmonary support (PCPS).	平成12年 11月	Western Pacific Association of Critical Care Medicine 11th Congress. Shinapore	(概要) Western Pacific Association of Critical Care Medicine 11th Congress.にて、「Successful resuscitation of a status asthmaticus patient with percutaneous cardiopulmonary support (PCPS).」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) K. Sugimoto, S. Kawahara, K. Ishikawa
206	当院救命救急センターにおける電話対応について	平成12年 11月	第28回日本救急医学会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、「当院救命救急センターにおける電話対応について」を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、鈴木伸行、小林龍彦、吉田統彦、田口弥人、杉本憲治、林和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
207	NO吸入、血漿交換によって救命できた急性間質性肺炎の一例	平成13年 6月	第9回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて「NO吸入、血漿交換によって救命できた急性間質性肺炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木登志彦、寺澤 篤、梶田裕加、田口 学、田口弥人、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
208	髄膜炎に感染性心内膜炎を合併し緊急開心術を施行した一例	平成13年 6月	第9回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「髄膜炎に感染性心内膜炎を合併し緊急開心術を施行した一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小林 零、石田 進、田口 学、梶田裕加、寺澤 篤、田口弥人、林和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
209	熱帯熱マラリアの1症例	平成13年x 6月	第9回日本集中治療医学会東海北陸地方会 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「熱帯熱マラリアの1症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、林 和敏、梶田裕加、寺澤 篤、田口弥人、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
210	ICRC戦傷外科病院のpolicy 一麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して一	平成13年 9月	第37回日本赤十字社医学会 旭川	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「ICRC戦傷外科病院のpolicy 一麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して一」を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他8名
211	ICRC戦傷外科病院における麻酔一麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して一	平成13年 10月	第21回日本臨床麻酔学会 東京	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「ICRC戦傷外科病院における麻酔 一麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援活動に従事して一」を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他7名
212	21世紀型救命救急センターの建築設計	平成13年 11月	第29回日本救急医学会 東京	(概要) 日本救急医学会にて、「21世紀型救命救急センターの建築設計」について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他10名

213	ICUで血液浄化を行った急性腎不全症例の検討	平成14年 2月	第29回日本集中治療医学会 東京	(概要) 日本集中治療医学会にて、ICUで血液浄化を行った急性腎不全症例の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小林 零、石田 進、田口 学、寺澤 篤、田口 弥人、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 漣
214	戦傷外科病院での国際医療救援活動	平成14年 2月	第7回日本集団災害医学会 倉敷	(概要) 日本集団災害医学会にて、戦傷外科病院での国際医療救援活動について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漣、他8名
215	新救命救急センターでの院内災害訓練 (傷病者受け入れ訓練)	平成14年 2月	第7回日本集団災害医学会 倉敷	(概要) 日本集団災害医学会にて、新救命救急センターでの院内災害訓練 (傷病者受け入れ訓練) について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 井嶋廣子、伊藤安恵、田村秀子、赤塚あさ子、寺西美佐絵、石川佳世子、鈴木伸行、佐藤公治、石川 漣
216	院内災害訓練 (傷病者受け入れ訓練) の企画に関する検討	平成14年 2月	第7回日本集団災害医学会 倉敷	(概要) 日本集団災害医学会にて、院内災害訓練 (傷病者受け入れ訓練) の企画に関する検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 赤塚あさ子、石川 漣、他5名
217	効率的な災害医療研修	平成14年 2月	第7回日本集団災害医学会 倉敷	(概要) 日本集団災害医学会にて、効率的な災害医療研修について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 花木芳洋、渡辺美佐子、石川 漣、他1名
218	パネルディスカッション『救急現場から病院治療への一貫性：病着後の問題』市中基幹病院救命救急センターの理想的な医師の体制は？	平成14年 4月	第5回臨床救急医学会 東京	(概要) 臨床救急医学会にて、「パネルディスカッション『救急現場から病院治療への一貫性：病着後の問題』市中基幹病院救命救急センターの理想的な医師の体制は？」について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漣、他10名
219	シンポジウム『救急医療における病診・病病連携：救急医療後の連携』市中基幹病院における病診・病病連携システム (過去12年の歴史を振り返って)	平成14年 4月	第5回臨床救急医学会 東京	(概要) 臨床救急医学会にて、「シンポジウム『救急医療における病診・病病連携：救急医療後の連携』市中基幹病院における病診・病病連携システム (過去12年の歴史を振り返って)」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小林龍彦、塚川敏行、鈴木伸行、石川 漣
220	重症肺炎・敗血症を契機に重症化し、治療に難渋した拡張型心筋症の一例	平成14年 4月	第5回臨床救急医学会 東京	(概要) 臨床救急医学会にて、「重症肺炎・敗血症を契機に重症化し、治療に難渋した拡張型心筋症の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 欄れい子、田口弥人、田口 学、安田邦光、寺澤 篤、林 和敏、石田 進、小林 零、高須宏江、石川 漣
221	OPCPSによる循環管理に難渋した小児劇症型心筋炎の一例	平成14年 6月	第10回日本集中治療医学会東海北陸地方会 福井	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、OPCPSによる循環管理に難渋した小児劇症型心筋炎の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、高須宏江、鈴木登志彦、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、林 和敏、安田邦光、石田 進、石川 漣
222	極度の偏食が原因で集中治療を要した2例	平成14年 6月	第10回日本集中治療医学会東海北陸地方会 福井	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、極度の偏食が原因で集中治療を要した2例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 信川泰成、寺澤 篤、田口 学、田口弥人、大久保一浩、林 和敏、石田 進、安田邦光、高須宏江、石川 漣
223	維持透析が必要となった急性腎不全患者の検討	平成14年 6月	第6回愛知県急性血液浄化談話会 名古屋	(概要) 愛知県急性血液浄化談話会にて、維持透析が必要となった急性腎不全患者の検討について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、高須宏江、信川泰成、鉄 慎一郎、田村哲也、寺澤 篤、田口弥人、大久保一浩、林 和敏、安田邦光、石田 進、石川 漣
224	戦傷外科セミナー2002報告と日赤国際医療救援における総合外科医の養成	平成14年 9月	第38回日本赤十字社医学会 横浜	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「戦傷外科セミナー2002報告と日赤国際医療救援における総合外科医の養成」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 佐藤公治、石川 漣、他7名

225	救急専任医師3名を核とした全科参加型救命救急センターの運営形態	平成14年 9月	第38回日本赤十字社医学会 横浜	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「救急専任医師3名を核とした全科参加型救命救急センターの運営形態」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、塚川 敏行、小林龍彦、石川 清、他1名
226	小児急性喉頭蓋炎2症例の検討	平成14年 10月	第30回日本救急医学会 札幌	(概要) 日本救急医学会にて、「小児急性喉頭蓋炎2症例の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口弥人、田村哲也、田口 学、寺澤 篤、大久保一浩、林 和敏、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
227	当院救命救急センターにおける人員配置について 一限られた医療資源を勘案して一	平成14年 10月	第30回日本救急医学会 札幌	(概要) 日本救急医学会にて、「当院救命救急センターにおける人員配置について 一限られた医療資源を勘案して一」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、鈴木伸行、小林龍彦、田口 学、田口弥人、林 和敏、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
228	名古屋第二赤十字病院 新救命救急センターの現状	平成14年 10月	第18回日本救急医学会東海地方会 愛知	(概要) 日本救急医学会東海地方会にて、「名古屋第二赤十字病院 新救命救急センターの現状」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鈴木伸行、塚川敏行、小林龍彦、石川 清
229	維持透析が必要となった急性腎不全患者の検討	平成15年 2月	第30回日本集中治療医学会総会 札幌	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、「維持透析が必要となった急性腎不全患者の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、寺澤 篤、田口弥人、大久保一浩、林 和敏、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
230	高速道路上観光バス同士の衝突による当救命救急センターの対応及び活動	平成15年 2月	第8回日本集団災害医学会 東京	(概要) 日本集団災害医学会にて、「高速道路上観光バス同士の衝突による当救命救急センターの対応及び活動」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川 敏行、小林龍彦、鈴木伸行、石川 清
231	評価者を設けた院内災害訓練 一人の被災患者に一人の評価者による評価一	平成15年 2月	第8回日本集団災害医学会 東京	(概要) 日本集団災害医学会にて、「評価者を設けた院内災害訓練 一人の被災患者に一人の評価者による評価一」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺西 美佐絵、石川 清、他3名
232	沖縄県立北部病院“白い粉事件”をドリルに組み込んだ名古屋第二赤十字病院除染訓練について	平成15年 2月	第8回日本集団災害医学会 東京	(概要) 日本集団災害医学会にて、「沖縄県立北部病院“白い粉事件”をドリルに組み込んだ名古屋第二赤十字病院除染訓練について」を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 赤塚あさ子、鈴木伸行、石川 清、他4名
233	国際的人道救援活動に関するUNHCRワークショップの参加報告	平成15年 2月	第8回日本集団災害医学会 東京	(概要) 日本集団災害医学会にて、「国際的人道救援活動に関するUNHCRワークショップの参加報告」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 東条奈美、石川 清、他5名
234	人工骨頭置換術中に発症した重篤な脳への脂肪塞栓症候群の1例	平成15年 2月	第93回日本麻酔科学会東海地方会総会 長久手	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会総会にて、「人工骨頭置換術中に発症した重篤な脳への脂肪塞栓症候群の1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄 慎一郎、石田 進、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、大久保一浩、林 和敏、安田邦光、高須宏江、石川 清
235	麻酔開始数時間後に発生した喘息大発作の1例	平成15年 2月	第93回日本麻酔科学会東海地方会総会 長久手	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会総会にて、「麻酔開始数時間後に発生した喘息大発作の1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、大久保一浩、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
236	集中治療室入室後、代理ミュンヒハウゼン症候群を強く疑うに至った一例	平成15年 6月	第17回日本小児救急医学会 埼玉	(概要) 日本小児救急医学会にて、「集中治療室入室後、代理ミュンヒハウゼン症候群を強く疑うに至った一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 欄れい子、田口弥人、鈴木登志彦、田村哲也、鉄 慎一郎、田口 学、寺澤 篤、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
237	団災害に対する当救命救急センターの対応	平成15年 10月	第39回日本赤十字社医学会 秋田	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「団災害に対する当救命救急センターの対応」について発表した。 (本人担当部分) 全て (著者名) 石川 清、他7名

238	国際的人道救援活動に関するUNHCRワークショップの参加報告	平成15年 10月	第39回日本赤十字 社医学会 秋田	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「国際的人道救援活動に関するUNHCRワークショップの参加報告」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 東条奈美、田中みつき、石川 漕、他11名
239	当救命救急センターにおける救急モードと災害モードの切り替え	平成15年 10月	第31回日本救急医 学会 東京	(概要) 日本救急医学会にて、「当救命救急センターにおける救急モードと災害モードの切り替え」について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漕、他6名
240	小児の急性心不全から大動脈炎症候群を診断し得た一例	平成15年 10月	第23回日本臨床麻 酔科学会 下関	(概要) 日本臨床麻酔科学会にて、「小児の急性心不全から大動脈炎症候群を診断し得た一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄 慎一郎、田口 学、田口弥人、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
241	肝不全、非特異的MRI異常所見により診断に難渋したヘルペス脳炎の一例	平成15年 10月	第23回日本臨床麻 酔科学会 下関	(概要) 日本臨床麻酔科学会にて、「肝不全、非特異的MRI異常所見により診断に難渋したヘルペス脳炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、田口弥人、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
242	急性期治療のガイドラインと診療の実際 脳梗塞患者への対応について 発症から治療開始までの時間経過の中、病院因子の短縮、改善による患者予後向上の試み	平成15年 11月	第31回日本救急医 学会総会 東京	(概要) 日本救急医学会総会にて、「急性期治療のガイドラインと診療の実際 脳梗塞患者への対応について 発症から治療開始までの時間経過の中、病院因子の短縮、改善による患者予後向上の試み」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、小林龍彦、鈴木伸行、須賀徳明、富田 稔、両角佐織、千田 譲、鈴木啓介、安井敏三、安藤哲朗、石川 漕
243	東海地震を想定した院内災害訓練における看護部の対応	平成16年 2月	第9回日本集団災 害医学会 札幌	(概要) 日本集団災害医学会にて、「東海地震を想定した院内災害訓練における看護部の対応」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 坂野智恵子、石川佳世子、寺西美佐絵、井嶋廣子、石川 漕
244	感染性心内膜炎に続発した多発性脳出血の一症例	平成16年 2月	第94回日本麻酔科 学会東海地方会総 会 三島	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会総会にて、「感染性心内膜炎に続発した多発性脳出血の一症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄 慎一郎、田村哲也、田口 学、田口弥人、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
245	原因として急性副腎不全が疑われた、腹腔鏡下胆嚢摘出術死亡の一例	平成16年 2月	第94回日本麻酔科 学会東海地方会総 会 三島	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会総会にて、「原因として急性副腎不全が疑われた、腹腔鏡下胆嚢摘出術死亡の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 欄れい子、伊藤恭史、鉄 慎一郎、田村哲也、田口 学、田口弥人、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
246	意識障害で発見された劇症型A群溶血性連鎖球菌感染症の一例	平成16年 2月	第94回日本麻酔科 学会東海地方会総 会 三島	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会総会にて、「意識障害で発見された劇症型A群溶血性連鎖球菌感染症の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 森本由希、鉄 慎一郎、田口 学、田口弥人、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
247	透析患者のCABGにおける術後合併症と予後の検討	平成16年 3月	第31回日本集中 医療医学会総会 福岡	(概要) 日本集中医療医学会総会にて、「透析患者のCABGにおける術後合併症と予後の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、大久保一浩、欄れい子、伊藤恭史、鉄 慎一郎、田口 学、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
248	心停止下心臓手術における維持透析患者と非透析患者の血小板凝集能の比較	平成16年 3月	第31回日本集中 医療医学会総会 福岡	(概要) 日本集中医療医学会総会にて、「心停止下心臓手術における維持透析患者と非透析患者の血小板凝集能の比較」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 大久保一浩、田口 学、伊藤恭史、欄れい子、田村哲也、鉄 慎一郎、田口弥人、石田 進、高須宏江、石川 漕
249	心停止下心臓手術における血小板凝集能の推移	平成16年 3月	第31回日本集中 医療医学会総会 福岡	(概要) 日本集中医療医学会総会にて、「心停止下心臓手術における血小板凝集能の推移」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口弥人、大久保一浩、欄れい子、伊藤恭史、鉄 慎一郎、田口 学、石田 進、高須宏江、石川 漕

250	緊急手術となった特発性血気胸2例の治療経験	平成16年 3月	第31回日本集中治療医学会総会 福岡	(概要) 日本集中治療医学会総会にて、「緊急手術となった特発性血気胸2例の治療経験」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 安田邦光、伊藤恭史、欄れい子、鉄 慎一郎、田村哲也、田口 学、田口弥人、石田 進、高須宏江、石川 清
251	心肺補助装置により心停止から救命した小児劇症型心筋炎の1例	平成16年 6月	第12回日本集中治療医学会東海北陸地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、「心肺補助装置により心停止から救命した小児劇症型心筋炎の1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、大久保一浩、伊藤恭史、欄れい子、鉄 慎一郎、寺澤 篤、田口弥人、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
252	麻酔科臨床実習に対するインフォームドコンセントの結果について	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「麻酔科臨床実習に対するインフォームドコンセントの結果について」を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田口 学、伊藤恭史、欄れい子、鉄 慎一郎、寺澤 篤、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
253	ACLSプロジェクトとしての当院におけるACLS講習会への取り組み	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「ACLSプロジェクトとしての当院におけるACLS講習会への取り組み」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、石川 清、他12名
254	「異文化コミュニケーション：イスラーム圏派遣への対応」研修会企画の意義	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「異文化コミュニケーション：イスラーム圏派遣への対応」研修会企画の意義について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 駒井一洋、東条奈美、伊藤由紀、渡邊 勝、彦坂高枝、浅井由樹夫、石川佳世子、伊藤明子、酒井登茂子、赤塚あさ子、佐藤公治、石川 清
255	アフガニスタン医療復興支援事業の概要と評価	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「アフガニスタン医療復興支援事業の概要と評価」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、赤塚あさ子、東条奈美、石川 清
256	アフガニスタン医療復興支援事業における臨床指導に従事して	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて「アフガニスタン医療復興支援事業における臨床指導に従事して」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 赤塚あさ子、伊藤明子、石川 清、他1名
257	日赤ERU第3班によるホームビジット：より脆弱な被災者へのアプローチ	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「日赤ERU第3班によるホームビジット：より脆弱な被災者へのアプローチ」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 関塚美穂、酒井登茂子、石川佳世子、小林美紀、高井久実子、石川 清、他1名
258	イラン南東部地震被災者救援事業における技術要員の役割	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「イラン南東部地震被災者救援事業における技術要員の役割」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 浅井由樹夫、山田悌士、礫石英治、石川 清、他5名
259	国際医療救援要員に対する病院の対応 イラン南東部地震救援派遣に対して	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「国際医療救援要員に対する病院の対応 イラン南東部地震救援派遣に対して」を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石川 清、他5名
260	当院における病院ボランティア推進の試み	平成16年 10月	第40回日本赤十字社医学会 長野	(概要) 日本赤十字社医学会にて、「当院における病院ボランティア推進の試み」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤安恵、川住幸恵、西埜雄司、東条奈美、石川 清
261	腹膜炎にて発症した劇症型A群溶連菌感染症の一例	平成16年 10月	第24回日本臨床麻酔学会 大阪	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「腹膜炎にて発症した劇症型A群溶連菌感染症の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 池田奈美、伊藤恭史、田口 学、寺澤 篤、石田 進、安田邦光、高須宏江、石川 清
262	食道心嚢腫による感染性収縮性心膜炎の一例	平成16年 10月	第24回日本臨床麻酔学会 大阪	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「食道心嚢腫による感染性収縮性心膜炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 土屋れい子、伊藤恭史、田口 学、大久保一浩、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清

263	糖尿病に合併した気腫性腎盂腎炎の一例	平成16年 10月	第24回日本臨床麻酔学会 大阪	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「糖尿病に合併した気腫性腎盂腎炎の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 森本由希、伊藤恭史、田口 学、寺澤 篤、石田 進、安田邦光、高須宏江、石川 清
264	診断に難渋した延髄脊髄炎において呼吸障害を来した一例	平成16年 10月	第24回日本臨床麻酔学会 大阪	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「診断に難渋した延髄脊髄炎において呼吸障害を来した一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄 慎一郎、田口 学、寺澤 篤、安田 邦光、石田 進、高須 宏江、石川 清
265	イラン南東部地震での日赤ERUによる医療救援活動の意義	平成16年 10月	第32回日本救急医学会総会 千葉	(概要) 日本救急医学会総会にて、「イラン南東部地震での日赤ERUによる医療救援活動の意義」について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他4名
266	Edwardsiella tardaによる腸炎から敗血症、壊死性筋膜炎を来した一例	平成16年 10月	第32回日本救急医学会総会 千葉	(概要) 日本救急医学会総会にて、「Edwardsiella tardaによる腸炎から敗血症、壊死性筋膜炎を来した一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、伊藤恭史、田口 学、寺澤 篤、田口弥人、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清、他1名
267	新卒研修医の救急研修意識調査と今後の教育のあり方	平成16年 10月	第32回日本救急医学会総会 千葉	(概要) 日本救急医学会総会にて、「新卒研修医の救急研修意識調査と今後の教育のあり方」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、稲田眞治、塚川敏行、白子隆志、石川 清
268	救急部における研修医教育 ACLSの実践にあたり研修医にあえてチームリーダーとしての役割を与える一当院のACLS蘇生講習プロジェクトのもとで	平成16年 10月	第32回日本救急医学会総会 千葉	(概要) 日本救急医学会総会にて、「救急部における研修医教育 ACLSの実践にあたり研修医にあえてチームリーダーとしての役割を与える一当院のACLS蘇生講習プロジェクトのもとで」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、横江正道、稲田眞治、白子隆志、石川 清
269	当院における急性期脳梗塞患者の病態・予後	平成16年 10月	第32回日本救急医学会総会 千葉	(概要) 日本救急医学会総会にて、「当院における急性期脳梗塞患者の病態・予後」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 千田 謙、石川 清、他4名
270	医師現場出勤を要した上腕巻き込み損傷の1例	平成16年 11月	第21回日本救急医学会東海甲信地方会 甲府	(概要) 日本救急医学会東海甲信地方会にて、医師現場出勤を要した上腕巻き込み損傷の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊佐治美穂、稲田眞治、横江正道、塚川敏行、白子隆志、石川 清
271	意識障害・呼吸障害にて搬送され、治療経過中、筋ジストロフィーが考えられた1例	平成16年 11月	第21回日本救急医学会東海甲信地方会 甲府	(概要) 日本救急医学会東海甲信地方会にて、「意識障害・呼吸障害にて搬送され、治療経過中、筋ジストロフィーが考えられた1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 中村友理枝、横江正道、塚川敏行、稲田眞治、白子隆志、石川 清
272	院内の連携により救命し得たPs=0.022の多発外傷の一例	平成17年 2月	第32回日本集中治療医学会学術集会 東京	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、院内の連携により救命し得たPs=0.022の多発外傷の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、石川 清、他8名
273	急性大動脈解離術後に重篤な低酸素血症をきたした一例	平成17年 2月	第32回日本集中治療医学会学術集会 東京	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、「急性大動脈解離術後に重篤な低酸素血症をきたした一例」にて、発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 池田奈美、田口 学、土屋れい子、伊藤恭史、鉄慎一郎、寺澤 篤、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
274	シンポジウム『危機管理・安全管理面から見たICUにおける鎮痛・鎮静』	平成17年 2月	第32回日本集中治療医学会学術集会 東京	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、シンポジウム『危機管理・安全管理面から見たICUにおける鎮痛・鎮静』について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他6名
275	透析歴20年以上の長期慢性透析患者に対する心臓手術11例の予後因子の検討	平成17年 2月	第32回日本集中治療医学会学術集会 東京	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、「透析歴20年以上の長期慢性透析患者に対する心臓手術11例の予後因子の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 田村哲也、田口 学、寺澤 篤、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清、他1名

276	東海地震に備えた院内災害訓練—院内災害対策本部の立ち上げ・運営訓練—	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「東海地震に備えた院内災害訓練—院内災害対策本部の立ち上げ・運営訓練—」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 佐藤公治、石川 漕、他4名
277	福井豪雨災害における当院としての災害救護活動	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「福井豪雨災害における当院としての災害救護活動」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、横江正道、稲田眞治、白子隆志、石川 漕
278	赤十字国際委員会・日本赤十字社医療復興支援事業外科チーム活動報告—アフガニスタンにおける外科的治療の現状と問題点—	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「赤十字国際委員会・日本赤十字社医療復興支援事業外科チーム活動報告—アフガニスタンにおける外科的治療の現状と問題点—」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、石川 漕、他7名他11名
279	赤十字国際委員会と日本赤十字社の紛争後のアフガニスタンにおける医療復興支援事業の活動と評価	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「赤十字国際委員会と日本赤十字社の紛争後のアフガニスタンにおける医療復興支援事業の活動と評価」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、赤塚あさ子、白子隆志、石川 漕、国際医療救護部員
280	イラン南東部地震救援の初動班における看護師の活動	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「イラン南東部地震救援の初動班における看護師の活動」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 酒井登茂子、石川 漕、他7名
281	イラン南東部地震救援における日本赤十字社BHC-ERU技術要員の役割	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「イラン南東部地震救援における日本赤十字社BHC-ERU技術要員の役割」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 山田悌士、浅井由樹夫、礫石英治、石川 漕
282	イラン南東部地震被災者に対する心理支援活動	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「イラン南東部地震被災者に対する心理支援活動」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 石川佳世子、酒井登茂子、関塚美穂、小林美紀、高井久美子、山田悌士、浅井由樹夫、礫石英治、石川 漕
283	災害・紛争発生時の派遣者への施設の支援体制	平成17年 2月	第10回日本集団災害医学会 大阪	(概要) 日本集団災害医学会にて、「災害・紛争発生時の派遣者への施設の支援体制」について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漕、他7名
284	小児生体腎移植術における術中水分管理の検討	平成17年 3月	第95回日本麻酔科学会東海地方会 名古屋	(概要) 日本麻酔科学会東海地方会にて、「小児生体腎移植術における術中水分管理の検討」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 土屋れい子、石田 進、池田奈美、森本由希、伊藤恭史、鉄慎一郎、田口 学、寺澤 篤、安田邦光、高須宏江、石川 漕
285	悪性症候群に合併したたこぼ型心筋症の一例	平成17年 9月	第2回日本救急医学会中部地方会 名古屋	(概要) 日本救急医学会中部地方会にて、「悪性症候群に合併したたこぼ型心筋症の一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小嶋高志、石田 進、日比野阿礼、池田奈美、森本由希、伊藤恭史、鉄慎一郎、田口 学、寺澤 篤、安田邦光、高須宏江、石川 漕
286	ECMO下に緊急気管ステント留置術を施行した癌性気道狭窄症例	平成17年 9月	第2回日本救急医学会中部地方会 名古屋	(概要) 日本救急医学会中部地方会にて、「ECMO下に緊急気管ステント留置術を施行した癌性気道狭窄症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、石田 進、小嶋高志、池田奈美、森本由希、伊藤恭史、鉄慎一郎、田口 学、寺澤 篤、安田邦光、高須宏江、石川 漕
287	2年目を迎えた新臨床研修制度における初期臨床研修での救急研修の位置付けと救急医のあり方	平成17年 9月	第2回日本救急医学会中部地方会 名古屋	(概要) 日本救急医学会中部地方会にて、「2年目を迎えた新臨床研修制度における初期臨床研修での救急研修の位置付けと救急医のあり方」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 横江正道、塚川敏行、稲田眞治、白子隆志、石川 漕
288	上行大動脈置換術後の経過観察中に弓部大動脈瘤が認められ、症状発症から約2日後に診断されたaorto-pulmonary fistulaの一例	平成17年 9月	第2回日本救急医学会中部地方会 名古屋	(概要) 日本救急医学会中部地方会にて、「上行大動脈置換術後の経過観察中に弓部大動脈瘤が認められ、症状発症から約2日後に診断されたaorto-pulmonary fistulaの一例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 木原 淳、稲田眞治、石川 漕、他3名

289	救急外来の充実と採算性の両立は可能か？	平成17年 10月	第33回日本救急医学学会総会 埼玉	(概要) 日本救急医学学会総会にて、「救急外来の充実と採算性の両立は可能か？」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、白子隆志、石川 清、他2名
290	当院における電撃傷の経験	平成17年 10月	第33回日本救急医学学会総会 埼玉	(概要) 日本救急医学学会総会にて、当院における電撃傷の経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、横江正道、稲田眞治、白子隆志、石川 清
291	イラン地震及びスマトラ沖地震被災者救援での日赤ERU技術要員としての経験	平成17年 10月	第41回日本赤十字医学学会総会 島根	(概要) 日本赤十字医学学会総会にて、イラン地震及びスマトラ沖地震被災者救援での日赤ERU技術要員としての経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 礪石英治、山田悌士、浅井由樹夫、新居優貴、石川 清、他4名
292	アフガニスタン医療復興支援事業における外科チーム参画の効果	平成17年 10月	第41回日本赤十字医学学会総会 島根	(概要) 日本赤十字医学学会総会にて、アフガニスタン医療復興支援事業における外科チーム参画の効果について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、石川 清、他11名
293	当院の国際医療救援. 開発協力要員育成における登録制の改正と今後の課題	平成17年 10月	第41回日本赤十字医学学会総会 島根	(概要) 日本赤十字医学学会総会にて、当院の国際医療救援. 開発協力要員育成における登録制の改正と今後の課題について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、石川 清、他5名
294	国際救援開発協力要員集中英語研修の効果的なあり方	平成17年 10月	第41回日本赤十字医学学会総会 島根	(概要) 日本赤十字医学学会総会にて、「国際救援開発協力要員集中英語研修の効果的なあり方」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 東条奈美、石川 清、他2名
295	ACLSプロジェクトとしての当院における取り組み	平成17年 10月	第41回日本赤十字医学学会総会 島根	(概要) 日本赤十字医学学会総会にて、ACLSプロジェクトとしての当院における取り組みについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、伊藤友弥、横江正道、稲田眞治、白子隆志、角由美子、奥田晃子、國本三千代、黒木朝子、井嶋廣子、藤居靖幸、遠松哲二、石川 清
296	Asystole確認から24分経過後、蘇生行為に反応し心拍再開・社会復帰を遂げた1例	平成17年 10月	第2回愛知心臓突然死研究会 名古屋	(概要) 愛知心臓突然死研究会にて、「Asystole確認から24分経過後、蘇生行為に反応し心拍再開・社会復帰を遂げた1例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 横江正道、稲田眞治、塚川敏行、白子隆志、石川 清、他2名
297	シンポジウム『災害医療とその教育』スマトラ島沖地震津波災害から学んだこと	平成17年 11月	第14回麻酔科救急医療研究会 山形	(概要) 麻酔科救急医療研究会にて、シンポジウム『災害医療とその教育』スマトラ島沖地震津波災害から学んだことについて発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
298	弓部大動脈瘤—肺動脈間短絡により急激な肺水腫をきたした症例	平成17年 11月	第25回日本臨床麻酔学会 大阪	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、弓部大動脈瘤—肺動脈間短絡により急激な肺水腫をきたした症例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、森本由希、寺澤 篤、高須宏江、石川 清
299	パキスタン北部地震における国際赤十字・赤新月社連盟Field hospital ERU (IFRC Hospital Abbottabad)での医療救援活動	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学学会総会にて、パキスタン北部地震における国際赤十字・赤新月社連盟Field hospital ERU (IFRC Hospital Abbottabad)での医療救援活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、白子順子、伊藤 明子、山田悌士、浅井由樹夫、高井久実子、東条奈美、石川 清
300	パキスタン北部地震被災者救援—先遣隊としての活動報告—	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学学会総会にて、「パキスタン北部地震被災者救援—先遣隊としての活動報告—」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子順子、伊藤明子、白子隆志、山田悌士、高井久実子、東条奈美、石川 清、他1名
301	スマトラ沖地震津波災害の教訓	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学学会総会にて、スマトラ沖地震津波災害の教訓について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清、他7名

302	スマトラ沖地震・津波災害救援における看護師の活動	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学会総会にて、スマトラ沖地震・津波災害救援における看護師の活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 高井久美子、赤塚あさ子、伊藤明子、石川佳世子、林 聖子、嘉村幸子、小林美紀、石川 漕
303	スマトラ島沖地震・津波復興支援事業とその課題	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学会総会にて、スマトラ島沖地震・津波復興支援事業とその課題について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 酒井登茂子、石川佳世子、赤塚あさ子、東条奈美、伊藤明子、白子順子、佐藤公治、石川 漕
304	DMATの発想に基づいたトリアージの院内患者受け入れ訓練への導入	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学会総会にて、DMATの発想に基づいたトリアージの院内患者受け入れ訓練への導入について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 寺西美佐絵、井嶋廣子、稲田眞治、佐藤公治、榊原聖博、駒井一洋、前田和男、園田 誠、石川 漕
305	集団災害医療への取り組みの一環としてのトリアスロン救護活動について	平成18年 2月	第11回日本集団災害医学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学会総会にて、「集団災害医療への取り組みの一環としてのトリアスロン救護活動について」を発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、横江正道、稲田眞治、白子隆志、石川 漕、他1名
306	院内災害訓練をマンネリ化させないために	平成18年2月	第11回日本集団災害医学会総会 仙台	(概要) 日本集団災害医学会総会にて、「院内災害訓練をマンネリ化させないために」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 佐藤公治、井嶋廣子、寺西美佐絵、村手裕一郎、榊原聖博、駒井一洋、前田和男、園田 誠、石川 漕
307	自然災害・人為災害における感染症対策—地球規模での取り組み スマトラ島沖地震・津波での日赤医療チームの活動	平成18年 2月	第21回日本環境感染学会学術集会 東京	(概要) 日本環境感染学会学術集会にて、自然災害・人為災害における感染症対策—地球規模での取り組み スマトラ島沖地震・津波での日赤医療チームの活動について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漕、他9名
308	左冠動脈肺動脈起始症に対して数度の体外心肺補助を行い救命した一例	平成18年 2月	第2回日本麻酔科学会東海・北陸支部学術集会 安城	(概要) 日本麻酔科学会東海・北陸支部学術集会にて、左冠動脈肺動脈起始症に対して数度の体外心肺補助を行い救命した一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄慎一郎、寺澤 篤、日比野阿礼、小嶋高志、池田奈美、森本由希、伊藤恭史、田口 学、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
309	絞扼性イレウス術後に併発したARDSに対して、後期少量ステロイド療法が著効した一例	平成18年 3月	第33回日本集中治療医学会学術集会 大阪	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、絞扼性イレウス術後に併発したARDSに対して、後期少量ステロイド療法が著効した一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 鉄慎一郎、池田奈美、森本由希、伊藤恭史、田口 学、寺澤 篤、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
310	日本赤十字社基礎保健医療ERUにおけるパキスタン北部地震救援活動	平成18年 3月	第21回日本国際保健医療学会東日本地方会 静岡	(概要) 日本国際保健医療学会東日本地方会にて、日本赤十字社基礎保健医療ERUにおけるパキスタン北部地震救援活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子順子、高井久美子、山田梯士、東条奈美、伊藤明子、石川 漕
311	96%ウォッカ500ml飲酒症例に対する血液透析の適応	平成18年 5月	第9回日本臨床救急医学会 盛岡	(概要) 日本臨床救急医学会にて、「96%ウォッカ500ml飲酒症例に対する血液透析の適応」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、石川 漕、他1名
312	術中に部分肺静脈還流異常症が発見された一症例	平成18年 10月	第26回日本臨床麻酔学会 旭川	(概要) 日本臨床麻酔学会にて、「術中に部分肺静脈還流異常症が発見された一症例」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、田口 学、鉄慎一郎、寺澤 篤、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 漕
313	救急車適正利用に関する問題点 患者・救急隊員・医師・看護師のアンケート結果から	平成18年 10月	第34回日本救急医学会総会 福岡	(概要) 日本救急医学会総会にて、「救急車適正利用に関する問題点 患者・救急隊員・医師・看護師のアンケート結果から」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、横江正道、稲田眞治、塚川敏行、石川 漕
314	院内当直体制の実情に合わせた外傷初期診療教育コースの実施経験	平成18年 10月	第34回日本救急医学会総会 福岡	(概要) 日本救急医学会総会にて、院内当直体制の実情に合わせた外傷初期診療教育コースの実施経験について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、白子隆志、横江正道、石川 漕、他1名

315	Asystoleから心拍再開・社会復帰を来した高齢者の1例	平成18年10月	第34回日本救急医学会総会 福岡	(概要) 日本救急医学会総会にて、Asystoleから心拍再開・社会復帰を来した高齢者の1例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (著者名) 横江正道、稲田眞治、白子隆志、塚川敏行、石川 清
316	パキスタン北部地震におけるICRCフィールドホスピタルでの被災者救援活動と課題	平成18年10月	第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会 長崎	(概要) 日本熱帯医学会・日本国際保健医療学会にて、パキスタン北部地震におけるICRCフィールドホスピタルでの被災者救援活動と課題について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、石川 清、他1名
317	日本赤十字社での国際救援要員育成～インドネシア赤十字社ボゴール病院支援事業を通して	平成18年10月	第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会 長崎	(概要) 日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会にて、「日本赤十字社での国際救援要員育成～インドネシア赤十字社ボゴール病院支援事業を通して」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 関塚美穂、伊藤明子、白子順子、石川 清
318	パキスタン北部地震における国際赤十字・赤新月社連盟Field Hospital ERU(IFRC Hospital Abbottabad)での医療救援活動	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、パキスタン北部地震における国際赤十字・赤新月社連盟Field Hospital ERU(IFRC Hospital Abbottabad)での医療救援活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、白子順子、伊藤 明子、山田悌士、浅井由樹夫、高井久実子、東条奈美、石川 清
319	パキスタン北部地震被災者救援～先遣隊としての活動報告～	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、パキスタン北部地震被災者救援～先遣隊としての活動報告～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子順子、伊藤明子、東条奈美、石川 清、他1名
320	パキスタン北部地震におけるIFRC Field Hospitalでの医療救援活動報告	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、パキスタン北部地震におけるIFRC Field Hospitalでの医療救援活動報告について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、白子順子、伊藤明子、東条奈美、石川 清
321	パキスタン北部地震での赤十字国際委員会病院活動報告～副事業主任の立場から～	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、パキスタン北部地震での赤十字国際委員会病院活動報告～副事業主任の立場から～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、石川 清、他2名
322	ERU機材習熟研修開催報告～評価・考察～	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会にて、ERU機材習熟研修開催報告～評価・考察～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 浅井由樹夫、山田悌士、東条奈美、伊藤明子、白子順子、石川 清、他2名
323	フィリピン共和国キリノ州での保健支援活動報告～ヘルスワーカーの育成～	平成18年11月	第42回日本赤十字社医学会総会 京都	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、フィリピン共和国キリノ州での保健支援活動報告～ヘルスワーカーの育成～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 藤井知美、中村知子、伊藤明子、東条奈美、白子順子、石川 清、他2名
324	パキスタン北部地震におけるBHC-ERU(基礎保健・医療型緊急対応ユニット)での医療救援活動	平成19年1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会について、パキスタン北部地震におけるBHC-ERU(基礎保健・医療型緊急対応ユニット)での医療救援活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子順子、高井久実子、山田悌士、伊藤明子、石川 清
325	災害医療における戦傷外科の位置づけー自然災害との相違点ー	平成19年1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会にて、災害医療における戦傷外科の位置づけー自然災害との相違点ーについて発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、白子順子、東条奈美、伊藤明子、佐藤公治、石川 清
326	ERU機材習熟研修開催報告～評価・考察～	平成19年1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会にて、ERU機材習熟研修開催報告～評価・考察～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 山田悌士、浅井由樹夫、東条奈美、伊藤明子、白子順子、石川 清
327	パキスタン北部地震被災者救援活動におけるICRCフィールドホスピタルの活動	平成19年1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会にて、パキスタン北部地震被災者救援活動におけるICRCフィールドホスピタルの活動について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、白子順子、石川 清

328	フィリピン南レイテ島地滑りにおける救援活動～フィリピン赤十字社の災害救援活動の現場から～	平成19年 1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会にて、フィリピン南レイテ島地滑りにおける救援活動～フィリピン赤十字社の災害救援活動の現場から～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小林美紀、藤垣 恵、白子順子、伊藤明子、石川 清
329	国際医療救援における予防接種プログラムの作成	平成19年 1月	第12回日本集団災害医学会 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会にて、国際医療救援における予防接種プログラムの作成について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤由紀、白子順子、伊藤明子、東条奈美、石川 清
330	災害時の救急医療のしくみ：災害救急医療の最前線と防災リーダーの役割	平成19年 1月	第12回日本集団災害医学会市民公開講座 名古屋	(概要) 日本集団災害医学会市民公開講座にて、災害時の救急医療のしくみ：災害救急医療の最前線と防災リーダーの役割について発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
331	Body Mass Indexが60の超肥満患者の人工呼吸管理を要した肺炎の一例	平成19年 3月	第34回日本集中治療医学会学術集会 神戸	(概要) 日本集中治療医学会学術集会について、Body Mass Indexが60の超肥満患者の人工呼吸管理を要した肺炎の一例について、発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 小嶋高志、寺澤 篤、池田奈美、伊藤恭史、鉄慎一郎、田口 学、安田邦光、石田 進、高須宏江、石川 清
332	十二指腸胆石イレウス (Bouveret症候群) の一例	平成19年 5月	第10回日本臨床救急医学会 神戸	(概要) 日本臨床救急医学会にて、十二指腸胆石イレウス (Bouveret症候群) の一例について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、白子隆志、横江正道、稲田眞治、石川 清
333	急性大動脈瘤解離を疑いCTを撮影するまでの時間を短縮する因子の検討	平成19年 10月	第35回日本救急医学会 大阪	(概要) 日本救急医学会にて、急性大動脈瘤解離を疑いCTを撮影するまでの時間を短縮する因子の検討について、発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、石川 清、他3名
334	当院におけるAED運用状況について	平成19年 10月	第35回日本救急医学会 大阪	(概要) 日本救急医学会にて、当院におけるAED運用状況についてを発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 塚川敏行、白子隆志、横江正道、稲田眞治、石川 清
335	救急領域での研修医臨床研修実績のウェブ登録の有用性	平成19年 10月	第35回日本救急医学会 大阪	(概要) 日本救急医学会にて、救急領域での研修医臨床研修実績のウェブ登録の有用性について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、塚川敏行、稲田眞治、横江正道、石川 清
336	ERUにおける技術要員の役割と課題	平成19年 10月	第43回日本赤十字社医学会総会 大分	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、ERUにおける技術要員の役割と課題について、発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 新居優貴、山田佛士、浅井由樹夫、磯石英治、石川 清、他3名
337	国際医療救援要員のための災害外傷セミナー	平成19年 10月	第43回日本赤十字社医学会総会 大分	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、国際医療救援要員のための災害外傷セミナーについて、発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子順子、白子隆志、伊藤明子、東条奈美、石川 清
338	NBC災害・テロ対策訓練～地域住民および行政機関との連携による～	平成19年 10月	第43回日本赤十字社医学会総会 大分	(概要) 日本赤十字社医学会総会にて、NBC災害・テロ対策訓練～地域住民および行政機関との連携による～について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 村手裕一郎、永田ゆかり、井嶋廣子、佐藤公治、白子隆志、向山憲男、石川 清
339	災害拠点病院としての赤十字病院の役割と課題	平成20年 2月	第13回日本集団災害医学会 筑波	(概要) 日本集団災害医学会にて、「災害拠点病院としての赤十字病院の役割と課題」について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、佐藤公治、稲田眞治、石川 清、他1名
340	自然災害・戦傷外科セミナーの開発	平成20年 2月	第13回日本集団災害医学会 筑波	(概要) 日本集団災害医学会にて、自然災害・戦傷外科セミナーの開発について発表した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、伊藤明子、佐藤公治、白子順子、稲田眞治、関塚美穂、東条奈美、石川 清
341	シンポジウム病院医療崩壊と救急医療、“救命救急センターも医療崩壊の危機に”	平成20年 7月	第58回日本病院学会 山形	(概要) 日本病院学会にて、シンポジウム病院医療崩壊と救急医療、“救命救急センターも医療崩壊の危機に”について掲載された。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清

342	キノコ中毒との識別に苦慮した チョウセンアサガオ中毒の症例	平成20年 9月	第6回日本麻酔科 学会東海北陸支部 学術集会 岐阜	(概要) 日本麻酔科学会東海北陸支部学術集会にて、キノコ中毒との識別に苦慮したチョウセンアサガオ中毒の症例について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、稲田眞治、下藪崇弘、伊藤恭史、徐 民恵、田口 学、寺澤 篤、石田 進、高須宏江、石川 漣
343	国際医療救援における災害外傷セ ミナー (第2報)	平成21年 2月	第14回日本集団災 害医学会 神戸	(概要) 日本集団災害医学会にて、国際医療救援における災害外傷セミナー (第2報) について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 白子隆志、白子順子、伊藤明子、稲田眞治、佐藤公治、石川 漣、他1名
344	脂肪塞栓症候群が疑われECMOの導 入を必要とした一例	平成21年 6月	第17回日本集中治 療医学会東海北陸 地方会 金沢	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会にて、脂肪塞栓症候群が疑われECMOの導入を必要とした一例について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、寺澤 篤、田口 学、稲田眞治、石田 進、高須宏江、石川 漣
345	当院における脳死臓器提供3症例の 経験	平成22年 3月	第37回日本集中治 療医学会学術集会 広島	(概要) 日本集中治療医学会学術集会にて、当院における死臓器提供3症例の経験について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 日比野阿礼、田口 学、稲田眞治、寺澤 篤、高須宏江、石川 漣
346	市中病院における薬物大量内服 (OD) 症例の受け入れをめぐる問 題点	平成22年 7月	第60回日本病院学 会 岐阜	(概要) 日本病院学会にて、市中病院における薬物大量内服 (OD) 症例の受け入れをめぐる問題点について掲載された。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 稲田眞治、野口善令、塚川敏行、花木奈央、神原淳一、福田 徹、石川 漣、他1名
347	紛争の激化するカンダハール地域 におけるICRCの病院支援と危機管 理	平成22年 11月	第46回日本赤十字 社医学会総会 仙台	(概要) 当院の国際救援活動の中で派遣された、.紛争の激化するカンダハール地域におけるICRCの病院支援と危機管理について発表した。その指導を担当した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 伊藤明子、芳原みなみ、川崎登茂子、赤塚あさ子、杉本憲治、片岡笑美子、石川 漣
348	国際赤十字で活動できる看護師を 志して～初めての派遣経験から～	平成22年 11月	第46回日本赤十字 社医学会総会 仙台	(概要) 国際救援活動に参加するナースの役割について発表し、その指導を担当した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 平田巳雅、芳原みなみ、伊藤明子、赤塚あさ子、杉本憲治、片岡笑美子、石川 漣
349	ドイツ赤十字社における給水・衛 生ERU研修	平成23年 2月	第16回日本集団災 害学会 大阪	(概要) 当院の国際救援活動の中で緊急対応ユニット (ERU) に関する研修会を開催した。特に、技術部門の給水・衛生ERUの研修、その指導を行った。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 山田悌士、伊藤明子、杉本憲治、石川 漣
350	東日本大震災の救護に積極的に職 員を派遣するもう一つの意味	平成23年 10月	第47回日本赤十字 社医学会総会 福井	(概要) 今回の東日本大震災は、阪神淡路大震災をはるかにしのぐ未曾有の大災害であり、歴史的にも千年に一度の大災害となった。この大震災で赤十字病院として頑張らなければこれ以上の災害はありえず、赤十字病院の存在意義が問われるとも言える。当院は赤十字病院の使命として全病院挙げてこの大震災に取り組み姿勢を示し、発災当日から多くの職員を派遣してきた。6月初めの時点で救護班15班、および石巻日赤の病院支援に合計208名を派遣した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漣
351	地域災害時の情報ネットワーク	平成24年 6月	第62回日本病院学 会 福岡	(概要) 日本病院学会で、地域災害時の情報ネットワークについて掲載された。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漣
352	最高の病院になるために	平成24年 9月	第59回日本栄養改 善学会 名古屋	(概要) 2012年の年頭、当院は2014年12月に創立100周年を迎えるに当たって最高の病院になるという一大目標を掲げ、色々な取り組みを進めていく中で、手段として全病院的なコーチングを導入。選抜された25名/年の職員が、約8ヶ月間に亘ってプロのコーチからコーチングの技法を学ぶ一方、その25名が各5名の職員にコーチングを実践する形で毎年150名がコーチングに参加。2年間の成果は、コーチング参加者の著明な評価の改善に加え、院内各部署で主体的な動きが活発化。“コーチングで病院を変える” “コーチングを病院の風土に” を合言葉に、今年度もコーチングを継続し、最高の病院になるという目標達成に向けて取り組んでいる。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漣

353	最高の病院を目指し、全病院的なコーチングを導入	平成25年 6月	第15回日本医療マネジメント学会学術総会 盛岡	(概要) 近年、組織を変える1つの手法としてコーチングが注目されている。当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8カ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 清水紀子、山口和宣、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 清
354	“コーチングで病院を変える” “コーチングを病院の風土に”～ 最高の病院を目指し、全病院的な コーチングを導入～	平成25年 6月	第63回日本病院学会 新潟	(概要) 近年、組織を変える1つの手法としてコーチングが注目されている。当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8カ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。298-298 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 山口和宣、清水紀子、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 清
355	最高の病院を目指し、全病院的な コーチングを導入～コーチングを 病院の風土に～	平成25年 10月	第49回日本赤十字 社医学会総会 和歌山	(概要) 当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8カ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 渡邊 勝、清水紀子、山口和宣、池上健二、石川 清
356	～最高の病院になるために～全病 院的なコーチングの導入	平成25年 11月	日本コーチ協会第 15回年次大会 東京	(概要) 最高の病院になるために全病院的なコーチングを導入“コーチングで病院を変える”“コーチングを病院の風土に”～2年間の成果と課題～2012年の年頭、当院は2014年12月に創立100周年を迎えるに当たって最高の病院になるという一大目標を掲げ、色々な取り組みを進めていく中で、手段として全病院的なコーチングを導入。選ばれた25名/年の職員が、約8ヶ月間に亘ってプロのコーチからコーチングの技法を学ぶ一方、その25名が各5名の職員にコーチングを実践する形で毎年150名がコーチングに参加。2年間の成果は、コーチング参加者の著明な評価の改善に加え、院内各部署で主体的な動きが活発化。“コーチングで病院を変える”“コーチングを病院の風土に”を合言葉に、今年度もコーチングを継続し、最高の病院になるという目標達成に向けて取り組んでいる。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
357	最高の病院を目指し、全病院的な コーチングを導入～2年間の取組み の成果～	平成26年 6月	第16回日本医療マ ネジメント学会学 術総会 岡山	(概要) 近年、組織を変える1つの手法としてコーチングが注目されている。当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8カ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。298-298 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 山口和宣、清水紀子、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 清
358	創立100周年に向け、「最高の病 院」を目指した2年間の取り組みと 成果～全病院的なコーチングを導入 して～	平成26年 6月	第64回日本病院学 会 高松	(概要) 近年、組織を変える1つの手法としてコーチングが注目されている。当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8カ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 清水紀子、山口和宣、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 清
359	医療界にこそ求められるコーチ ング 最高の病院になるために全病 院的なコーチングの導入～2年間の 実績と課題～	平成26年 9月	Hospital Management Japan Summit 2014 東京	(概要) 最高の病院になるために全病院的なコーチングを導入“コーチングで病院を変える”“コーチングを病院の風土に”～2年間の成果と課題～と題して以下の内容で講演した。・当院におけるコーチング導入までの経緯、・(株)コーチ・エイのコーチング・プログラム、・組織の変化はまず自分が変わることから、・コーチングの成果は着実に上がっていると実感、・医療界にこそ求められるコーチング (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
360	医療界にこそ必要なコーチング 全病院的なコーチングの導入～2年 間の経験から～	平成26年 9月	第1回日本医療安 全学会学術総会 東京	(概要) 医療安全の向上を目指すトップマネジメントの責任と役割で医療安全文化醸成のためにメディアエーション・コーチングを病院の風土に！と題して以下の内容で講演した。・はじめに、・全病院的なメディアエーション導入、・医療安全とコーチング、・全病院的なコーチング導入、・コーチング・スキルの例、・コーチング導入の成果、・医療界にこそ必要なコーチング、・メディアエーション・コーチングを病院の風土に！ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清

361	最高の病院を目指し全病院的なコーチングを導入した2年間の取り組みと成果	平成26年 10月	日本医療マネジメント学会 雑誌15	(概要) 当院は、2014年12月に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その手段として2012年度から医療機関では初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、2年間にわたる取り組みの成果を発表する。全病院的なコーチングを導入して2年が経過。この間、延べ463名もの職員（全体の25%）が各職場でコーチングを実践したことにより、職員も職場も徐々にではあるが着実に変化しており、最高の病院になるための強固な土台ができたと思われる。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。15-184-184 (発表者名) 渡邊 勝、清水紀子、山口和宣、池上健二、片岡笑美子、平山治雄、佐藤公治、石川 漕
362	性暴力被害者支援における患者・家族メンタル支援の展望～性暴力被害者支援センター開設を通して～	平成27年 1月	第1回患者・家族メンタル支援学会 学術総会 東京	(概要) 第1回患者・家族メンタル支援学会学術総会において、性暴力被害者支援における患者・家族メンタル支援の展望開設までの経緯～性暴力被害者支援センター開設を通して～ 以下の内容で講演した。①性暴力被害者の訴え、②性暴力支援センター・大阪S A C H I C Oの取り組み、③わが国の性暴力支援センターの現状、④当院の「性暴力被害者支援センター日赤なごや」開設に向けての取り組み、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漕
363	最高の病院をめざして 3年間にわたる全病院的なコーチング導入による成果と課題	平成27年 6月	第17回日本医療マネジメント学会学術総会 大阪	(概要) 当院は、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その手段として2012年度から医療機関では初めて全病院的なコーチングを導入。3年間にわたる取り組みの成果と課題について発表する。3年間にわたるコーチングの取り組みの成果と課題。1 コーチングは文化として着実に定着しつつあり、医療界にこそコーチングは有用。2 医師など多忙な職員には、このコーチング・プログラムを8ヵ月間実践するには限界があり、医療界に合ったコーチング教育プログラムが必要。3 当院独自の運用スタイルを目指す。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 山口和宣、片岡笑美子、石川 漕
364	医療機関初、全病院的なコーチングを導入した3年間の成果と課題	平成27年 6月	第65回日本病院学会 軽井沢	(概要) 近年、組織を変える1つの手法としてコーチングが注目されている。当院は、2014年に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その目標を達成するための手段として医療機関としては初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、約8ヵ月間にわたるその成果を発表する。全病院的なコーチング導入により、その成果は確実に得られており、最高の病院になるという目標への土台ができたと思われる。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。Vol. 65th Page. 174 (発表者名) 清水紀子、山口和宣、渡邊 勝、池上健二、片岡笑美子、関 行雄、平山治雄、石川 漕
365	全病院的なコーチングの導入と検査部の変化	平成27年 7月	第20回日赤検査学術大会 東京	(概要) 当院は2012年より3年計画で医療機関では初めての試みとなる全病院的なコーチングプログラムに取り組んだ。検査部では様々な変化と成果を認め、職員満足度の向上が図られた。Vol. 49 No. 1 Page. 13-18 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 杉野裕志、近藤規明、柴田一泰、伊藤 守、黄 卓、佐藤公治、平山治雄、石川 漕
366	最高の病院を目指し全病院的なコーチングを導入した3年間の取り組みと成果	平成27年 10月	第51回日本赤十字社医学会総会 北見	(概要) 当院は、2014年12月に創立百周年を迎えるにあたり、最高の病院になるという一大目標を掲げ、その手段として2012年度から医療機関では初めて全病院的なコーチングを導入した。今回、2年間にわたる取り組みの成果を発表する。全病院的なコーチングを導入して2年が経過。この間、延べ463名もの職員（全体の25%）が各職場でコーチングを実践したことにより、職員も職場も徐々にではあるが着実に変化しており、最高の病院になるための強固な土台ができたと思われる。15-184-184 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 渡邊 勝、清水紀子、山口和宣、池上健二、片岡笑美子、関 行雄、平山治雄、石川 漕
367	コーチングが生み出すリーダーシップ	平成27年 11月	日本医療マネジメント学会愛知県支部大会 名古屋	(概要) 当院の全病院的なコーチング導入に際して、副院長としてコーチングに参加し、コーチングのすばらしさを体験した。部下のドクターにコーチングを実践する中で、部下の発案により脳内視鏡センター構想が出され、実際実現することとなった。従来、感じることもなかったリーダーシップを痛感したとする内容。発表に当たってアドバイスをした。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 関 行雄、山口和宣、堀 太志、石川 漕
368	激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～	平成28年 4月	第18回日本医療マネジメント学会学術総会ランチョンセミナー 福岡	(概要) 当院が2012年から導入した全病院的なコーチングによる、職員の主体的な行動や組織風土創りの取り組み、また、経営改善の一環として導入した(株)ホギメディカルの「手術管理システム」を用いたコーチングの取り組みを紹介したいと思います。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 漕

369	激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～	平成28年 4月	第18回日本医療マネジメント学会	(概要) 「激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なシステミック・コーチング導入である。 17-172-172 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
370	「最高の病院における最高の電話対応」を目指した、電話交換台における4年間の取り組みと成果	平成28年 6月	第66回日本病院学会 盛岡	(概要) コーチングは対話によって相手の目標達成に向けた行動を支援するスキルであり、相手の主体的な行動を促す。ビジネス界を中心にその手法が導入され、組織におけるチーム力の向上やリーダー開発を目的としたスキルとしても取り入れられている。当院は2012年より3年計画で医療機関では初めての試みとなる全病院的なコーチングプログラムに取り組んだ。電話交換台では様々な変化と成果を認め、職員満足度の向上が図られた。 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 (発表者名) 安藤真琴、渡邊 勝、池上健二、関 行雄、石川 清
371	コーチングの導入による検査部の取り組みと変化～部内職員満足度調査3年間の結果から～	平成28年 6月	第66回日本病院学会 盛岡	(概要) コーチングは対話によって相手の目標達成に向けた行動を支援するスキルであり、相手の主体的な行動を促す。ビジネス界を中心にその手法が導入され、組織におけるチーム力の向上やリーダー開発を目的としたスキルとしても取り入れられている。当院は2012年より3年計画で医療機関では初めての試みとなる全病院的なコーチングプログラムに取り組んだ。検査部では様々な変化と成果を認め、職員満足度の向上が図られた。 Vol. 49 No. 1 Page. 13-18 (本人担当部分) 演者の発表について教育指導した。 Vol. 66th Page. 319 (発表者名) 杉野裕志、原 祐樹、近藤規明、柴田一泰、伊藤 守、黄 卓、佐藤公治、平山治雄、石川 清
372	激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～	平成29年 2月	日本医療マネジメント学会第17回大分県支部学術集会 大分	(概要) 「激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なシステミック・コーチング導入である。 Vol. 17 No. Supplement Page. 172 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
373	コストと手間をかけずに、病院セキュリティを高める施策～医局前やオペ室で業者を待たせない仕組み～	平成29年 7月	第67回日本病院学会ランチョンセミナー 神戸	(概要) 本件では、コストと手間をかけず、取引業者を中心とした病院スタッフ以外の方を不要・不正に滞在させない仕組みを実現した事例を報告する。取引業者との入退館やアポイント管理に関する取り組みであったが、今後はセキュリティを更に高める為に、入院患者の御見舞に来た方の入退館管理など、広い範囲での取り組みへと発展させていくことも検討していく。 Vol. 67th Page. 347 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清
374	組織改革とシステミック・コーチング	平成29年 7月	第67回日本病院学会ランチョンセミナー 神戸	(概要) 「組織改革とシステミック・コーチング」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なシステミック・コーチング導入である。 (本人担当部分) 全て Vol. 67th Page. 354 (発表者名) 石川 清
375	教育講演「医療危機：高齢社会とイノベーション」	平成29年 7月	日本医療マネジメント学会教育講演座長	(概要) 日本医療マネジメント学会教育講演「医療危機：高齢社会とイノベーション」で座長講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
No.	(その他の講演等)			
1	外傷救急患者の集中治療	平成 6 年 10月	安田火災海上医療講演会 名古屋	(概要) 安田火災海上において、外傷救急患者の集中治療について医療講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
2	手術時PGE1投与による臓器障害予防効果の検討	平成 6 年 12月	麻酔蘇生研究会 名古屋	(概要) 臨床研究として、手術時PGE1投与による臓器障害予防効果の検討を行った。その成果を麻酔蘇生研究会で発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

3	産科麻酔あれこれ	平成7年 3月	名古屋産婦人科医 師研修会 名古屋	(概要) 名古屋産婦人科医師研修会において、産科麻酔あれこれについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
4	阪神大震災の日赤医療救護活動に 参加して	平成7年 3月	愛知県医師会第13 回救急医療講演会 名古屋	(概要) 愛知県医師会第13回救急医療講演会において、阪神大震災の日赤医療救護活動に参加しての印象を発表した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
5	阪神大震災における被災地の状況 と災害医療のあり方	平成7年 7月	第113回東海病院 管理学会 名古屋	(概要) 第113回東海病院管理学会において、阪神大震災における被災地の状況と災害医療のあり方について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
6	救急患者の見方	平成8年 6月	名古屋通信病院看 護研究会 名古屋	(概要) 名古屋通信病院看護研究会において、救急患者の見方について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
7	救急医療の現場から 歯科との関 わり	平成8年 7月	第1回名古屋市歯 科医師会研修会 名古屋	(概要) 第1回名古屋市歯科医師会研修会において、救急医療の現場から歯科との関わりについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
8	人工気道を有する患者の感染対策	平成8年 8月	第5回東海院内感 染対策研究会 名古屋	(概要) 東海院内感染対策研究会において、人工気道を有する患者の感染対策について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
9	赤十字が行う医療救護	平成8年 11月	平成8年度日本赤 十字社愛知県支部 救護班要員研修 祖父江町	(概要) 日本赤十字社愛知県支部救護班要員研修において、赤十字が行う医療救護について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
10	ICUにおける呼吸管理	平成9年 4月	東海胸研 名古屋	(概要) 東海胸研において、ICUにおける呼吸管理について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
11	日本赤十字社の災害救護	平成9年 8月	日赤刈谷市地区社 資募集協賛委員視 察研修 刈谷	(概要) 日赤刈谷市地区社資募集協賛委員視察研修において、日本赤十字社の災害救護について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
12	災害と医療救護活動	平成10年 6月	平成10年度日本赤 十字社愛知県支部 救護班要員研修 鳳来寺町	(概要) 日本赤十字社愛知県支部救護班要員研修において、災害と医療救護活動について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
13	当院における救急医療の現状	平成11年 11月	平成11年度東名古 屋医師会研修会 名古屋	(概要) 平成11年度東名古屋医師会研修会にて当院における救急医療の現状について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
14	赤十字医療救護活動の現状	平成13年 4月	平成13年度日赤愛 知県支部管内新規 採用職員研修 名古屋	(概要) 日赤愛知県支部管内新規採用職員研修にて『赤十字医療救護活動の現状』について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
15	ICUでの呼吸管理に必要な検査の見 方	平成13年 6月	日本集中治療医学 会東海北陸地方会 看護部会 卒後セミナー 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会看護部会において、ICUでの呼吸管理に必要な検査の見方について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
16	スーダン紛争犠牲者救援医療活動	平成13年 9月	愛知県外科医会救 急医療研修会 名古屋	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

17	スーダン紛争犠牲者救援医療活動に参加して	平成13年 12月	中川区外科医会 名古屋	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
18	赤十字国際医療救援医療活動	平成14年 1月	平成13年度青少年 赤十字加盟校長研 究会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
19	国際医療救援活動	平成14年 1月	安城市医師会研修 会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
20	スーダン紛争犠牲者救援医療活動に参加して	平成14年 6月	グローリア21エス ティック学院研 修会 名古屋	(概要) 私は赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した。3ヶ月という非常に短い期間ではあったが、若い頃からの国際救援に対する熱い思いを実現できたことは自分自身にとって非常に幸運であった。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
21	ICUでの呼吸管理の実際	平成14年 6月	日本集中治療医学 会東海北陸地方会 看護部会 卒後セミナー 名古屋	(概要) 日本集中治療医学会東海北陸地方会看護部会において、ICUでの呼吸管理の実際について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
22	救命救急センターにおける最新の話題	平成14年 8月	岐阜県病院薬剤師 会西濃ブロック研 修会 大垣市	(概要) 岐阜県病院薬剤師会西濃ブロック研修会において、救命救急センターにおける最新の話題について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
23	災害訓練の実施と問題点について	平成14年 10月	愛知県外科医会 平成14年度救急医 療医師研修会 名古屋	(概要) 愛知県外科医会 平成14年度救急医療医師研修会において、災害訓練の実施と問題点について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
24	国際医療救援活動と麻酔科医	平成14年 12月	名古屋市立大学麻 酔蘇生学教室集談 会 名古屋	(概要) 名古屋市立大学麻酔蘇生学教室集談会において、国際医療救援活動と麻酔科医について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
25	救命救急センターにおける最新の話題	平成14年 12月	四日市地区救急医 療を語る会 四日市	(概要) 四日市地区救急医療を語る会において、救命救急センターにおける最新の話題について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
26	病院でのトリアージ	平成15年 4月	聖霊病院講演会 名古屋	(概要) 聖隷病院にて、『病院でのトリアージ』について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
27	赤十字医療救護活動の現状	平成15年 4月	平成15年度日赤愛 知県支部管内新規 採用職員研修 名古屋	(概要) 日赤愛知県支部管内新規採用職員研修にて「赤十字医療救護活動の現状」について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

28	医師のための災害救護	平成15年 10月	天白区医師会 名古屋	(概要) 「医師のための災害救護」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例。⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割。⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
29	救急医療における最近の話題	平成15年 12月	愛知県内科医会平成15年度救急医療講演会 名古屋	(概要) 愛知県内科医会平成15年度救急医療講演会において、「救急医療における最近の話題」について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
30	災害拠点病院としての取り組み	平成15年 12月	海南病院講演会 名古屋	(概要) 「災害拠点病院としての取り組み」というタイトルで以下の内容で講演した。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題。⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
31	イラン南東部地震救援活動報告	平成16年 2月	NHK “おはよう東海” 名古屋	(概要) 2003年12月26日、イラン南東部のバム市近郊を震央とし、震度6.3の直下型地震が発生、バム市とその周辺の地域が甚大な被害を被った。被害は死者42,000人、負傷者30,000人、総被災者200,000人に達した。この地震による被災者の医療救援活動を行うため、日本赤十字社は地震発生直後にERU（緊急対応ユニット）を発動した。その初動班の医師として救援活動に参加した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
32	イラン南東部地震救援活動報告	平成16年 2月	愛知県災害拠点病院会議 名古屋	(概要) 2003年12月26日、イラン南東部のバム市近郊を震央とし、震度6.3の直下型地震が発生、バム市とその周辺の地域が甚大な被害を被った。被害は死者42,000人、負傷者30,000人、総被災者200,000人に達した。この地震による被災者の医療救援活動を行うため、日本赤十字社は地震発生直後にERU（緊急対応ユニット）を発動した。その初動班の医師として救援活動に参加した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
33	イラン南東部地震救援活動	平成16年 3月	愛知県医師会講演会 名古屋	(概要) 2003年12月26日、イラン南東部のバム市近郊を震央とし、震度6.3の直下型地震が発生、バム市とその周辺の地域が甚大な被害を被った。被害は死者42,000人、負傷者30,000人、総被災者200,000人に達した。この地震による被災者の医療救援活動を行うため、日本赤十字社は地震発生直後にERU（緊急対応ユニット）を発動した。その初動班の医師として救援活動に参加した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
34	救急医療における最近の話題	平成16年 3月	平成15年度名東区医師会講演会 名古屋	(概要) 平成15年度名東区医師会において、救急医療における最近の話題について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
35	赤十字医療救護活動の現状	平成16年 4月	平成16年度日赤愛知県支部管内新規採用職員研修 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
36	赤十字のお話	平成16年 6月	平成16年度島根県高等学校青少年赤十字メンバーリーダーシッププログラム 島根	(概要) 平成16年度島根県高等学校青少年赤十字メンバーリーダーシッププログラムにて「赤十字のお話」について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

37	イラン地震の救援活動を通して東海地震にそなえる	平成16年 7月	名古屋市立大学臨床リフレッシュ講座 名古屋	(概要) 2003年12月26日、イラン南東部のバム市近郊を震央とし、震度6.3の直下型地震が発生、バム市とその周辺の地域が甚大な被害を被った。被害は死者42,000人、負傷者30,000人、総被災者200,000人に達した。この地震による被災者の医療救援活動を行うため、日本赤十字社は地震発生直後にERU（緊急対応ユニット）を発動した。その初動班の医師として救援活動に参加した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
38	救命救急体制について	平成16年 7月	鈴鹿回生病院講演会 鈴鹿	(概要) 鈴鹿回生病院にて「救命救急体制について」講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
39	赤十字の災害救護活動（国際救援）について	平成16年 10月	日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練講演会 富山	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
40	大地震！ 医療従事者としてできること	平成16年 11月	南生協病院講演会 名古屋	(概要) 「大地震！ 医療従事者としてできること」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例。⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割。⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
41	大地震！ 医師としてできること	平成16年 12月	愛知県内科医会救急医療講習会および日本臨床内科医会指定特別研修講座 名古屋	(概要) 「大地震！ 医師としてできること」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例。⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割。⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
42	大地震！ 医療従事者としてできること	平成16年 12月	愛知県看護協会災害看護研修会 名古屋	(概要) 「大地震！ 医療従事者としてできること」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例。⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割。⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
43	来るべき東海地震、東南海地震に備えて	平成17年 6月	南山大学OB会 名古屋	(概要) 南山大学OB会にて、「来るべき東海地震、東南海地震に備えて」について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
44	名古屋第二赤十字病院の経営戦略	平成17年 7月	成田赤十字病院医療セミナー 成田	(概要) 成田赤十字病院医療セミナーにて、「名古屋第二赤十字病院の経営戦略」について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
45	赤十字の国際救援活動について	平成17年 8月	愛知県支部主催国際人道法講座 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
46	過去の大地震は何をわれわれに教えたか？ 阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ島沖地震津波の医療救援活動の経験から	平成17年 9月	愛知県救急医療推進大会講演会 名古屋	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

47	来るべき巨大地震に備えて スマトラ島沖地震津波で学んだこと	平成17年 10月	愛知県外科医会救急医療医師研修会 名古屋	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
48	国際紛争地域の救援活動について	平成17年 10月	高浜市立高浜小学校青少年赤十字事業 高浜	(概要) 高浜市立高浜小学校青少年赤十字事業にて『国際救援のお話』について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
49	来るべき大地震に備えて！ 医療従事者としてできること	平成17年 11月	天白区医師会臨床懇話会 名古屋	(概要) 『来るべき大地震に備えて！ 医療従事者としてできること』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
50	過去の大地震は何をわれわれに教えたか？ 阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ島沖地震津波の医療救援活動の経験から	平成17年 11月	末永医院健康教室 名古屋	(概要) 『過去の大地震は何をわれわれに教えたか？ 阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ島沖地震津波の医療救援活動の経験から』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
51	来るべき大地震に備えて、医療従事者としてできること	平成17年 12月	第33回知多医師会・知多厚生病院 合同カンファレンス講演会 知多	(概要) 『来るべき大地震に備えて、医療従事者としてできること』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
52	東海地震！ あなたは何ができますか？	平成17年 12月	平成17年度愛知県看護協会災害看護活動研修会 名古屋	(概要) 『東海地震！ あなたは何ができますか？』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
53	赤十字と私	平成18年 5月	赤十字病院臨床研修医研修会 東京	(概要) 赤十字病院臨床研修医研修会にて『赤十字と私』について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
54	赤十字国際救援の実際	平成18年 6月	山田赤十字病院職員研修 伊勢	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
55	大災害時の医師としての心構え	平成18年 6月	平成18年度青雲会 名古屋	(概要) 『大災害時の医師としての心構え』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

56	大規模災害時の医師の心得	平成18年 6月	第12回藤田ハート カンファレンス 名古屋	(概要) 『大規模災害時の医師の心得』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か?、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは? トリアージとは? 津波対策とは?、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
57	大規模災害時の医師の心得	平成18年 7月	社保研究会(愛知 県保険医協会) 名古屋	(概要) 『大規模災害時の医師の心得』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か?、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは? トリアージとは? 津波対策とは?、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
58	研修医教育と救急医療	平成18年 8月	第24回富山救急医 療研究会 富山	(概要) 寺沢秀一教授の主張『初期臨床研修の主たる目的は、研修医をERで鍛えることで達成可能となり、2年間を通して平均月5回のER直当で全科の救急患者を診療すべき』という条件は満足させるかに見えるが、しかし、ここで最も重要であるのは、研修医をERで鍛える人材の確保であり、それなくしては研修医に疲弊感と医療過誤の汚点を与えるのみで、理想的な教育体制とはかけ離れたものとなる。今回は、当院の救急の現状を紹介しその問題点と、研修医教育とER型救急について概説する。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
59	救急外来で見る突然死シンポジウム:『心臓突然死から身を守るためには』	平成18年 9月	名古屋大学環境医 学研究所市民公開 講座 名古屋	(概要) 名古屋大学環境医学研究所市民公開講座にて、「心臓突然死から身を守るためには」について講座を行った。 突然死研究会2006年9月23日(土) (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
60	3回のCPAを経て生存退院した心筋梗塞の一例	平成18年 10月	第3回循環と救急 の会 名古屋	(概要) 第3回循環と救急の会において、3回のCPAを経て生存退院した心筋梗塞の一例について講演した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者名) 吉田路加、横江正道、稲田眞治、塚川敏行、白子隆志、石川清、他2名
61	大規模災害時の医療従事者の心構え	平成18年 10月	常滑市民病院研修 会 常滑	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
62	備えていますか? 東海地震	平成18年 11月	地域住民の皆様 のための病院で災 害医療を学ぶ集 い 名古屋	(概要) 地域住民の皆様のための病院で災害医療を学ぶ集いにて、「備えていますか? 東海地震」について講話を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
63	大規模災害時の看護師の役割	平成18年 12月	平成18年度愛知県 看護協会災害看護 活動研修会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
64	大規模災害時に名古屋第二赤十字病院が果たす役割	平成18年 12月	千種ロータリーク ラブ月例会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
65	赤十字国際救援活動の実際	平成19年 2月	日本冬桜の会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

66	地域の基幹病院における防災対策	平成19年 2月	大都市研究会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
67	心房細動発作後に心室細動を発症した非閉塞性肥大型心筋症の一例	平成19年 7月	第4回循環と救急の会 名古屋	(概要) 第4回循環と救急の会において、心房細動発作後に心室細動を発症した非閉塞性肥大型心筋症の一例について講演した。 (本人担当部分) 共同研究につき抽出不可能 (発表者) 渡邊仁美、横江正道、稲田真治、塚川敏行、白子隆志、野口善令、石川清、他14名
68	大規模災害に対する医療従事者の心構え	平成19年 9月	刈谷豊田総合病院 院内研修会 刈谷	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
69	大規模災害に対する医療従事者の心構え	平成19年 11月	名古屋大学病院 院内研修会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
70	赤十字の国際救援	平成19年 11月	東ロータリークラブ 講話 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
71	医療崩壊の中で生き残るための病院管理	平成19年 12月	病院環境フォーラム '07東京 東京	(概要) 病院環境フォーラムにて、「救命救急センターも救急医療崩壊の渦中に」について、講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
72	赤十字の国際医療救援	平成20年 1月	平成19年度愛知県 青少年赤十字加盟 校長・指導者研究 会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際医療救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際医療救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
73	名古屋市の救急医療が崩壊する「救命救急センターも救急医療崩壊の渦中に」	平成20年 2月	社会保険中京病院 創立60周年記念講 演会 名古屋	(概要) 創立60周年記念演会において、名古屋市の救急医療が崩壊する「救命救急センターも救急医療崩壊の渦中に」について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
74	最近の救急医療の現状	平成20年 2月	名古屋キワニスク ラブ講話 名古屋	(概要) 名古屋キワニスクラブにおいて、最近の救急医療の現状について以下の内容で講話した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
75	院長メッセージ“あなたも赤十字大好き人間に”	平成20年 6月	日本赤十字社後期 研修医研修会 東京	(概要) 臨床研修医研修会2011.8.20 日本赤十字社看護大学にて、研修医へのメッセージ『皆さんも赤十字大好き人間に！』について講演を行った。 2011年8月20日(土)30分間 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

76	赤十字の国際医療救援	平成20年 6月	諏訪赤十字病院職員研修 諏訪	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
77	救急医療機関からの声	平成20年 9月	救急医療市民フォーラム“みんなの救急医療を見直そう” 名古屋	(概要) 救急医療市民フォーラムにおいて、救急医療機関からの声について以下の内容で講演した。①タイトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
78	大規模災害時に地域の基幹病院の果たす役割	平成20年 9月	南生協病院災害医療講演会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
79	大規模災害時の医療従事者の心構え	平成20年 10月	岡崎外科医会講演会 岡崎	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
80	赤十字の国際救援	平成20年 12月	第600回臈光会月例会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
81	赤十字の国際救援	平成20年 12月	MIC株式会社講演会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
82	救急医療 救急で病院にかかる時のポイント	平成20年 12月	テレビ愛知“健康ワンダフル” 名古屋	(概要) 救急医療市民フォーラム『みんなの救急医療をいま見直そう』『救急医療機関からの声』について講演した。 2008. 9. 7 13時30分～16時00分 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
83	赤十字の国際救援	平成21年 7月	愛知県立旭丘高等学校第64回教養講座 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の取り組みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
84	国際医療ボランティアについて	平成21年 7月	平成21年度愛知県私学協会名古屋支部設置者・校長研修会 名古屋	(概要) 平成21年度愛知県私学協会名古屋支部設置者・校長研修会にて、「国際医療ボランティアについて講演した。 講演20分、質疑応答10分 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
85	麻酔	平成21年 9月	国際救援における災害外傷セミナー 名古屋	(概要) 国際医療救援における災害外傷セミナー“麻酔”について赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した、経験を講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

86	だいたいぶ？いまの救急医療— 救急医療の現状と課題—	平成21年 9月	NPO法人「心技 塾」9月例会 名古屋	(概要) NPO法人「心技塾」9月例会において、だいたいぶ？いまの救急医療-救急医療 の現状と課題について講演した。①救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴 史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、 ⑤大規模災害時の救急医療、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
87	だいたいぶ？いまの救急医療— 救急医療の現状と課題—	平成21年 10月	平成21年度愛知教 弘友の会教育文化 講演会 名古屋	(概要) NPO法人「心技塾」9月例会において、だいたいぶ？いまの救急医療-救急医療 の現状と課題について講演した。①救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴 史的な事件とその後の動き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、 ⑤大規模災害時の救急医療、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
88	赤十字の国際救援	平成21年 10月	平成21年度愛知県 立旭丘高等学校P TA教育講演会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自 分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活 動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当 院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の組み みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
89	救急医療の現状と課題	平成21年 11月	エスエルグループ 講演会 名古屋	(概要) エスエルグループ講演会において、救急医療の現状と課題について講演した。①タ イトル：救急医療の現状と課題、②救急医療に関する歴史的な事件とその後の動 き、③救急医療の諸問題、④救急医療における医療崩壊、⑤大規模災害時の救急医 療 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
90	赤十字病院の連携とは～地域医療 再生に向けて～	平成22年 4月	平成22年度全国赤 十字医療施設長会 議パネルディス カッション 東京	(概要) 平成22年度全国赤十字医療施設長会議にてパネルディスカッション『赤十字病院の 連携とは ～地域医療再生に向けて～』について医師派遣拠点病院の立場から講演 を行った。 2010. 4. 14 (15分間) (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
91	最近の病院医療崩壊の現状と当院 の取り組み	平成22年 5月	MR研修会 名古屋	(概要) MR研修会にて、“最近の病院医療崩壊の現状と当院の取り組み”について講演を 行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
92	赤十字の国際救援活動と職員の意 識向上	平成22年 6月	日本経営近代化協 会(SAM)6月例会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自 分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活 動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当 院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の組み みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
93	赤十字の国際救援活動と職員の意 識向上	平成22年 8月	赤門ウィレックス 株式会社社内研修 会 名古屋	(概要) 『赤十字の国際救援活動について』のタイトルで以下の項目について講演した。自 分自身で経験したスーダン紛争被災者救援活動、イラン南東部地震被災者救援活 動、スマトラ島沖地震津波被災者救援活動に加え、国際医療救援拠点病院として当 院のスタッフが関わった国際救援活動、さらには、当院の国際救援活動の組み みについて講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
94	麻酔	平成22年 10月	国際救援における 災害外傷セミ ナー」 名古屋	(概要) 国際医療救援における災害外傷セミナー“麻酔”について赤十字国際委員会(ICRC) の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキ ョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン 紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した、経験を講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
95	備えていますか？ 東海地震、そ の時、救える命を救うために	平成22年 11月	ライオンズマン ション八事ガーデ ン自主防災会 名古屋	(概要) 第6回 地域住民のみなさんと災害医療と一緒に考える集い 『備えていますか？東海地震』というタイトルで講話をした。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

96	大規模災害時の医療従事者の心得	平成22年 11月	松波総合病院第29 回羽島救急カン ファレンス特別講 演 羽島	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震につ いて、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救 急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大 規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
97	被災地外の赤十字病院が果たすべ き役割	平成23年 4月	第45回日本赤十字 病院長連盟総会 東京	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震につ いて、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救 急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大 規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
98	今後の災害医療救護について 3.11東日本大震災の経験から“救 護班のマネージメントの立場か ら”	平成23年 6月	第178回東海病院 管理学研究会 名古屋	(概要) 第178回東海病院管理学研究会にて、今後の災害医療救護について 3.11東日本大震 災の経験から“救護班のマネージメントの立場から”について講演をした。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
99	災害医療～大災害から学んだ教訓 ～	平成23年 7月	東海東京証券プレ ミアセミナー 名古屋	(概要) 東海東京証券プレミアセミナーにて、「災害医療～大災害から学んだ教訓～」につ いて、講演をした。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
100	皆さんも赤十字大好き人間に！	平成23年 8月	平成23年度赤十字 病院臨床研修医研 修会 東京	(概要) 臨床研修医研修会2011.8.20にて研修医へのメッセージ『皆さんも赤十字大好き人間 に！』について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
101	大規模災害時の医療従事者の心構 え	平成23年 8月	愛知県議会健康福 祉委員会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震につ いて、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救 急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大 規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
102	災害医療～大災害から学んだ教訓 ～	平成23年 9月	防災・減災シンポ ジウム～東日本大 震災から学ぶ災害 医療と地域連携～ 名古屋	(概要) 防災・減災シンポジウム～東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携～にて、災害 医療～大災害から学んだ教訓～について講演を行った。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
103	麻酔	平成23年 9月	国際救援における 災害外傷セミナー 名古屋	(概要) 国際医療救援における災害外傷セミナー“麻酔”について赤十字国際委員会(ICRC) の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキ チョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン 紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した、経験を講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
104	いま医療従事者にもとめられる災 害医療	平成23年 10月	第23回椋山フォー ラム 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震につ いて、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救 急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大 規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
105	災害医療～東日本大震災、および 過去の大災害から学んだ教訓～	平成23年 11月	卸勤務薬剤師会東 海ブロック合同研 修会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震につ いて、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救 急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大 規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

106	災害医療—大震災から学んだ教訓—	平成23年 11月	第18回一宮地区病 診連携推進の集い 一宮	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
107	東日本大震災から学んだ教訓—医療従事者としての心構え—	平成23年 11月	愛知県病院協会東 日本大震災に対する 医療支援活動報告 講演会 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
108	東日本大震災から学んだ教訓—来た るべき東海地震に備えて—	平成23年 12月	テレビ愛知“健康 ワンダフル” 名古屋	(概要) ①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーでの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪ まとめ、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
109	災害医療体制	平成24年 3月	東海テレビ“スー パーニュース” 名古屋	(概要) 今回は、過去の大地震(阪神淡路大震災、イラン南東部地震、スマトラ沖地震)の医療救援活動の経験から、災害医療の立場で学んだことについてお話し、来るべき大地震に備えて医療従事者としてできることの心構えの参考にしていただければと思います。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
110	被災地の医療の早い復興を願って ～災害救護は赤十字の使命として 支援～	平成24年 3月	第2回自立復興シ ンポジウム 名古屋	(概要) 第2回自立復興シンポジウムにて～本日のテーマは、被災地の医療の早い復興を願って～災害救護は赤十字の使命として支援～ということ講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
111	災害時の地域医療について語ろう	平成24年 3月	中日新聞社 PROJECT LINKED 地域医療シンポジ ウム 名古屋	(概要) PROJECT LINKED地域医療シンポジウム 「災害時の地域医療について語ろう」と題して以下の内容で講演した。(1)LINKEDが、東日本大震災で、石巻赤十字病院を注目した理由、(2)石巻市、石巻赤十字病院について、(3)講演では、大きく分けて三つの質問をした。、(4)最後に、○ビデオ基調講演について (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
112	迫りくる大地震！愛知の病院は耐 えられるのか？	平成24年 8月	テレビ愛知“トコ トン1スタ” 名古屋	(概要) 、「迫りくる大地震！愛知の病院は耐えられるのか？」というタイトルで以下の内容で講演した。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③東海地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題。⑦災害医療と救急医療について。⑧芦屋市立病院ロビーでの話。⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
113	最高の病院になるために	平成24年 9月	第59回日本赤十字 栄養士会研修会 名古屋	(概要) 「最高の病院になるために全病的なコーチングの導入」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤梶コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
114	麻酔	平成24年 9月	国際救援における 災害外傷セミナー 名古屋	(概要) 国際医療救援における災害外傷セミナー“麻酔”について赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した、経験を講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

115	災害に強い病院を考える	平成24年 11月	中部電力株式会社 医療継続計画セ ミナー 蒲郡	(概要) 病院経営層向けMCP(災害時の医療継続計画)セミナー 災害に強い病院を考えると題して、タイトル“大規模災害時に医療施設に求められること”として次のテーマについて講演した。①東日本大震災、および過去の大災害から学んだ教訓、②厚労省からの提言:災害時における医療体制の充実強化、③東日本大震災での病院の被災状況とその対応例、④来るべき東海地震に備えて医療施設に求められること、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
116	災害に強い病院を考える	平成24年 12月	中部電力株式会社 医療継続計画セ ミナー 名古屋	(概要) 病院経営層向けMCP(災害時の医療継続計画)セミナー 災害に強い病院を考えると題して、タイトル“大規模災害時に医療施設に求められること”として次のテーマについて講演した。①東日本大震災、および過去の大災害から学んだ教訓、②厚労省からの提言:災害時における医療体制の充実強化、③東日本大震災での病院の被災状況とその対応例、④来るべき東海地震に備えて医療施設に求められること、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
117	当院における病院経営の取り組み	平成24年 12月	日赤院長塾 東京	(概要) “当院における病院経営の取り組み”のタイトルで以下のテーマについて講演した。①当院の概要と方向性、②当院における取り組み、③救急医療、④病床管理、⑤医療連携、⑥高度医療、⑦手術室運営、⑧研修医教育、⑨人材確保・人材育成、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
118	～最高の病院になるために 全病 院的なコーチングの導入	平成25年 9月	姫路聖マリア病院 医療コーチング講 演会 姫路	(概要) 「最高の病院になるために全病的なコーチングの導入」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
119	麻酔と手術のお話	平成26年 1月	T-PECアカデミー 東京	(概要) T-PECアカデミーでタイトル『麻酔と手術のお話』について下記のテーマについて講演した。①医者になった理由と麻酔科を専攻した理由、②麻酔のお話しあれこれ、③麻酔科医は病院経営のキーマン、④麻酔と手術を受けた時の気持ち、⑤アメリカでの麻酔と手術のお話、⑥『麻酔と手術のお話』、以上 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
120	地域における赤十字病院の果たす べき役割～最高の病院を目指して ～	平成26年 1月	桑名信用金庫総 代・役員新春講演 会 桑名	(概要) タイトル『地域における赤十字病院の果たすべき役割 ～最高の病院を目指して～』のもとに以下のテーマについて講演した。①自己紹介(石川 清略歴)、②医学部に入りなおした理由(8分)、③医者としてのやりがい(8分)、④思いもかけないバイパス手術を経験(15分)、⑤スーダン紛争被災者救援(10分)、⑥赤十字に身を置く誇り(8分)、⑦名古屋第二赤十字病院の概要(5分)、⑧院長としてのビジョン(5分)、⑨創立100周年に最高の病院を目指して(5分)、⑩全病的なコーチング導入(25分) (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
121	最高の病院になるために全病的 なコーチングの導入	平成26年 3月	中部医療の質管理 研究会 岐阜	(概要) 「最高の病院になるために全病的なコーチングの導入」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
122	リーダーが病院を変える～変革者 たちの軌跡と挑戦～「最高の病院 になるために全病的なコーチ ングの導入	平成26年 7月	メディカルコー チング研究会・総会 東京	(概要) 「リーダーが病院を変える～変革者たちの軌跡と挑戦～「最高の病院になるために全病的なコーチングの導入」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

123	最高の病院になるために全病院的なコーチングを導入“コーチングで病院を変える” “コーチングを病院の風土に”ー2年間の成果と課題ー	平成26年 9月	日本赤十字社診療放射線技師会第5回中部ブロック業務研修会 名古屋	(概要) 「最高の病院になるために全病院的なコーチングを導入“コーチングで病院を変える” “コーチングを病院の風土に”ー2年間の成果と課題ー」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
124	医療界にこそ必要なコーチング	平成26年 9月	TAKEDA Management Seminar in HIMEJI 姫路	(概要) 「医療界にこそ必要なコーチング」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
125	麻酔	平成26年 9月	国際救援における災害外傷セミナー 名古屋	(概要) 国際医療救援における災害外傷セミナー“麻酔”について赤十字国際委員会(ICRC)の要請により、2000年10月から3ヶ月間、ケニア国内のスーダン国境沿いにあるロキチョキオにある紛争犠牲者のためのロビディン外科病院で麻酔科医としてスーダン紛争犠牲者救援医療活動(ミッション)に参加した、経験を講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
126	全病院的なコーチング導入による病院の組織改革before/after～実際のコーチング風景大公開～	平成26年 11月	株式会社コーチエィクロズド・セミナー 東京	(概要) 「全病院的なコーチング導入による病院の組織改革before/after～実際のコーチング風景大公開～」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
127	医療界にこそ必要なコーチング～全病院的なコーチング導入3年間の成果と課題～	平成27年 1月	福島県立医科大学会津医療センター附属病院医療安全講演会 会津	(概要) 「医療界にこそ必要なコーチング～全病院的なコーチング導入3年間の成果と課題～」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
128	激変の医療環境の中、組織改革・組織風土創り(ミッションの浸透)に求められるもの	平成27年 10月	第69回日本赤十字社病院長連盟定期総会 北見	(概要) 「全激変の医療環境の中、組織改革・組織風土創り(ミッションの浸透)に求められるもの」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
129	コーチングによる組織改革	平成28年 3月	Japan Lean Experience UAE 2016 名古屋	(概要) 「コーチングによる組織改革」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
130	医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に!	平成28年 5月	医療安全全国共同行動主催病院管理者研修会 東京	(概要) 「医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に!」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤「柵コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

131	組織一丸となって 最高の組織になるために 病院一丸となって最高の病院になるために	平成28年 5月	名古屋政経研究会 総会・講演会 名古屋	(概要) 名古屋政経研究会総会にて、組織一丸となって 最高の組織になるために 病院一丸となって最高の病院になるためにについて講演した。①病院一丸となるために、②全病院的なコーチング導入、③コーチング、コーチング・スキルとは？④コーチング導入後の院内の主体的な動き、⑤病院一丸となって最高の病院になるために、以上(本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
132	人生のやりがいと赤十字に身を置く誇り	平成28年 6月	第13回西春日井地区国際理解教育研究会・講演会 清須	(概要) 出前授業「人生のやりがい」 『人生のやりがい』というタイトルで講義をした。話した内容は、①医学部に入りなおした理由、②集中治療を通しての医者としてのやりがい、③ラグビーも人生のやりがいの1つ、④医者としてのもう1つのやりがい～災害救護と国際救援～、④院長としてのやりがい、⑤赤十字病院に身を置く誇り、⑥定年退職後のやりがい、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
133	災害時における大学病院に求める役割	平成28年 7月	藤田保健衛生大学 病院講演会 豊明	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで、災害拠点病院としての大学病院の在り方について、以下のテーマで講演した。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
134	人生のやりがいと赤十字に身を置く誇り	平成28年 7月	愛知県赤十字有功会 名古屋	(概要) 出前授業「人生のやりがい」 『人生のやりがい』というタイトルで講義をした。話した内容は、①医学部に入りなおした理由、②集中治療を通しての医者としてのやりがい、③ラグビーも人生のやりがいの1つ、④医者としてのもう1つのやりがい～災害救護と国際救援～、④院長としてのやりがい、⑤赤十字病院に身を置く誇り、⑥定年退職後のやりがい、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
135	来たるべき南海トラフ地震に備えて	平成28年 9月	愛知食品流通研究会講演会 名古屋	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
136	激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？—いま医療界に求められるコーチング—	平成28年 10月	ハートセンター3 病院合同研究会全体講演会 豊橋	(概要) 「激変する医療環境の中、組織改革に求められるシステム・コーチング」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤楯コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
137	職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために	平成28年 11月	岩手県立病院医師連合会シンポジウム特別講演 盛岡	(概要) 当院の創立100周年を契機に取り組んだ全病院的な取り組みの中で、職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために、その手段として全病院的なコーチングを導入した。その経緯を説明し、当院での職員満足度向上に伴う幾つかの事例を紹介した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
138	逆境下のV字回復への戦略～名古屋第二赤十字病院の取り組み～	平成28年 11月	第9回日赤院長塾 東京	(概要) 当院が数年前に経験した経営の一大危機をV字回復で乗り切った経験を概説した。厳しい医療環境の中、経営の一大危機からV字回復への戦略として、組織改革が不可欠であり、そのためのシステム・コーチングは極めて有用であったことを説明した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
139	厳しい医療環境の中、経営の一大危機からV字回復への戦略	平成29年 1月	グローバルヘルス ジャパン新春セミナー 東京	(概要) 当院が数年前に経験した経営の一大危機をV字回復で乗り切った経験を概説した。厳しい医療環境の中、経営の一大危機からV字回復への戦略として、組織改革が不可欠であり、そのためのシステム・コーチングは極めて有用であったことを説明した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

140	医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に！	平成29年 1月	国立循環器病研究センター医療安全講習会 吹田	(概要) 病院の職員に必須となっている医療安全講座の講師として『医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に』というタイトルで講演した。内容は当院でのメディエーション、コーチングの取り組みを紹介し、職員間の良好なコミュニケーション創り上げるために、メディエーション・コーチングを病院の風土とすることが極めて重要であることを概説した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
141	来たるべき南海トラフ地震に備えて～過去の大地震から学んだ教訓～	平成29年 2月	名古屋民事調停協会特別講演会 名古屋	(概要) 過去の大災害では災害救護や国際救援に関わる中で、多くの経験から得たいくつかの教訓を得てきた。この地区で起こると予想されている来たるべき南海トラフ地震に備えて過去の大地震から学んだ教訓を紹介した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
142	激変の医療環境の中、組織変革に求められるものは？～いま医療界に求められるコーチング～	平成29年 3月	赤門ウイレックス株式会社講話 名古屋	(概要) 「激変する医療環境の中、組織改革に求められるシステムミック・コーチング」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
143	医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に！	平成29年 6月	愛知学院大学歯学部附属病院医療安全セミナー 名古屋	(概要) 病院の職員に必須となっている医療安全講座の講師として『医療安全文化醸成のためにメディエーション・コーチングを病院の風土に』というタイトルで講演した。内容は当院でのメディエーション、コーチングの取り組みを紹介し、職員間の良好なコミュニケーション創り上げるために、メディエーション・コーチングを病院の風土とすることが極めて重要であることを概説した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
144	逆境を乗り越える組織づくり 職員の意識改革をどのように実現するのか	平成29年 11月	株式会社日本経営共済セミナー 大阪	(概要) 「激変する医療環境の中、組織改革に求められるシステムミック・コーチング」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
145	激変する医療環境の中、組織改革に求められるシステムミック・コーチング	平成29年 11月	名古屋市千種区・名東区歯科医師会合同学術・医療管理講演会 名古屋	(概要) 「激変する医療環境の中、組織改革に求められるシステムミック・コーチング」というタイトルで、以下の内容について講演した。①名古屋第二赤十字病院の概要とビジョン、②全病院的なコーチング導入までの経緯、③「エクセレント・ホスピタル」からの学び、④NHK番組「クローズアップ現代」からの学び、⑤榊コーチ・エイのコーチング・プログラムの実践と導入の効果、⑥病院経営・医療安全・災害医療とコーチング、⑦最高の病院になるために、⑧“コーチングで病院を変える、コーチングを病院の風土に”、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
146	救急医療と病院経営	平成30年 1月	愛知県病院協会救急医療講演会 愛知県医師会 名古屋	(概要) 「救急医療と病院経営」というタイトルで次の内容を講演した。①救命救急センターも医療崩壊の危機に（10年前の「救急医療に関する講演」から）、②救急医療に関する諸問題とその対応、③病院経営に及ぼす救急医療の影響、④救急医療の充実による病院経営上の波及効果、⑤研修医教育への効果、⑥災害医療への効果、⑦その他の波及効果、⑧まとめ：病院経営上の救急医療の重要性、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
147	「逆境を乗り越える組織づくり 職員の意識改革をどのように実現するのか」 「組織改革に求められるシステムミック・コーチング」	平成30年 6月	日通システム株式会社ヘルスライフ本部合宿研修 日通システム株式会社別荘 長野市	(概要) 「「逆境を乗り越える組織づくり 職員の意識改革をどのように実現するのか」「組織改革に求められるシステムミック・コーチング」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステムミック・コーチング、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
148	逆境を乗り越える組織づくり～職員の意識改革をどのように実現するのか？～ 「組織改革に求められるシステムミック・コーチング」	平成30年 8月	平成30年度産業教育学科主任研修 愛知県教育センター 名古屋市	(概要) 「逆境を乗り越える組織づくり～職員の意識改革をどのように実現するのか？～「組織改革に求められるシステムミック・コーチング」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステムミック・コーチング、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

149	地域のための防災・減災訓練	平成30年 9月	半田市～地域のための防災・減災訓練～ 青山記念武道館 半田市	(概要) 「地域のための防災・減災訓練」というタイトルで以下の内容で講演した。①最近の国内外の自然災害13枚、②災害は忘れる前にやってくる、③南海トラフ地震について、④津波災害の話、⑤災害の迷信と現実、⑥災害時の諸問題、⑦災害医療と救急医療について、⑧芦屋市立病院ロビーの話、⑨県立西宮病院でのCPA症例、⑩大規模災害発生時に地域の基幹病院として果たす役割、⑪まとめ、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
150	来るべき南海トラフ地震に備えて～医療従事者に求められる心構え～	平成30年 9月	平成30年度第二回 防災訓練	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
151	職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために	平成30年 11月	岩手県地域医療支援病院・地域医療研修センター医療講演会	(概要) 「職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために」というタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステムミック・コーチング、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
152	コーチングで築く病院の未来 激変する医療環境下、～いまリーダーに求められるもの～	平成31年 1月	京都市立病院病院経営学習会	(概要) 「コーチングで築く病院の未来 激変する医療環境下、～いまリーダーに求められるもの～」というタイトルで以下の内容で講演を行った。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステムミック・コーチング、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
153	大規模災害時に本学園に求められるもの～災害医療救護活動～	平成31年 4月	平成30年度第1回 防災訓練	(概要) 防災教育～清須市総合防災訓練に向けて～以下の項目について講演した。①清須市総合防災訓練について、②防災訓練参加に当たっての心構え、③災害医療救護活動、④トリアージについて、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて本学園に求められるもの、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
154	職員満足度の高い組織になるために～組織改革に求められるシステムミック・コーチング～	令和元年 5月	日本歯科技工所協会第8回定時社員総会 特別記念講演会	(概要) 「職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために」というタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステムミック・コーチング、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
155	清須市総合防災訓練参加に当たっての心構え	令和元年 7月	防災教育 清須市総合防災訓練に向けて	(概要) 防災教育～清須市総合防災訓練に向けて～以下の項目について講演した。①清須市総合防災訓練について、②防災訓練参加に当たっての心構え、③災害医療救護活動、④トリアージについて、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて本学園に求められるもの、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
156	来るべき南海トラフ地震に備えて～災害医療の視点から～	令和元年 11月	清須市民げんき大学公開講座	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か？、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは？ トリアージとは？ 津波対策とは？、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
157	激変する環境下、いまリーダーに求められるもの～システムミック・コーチングによる組織改革～	令和元年 10月	東海財界倶楽部講演	(概要) 「激変する環境下、いまリーダーに求められるもの～システムミック・コーチングによる組織改革～」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佐愛学園での全学園的なシステムミック・コーチング導入である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

158	職員満足度と患者満足度がともに高い病院になるために～組織改革に求められるシステミック・コーチング	令和元年11月	愛知県医療法人協会青年医療部会	(概要) 「職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために」.というタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステミック・コーチング、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
159	来るべき南海トラフ地震に備えて～災害量の視点から～	令和元年11月	愛知医療学院短期大学市民公開講座	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か?、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは? トリアージとは? 津波対策とは?、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
160	職員満足度と患者満足度がともに高い病院になるために～コーチングによる組織改革～	令和2年1月	第55回高知日赤医学会	(概要) 「職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために」.というタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステミック・コーチング、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
161	来るべき南海トラフ地震に備え、私たちの心得～災害医療の視点から～	令和2年1月	令和元年度尾張中部地域保健師会研修会	(概要) 『来るべき南海トラフ地震に備えて』というタイトルで講演をした。内容は以下のとおりである。①過去の大災害から学んだ教訓、②阪神・淡路大震災と東日本大震災、③地震災害と津波災害、④超急性期・急性期・亜急性期の災害医療、⑤来るべき南海トラフ地震に備えて、⑥南海トラフ地震、明日はわが身か?、⑦災害や災害医療についての知識が大切、⑧災害医療とは? トリアージとは? 津波対策とは?、⑨成熟した病院になるために、以上。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
162	職員満足度と患者満足度がともに高い病院になるために～コーチングによる組織改革～	令和2年1月	第56回高知日赤医学会	(概要) 「職員満足度と患者満足度がともに高い最高の病院になるために」.というタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④職員満足度向上に必要なリーダーのコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥職員満足度向上から患者満足度へ、⑦組織改革に求められるシステミック・コーチング、である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
163	激変の環境下での組織改革に求められるものは?～システミック・コーチングによる組織改革～	令和2年7月	愛知県私立中学高等学校保護者会連合会議	(概要) 「激変する環境下、いまリーダーに求められるもの～システミック・コーチングによる組織改革～」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なシステミック・コーチング導入である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
164	【コーチング導入事例】学校法人佑愛学園～付加価値の高い、選ばれる大学へ	令和2年6月	スーペリア人材通信 https://www.yuai.ac.jp/	(概要) 「激変する環境下、いまリーダーに求められるもの～システミック・コーチングによる組織改革～」のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なシステミック・コーチング導入である。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
165	逆境を乗り越える組織創り～これからの学びと学校について考える～ 逆境を乗り越える組織創り～システミック・コーチングによる組織改革～	令和2年11月	令和2年度教育講演会	(概要) 逆境を乗り越える組織創り～これからの学びと学校について考える～ 逆境を乗り越える組織創り～システミック・コーチングによる組織改革～と題して以下の内容で講演した。①激変する医療環境下に求められるもの、②当院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥佑愛学園での全学園的なコーチング導入 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清
166	大規模災害時に求められるリハスタッフの役割～過去の大災害から学んだ教訓～	令和3年9月	同窓会令和3年度春季研修会	(概要) 東日本大震災以後の大災害で、被災者の生活不活発病や災害関連死を防ぐための災害リハビリテーションの重要性が強調され、その活動を行ってきたJRT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) が高い評価を受けています。今回は自分自身で経験した過去の大災害から学んだ教訓についてお話しするとともに、JRATの活動についても言及したいと思います。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川清

167	まさかの時代を乗り越える組織創り~システミック・コーチングによる組織改革~	令和4年 9月	9月度産業懇談会 木曜グループ	<p>(概要)</p> <p>まさかの時代を乗り越える組織創り~システミック・コーチングによる組織改革~のタイトルで以下の内容について講演した。①激変する医療環境下に求められるもの。②名古屋第二赤十字病院の概要と院長のビジョン、③最高の病院になるために全病院的なコーチング導入、④リーダーに必要なコーチング・スキル、⑤コーチング導入による院内の変化、⑥システミック・コーチングによる組織改革のこれからの展望(私見)について講演した。 (本人担当部分) 全て (発表者名) 石川 清</p>
<p>※ 下記の事項等を参考に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 査読論文 (本数、国内/海外等) ● 学会での発表・招待講演等 (国内/国際、全国/地方) ● 外部資金等 (科学研究費補助金、各種助成金) ● 芸術、体育等の業績 ● 学術講演・普及活動、その他の研究発信活動 ● 学術的な啓蒙書・翻訳書 ● 学術的な受賞・表彰等 ● その他特記事項 				